

信号変換器付ガス検知部

SD-3 シリーズ

Japan Ex 仕様

取扱説明書

オペレーションマニュアル

(PT2-287)

理研計器株式会社

〒174-8744 東京都板橋区小豆沢 2-7-6
ホームページ <https://www.rikenkeiki.co.jp/>

目次

1.	製品のアウトライン	4
1-1	はじめに	4
1-2	使用目的と特徴	6
1-2-1	型式及びコード	6
1-2-2	型式別の検知原理と検知対象ガス	7
1-2-3	本器の特徴	8
1-3	使用できる区域と条件	9
1-4	危険、警告、注記の定義	10
1-5	規格および防爆仕様の確認方法	10
2.	安全上、大切なお知らせ	11
2-1	危険事項	11
2-2	警告事項	11
2-3	注意事項	12
2-4	セーフティインフォメーション	13
3.	製品の構成	27
3-1	本体および付属品	27
3-1-1	本体(SD-3)	27
3-1-2	本体(SD-3SC)	28
3-1-3	リモートセンサヘッド(GD-3)	28
3-1-4	標準付属品	29
3-1-5	特別付属品(オプション)	30
3-2	各部の名称とはたらき	33
3-3	ブロックダイアグラム	34
4.	設置方法	36
4-1	設置に関する留意事項	36
4-1-1	設置に関する一般情報	36
4-1-2	設置に関する制限情報	37
4-2	システム設計上の留意事項	42
4-2-1	安定した電源を使用する	42
4-2-2	雷対策	42
4-3	メンテナンススペースの確保	43
4-4	本体の設置	45
4-4-1	垂直ポールへの取り付け	45
4-4-2	壁面への取り付け	46
4-4-3	保護カバーの取り付け	47
4-4-4	日除けカバーの取り付け	49
4-5	リモートセンサヘッド(GD-3)の設置	51
4-5-1	壁面への取り付け	51
4-5-2	ダクトへの取り付け	51
4-6	接地端子の接続	53
4-7	ケーブルの接続	54
4-7-1	本体のケーブルと機器の接続口	54
4-7-2	本体にケーブルを接続する	56
4-7-3	リモートセンサヘッド(GD-3)に電源ケーブルと信号ケーブルを接続する	59
4-7-4	本体(SD-3SC)とリモートセンサヘッド(GD-3)を接続する	62
4-7-5	端子台にケーブルを接続する	67
4-8	センサの取り付け	70
4-9	アラームリレーの設定(オプション)	71

4-10	スプラッシュガードの取り付け	74
5.	使用方法	76
5-1	始動準備	76
5-2	始動する	77
5-3	基本動作フロー	78
5-4	操作方法	79
5-5	ユーザーモード	80
5-5-1	ユーザーモードの設定項目	80
5-5-2	ユーザーモードに切り替える	81
5-6	ゼロ校正を行う	82
5-7	設定値を確認する	84
5-7-1	警報設定値を確認する	84
5-8	終了する	86
6.	保管・移設および廃棄について	87
6-1	保管または長期間使用しない場合の処置	87
6-2	移設または再度使用する場合の処置	89
6-3	製品の廃棄	89
7.	トラブルシューティング	91
7-1	機器の異常	91
7-2	指示値の異常	92
8.	製品仕様	94
8-1	原理別検知対象ガス	94
8-1-1	非分散型赤外線吸収方式(赤外線式)	94
8-1-2	ニューセラミック式	96
8-1-3	半導体式	97
8-1-4	熱線型半導体式	99
8-1-5	定電位電解式	101
	製品保証	102
	センサ保証	102

1

製品のアウトライン

1-1 はじめに

このたびは、信号変換器付ガス検知部 SD-3 シリーズ(以下、「本器」)をお買い上げいただきありがとうございます。
本取扱説明書は、本器の取り扱い方法と仕様を説明したものです。本器を正しく使用していただくために必要な事項が記載されています。

お使いになる前によくお読みいただき、内容を理解した上で本器をご使用ください。

また、この取扱説明書は本器をご使用中いつでもご覧いただけるよう、お手元に保管してください。

なお、本器のメンテナンスや設定変更の詳細については、弊社のホームページから取扱説明書(テクニカルマニュアル)をダウンロードしてご参照ください。

なお、製品改良のために、この説明書の内容を将来予告なしに変更することがあります。また、この説明書の全部または一部を無断で複写または転載することを禁じます。

保証期間の内外を問わず本器を使用することによって生じたいかなる事故および損害の補償はいたしません。
本書の巻末の保証規定を必ずご確認ください。

本器をご使用になる前に、お買い求めの製品型式と本取扱説明書が対象とする製品型式が一致することをご確認ください。

＜本取扱説明書が対象とする製品型式＞

	拡散式	吸引式
本体	SD-3RI	SD-3DRI
	SD-3NC	SD-3DNC
	SD-3GH	SD-3DGH
	SD-3SP	SD-3DSP
	SD-3EC	SD-3DEC
	SD-3ECS	SD-3DECS
	SD-3ECB	SD-3DECB
本体	SD-3SC	
リモート センサヘッド	GD-3RI	
	GD-3NC	
	GD-3GH	
	GD-3SP	
	GD-3EC	
	GD-3ECS	
	GD-3ECB	

＜本取扱説明書について＞

本取扱説明書では、検知原理によって説明が異なる内容は、それぞれ以下のアイコンで示しています。

非分散型赤外線吸収方式（赤外線式）	RI
ニューセラミック式	NC
半導体式	GH
熱線型半導体式	SP
定電位電解式	EC

アイコンのない操作方法や仕様はすべての検知原理で共通する内容となっています。

本取扱説明書の表示例では、検知対象ガスが可燃性ガス（単位表示：%LEL）の場合を例に記載します。

1-2 使用目的と特徴

本器は大気中の可燃性ガス、毒性ガス、酸素を連続監視するための定置式の防爆機器です。
大気中の可燃性ガス、毒性ガス、酸素を検知し、設定した濃度以上になると警報動作を行います。
検知結果により、生命、安全の保障をするものではありません。

1-2-1 型式及びコード

SD-3 ① ② (③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧)

【リモート式／本体部(SD-3SC)＋リモートセンサ部(GD-3 シリーズ)】

SD-3SC (③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧)

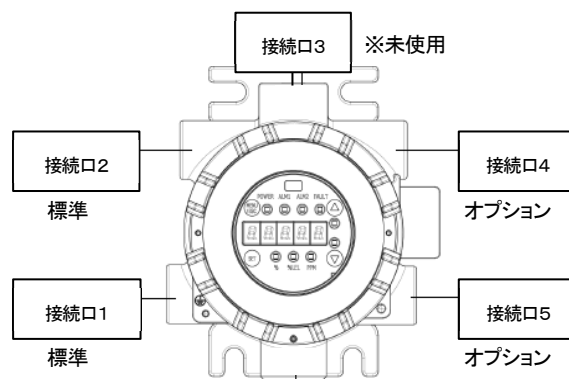
GD-3 ②

①	拡散・吸引の選択	
	無	拡散式
	D	吸引式(外部ユニットによる導入)
②	センサ種の選択	
	RI	非分散型赤外線吸収方式(赤外線式)
	NC	ニューセラミック式
	GH	半導体式
	SP	熱線型半導体式
	EC	定電位電解式(CO/O ₂ のみ選択可)
	ECS	定電位電解式 H ₂ S のみ選択可)
	ECB	定電位電解式(CO/O ₂ /H ₂ S 以外選択可)
③	ケーブル接続口	
	0	接続口 1＋接続口 2
	1	接続口 1＋接続口 2＋接続口 4＋接続口 5
④	防爆	
	1	ATEX/IECEX
	2	FM(US) 【Zone】※1
	3	Japan Ex
	4	cFM(CANADA) 【Zone】※1
	5	-
	6	台湾防爆(TS 認証)
	7	中国防爆(NEPSI)
⑤	機能安全 IEC61508	
	0	無
	1	SIL ※1

⑥	性能検定	
	0	無
	1	EN パフォーマンス※1
	2	US/CANADA パフォーマンス※1
	3	IEC パフォーマンス※1
⑦	レンジ設定※2	
	0	シングルレンジ
	1	W レンジ＋4-16(NC のみ選択可)
	2	W レンジ＋L4-20(NC のみ選択可)
	3	W レンジ＋H4-20(NC のみ選択可)
⑧	出力方式の選択	
	0	4-20mA with HART
	1	4-20mA with HART＋接点(3c)
	2	4-20mA＋RS-485

※1 適合状況はセンサにより異なります。

※2 W レンジを選択した場合、HART 通信はご使用できません。
また、SIL 認証や各種パフォーマンスも非対応です。



(例)ケーブル接続口

1-2-2 型式別の検知原理と検知対象ガス

本器は、サンプリング方式と検知原理により以下のような型式があります。
 ご使用前に仕様を再度ご確認ください、目的に応じた正しいガス検知を行ってください。

<型式別検知対象ガス一覧>

型式 本体	サン プリ ング 方式	検知原理	検知対象ガス			備考
			可燃性 ガス	毒性 ガス	酸素	
SD-3RI	拡散	非分散型赤外線吸収方式 (赤外線式)	○	○		
SD-3NC		ニューセラミック式	○			
SD-3GH		半導体式	○	○		
SD-3SP		熱線型半導体式	○	○		
SD-3EC		定電位電解式		○	○	
SD-3ECS		定電位電解式		○		H ₂ S(硫化水素)のみ
SD-3ECB		定電位電解式		○		EC バリア付き※
SD-3DRI	吸引	非分散型赤外線吸収方式 (赤外線式)	○	○		
SD-3DNC		ニューセラミック式	○			
SD-3DGH		半導体式	○	○		
SD-3DSP		熱線型半導体式	○	○		
SD-3DEC		定電位電解式		○	○	
SD-3DECS		定電位電解式		○		H ₂ S(硫化水素)のみ
SD-3DECB		定電位電解式		○		EC バリア付き※

※ 検知対象ガスにより異なります。

<型式別検知対象ガス一覧(リモート式)>

型式 本体	SD-3SC
-------	--------

型式 リモート センサヘッド	サンプリング 方式	検知原理	検知対象ガス			備考
			可燃性 ガス	毒性 ガス	酸素	
GD-3RI	拡散	非分散型赤外線吸収方式 (赤外線式)	○	○		
GD-3NC		ニューセラミック式	○			
GD-3GH		半導体式	○	○		
GD-3SP		熱線型半導体式	○	○		
GD-3EC		定電位電解式		○	○	
GD-3ECS		定電位電解式		○		H ₂ S(硫化水素)のみ
GD-3ECB		定電位電解式		○		EC バリア付き※

※ 検知対象ガスにより異なります。

<検知原理とセンサ型式>

センサ型式	検知原理
IRF	非分散型赤外線吸収方(赤外線式)
NCF	ニューセラミック式
SGF	半導体式
SHF	熱線型半導体式
ESF	定電位電解式

1-2-3 本器の特徴

<標準仕様>

- ・ 本器は、屋内、および屋外の両方の用途に適したステンレス鋼の筐体で構成されています。
- ・ 動作には DC 24 V(DC 18 V - DC 30 V)の電圧の供給が必要です。
- ・ ガス濃度、ステータス、およびコマンド選択メニューは 7 セグメント LED に表示されます。
- ・ 検知したガス濃度値を 4 - 20 mA アナログ出力(NAMUR NE43 に準拠)、またはデジタル HART 出力信号に変換し、出力します。
- ・ 付属の認証されたケーブルグランドを通して、弊社の監視システム、またはプログラムロジックコントローラ(PLC)に接続することができます。

<オプション仕様>

- ・ アラームリレーを設定して本器を単独ユニットとして操作することができます。単独ユニットにすると、中央コントローラを必要とせずに機器を操作することができます。※1

※1 単独ユニットとして使用するには、追加のアラーム信号の設定が必要です。

1-3 使用できる区域と条件

本器は、爆発性ガスグループⅡA、ⅡB またはⅡC のガスが存在する可能性のある場所での使用が認可されています。これは、本器の使用温度範囲内で、Zone1または Zone2に分類される危険区域に限り、使用されることを意図しています。

1-4 危険、警告、注記の定義

本取扱説明書では、表示内容を見逃して誤った取り扱いをしたときに生じる被害の程度を、以下のように区分して説明します。

 危険	取り扱いを誤った場合、人命、人体または物に重大な被害を及ぼすことが想定されることを意味します。
 警告	取り扱いを誤った場合、身体または物に重大な被害を及ぼすことが想定されることを意味します。
 注意	取り扱いを誤った場合、身体または物に軽微な被害を及ぼすことが想定されることを意味します。

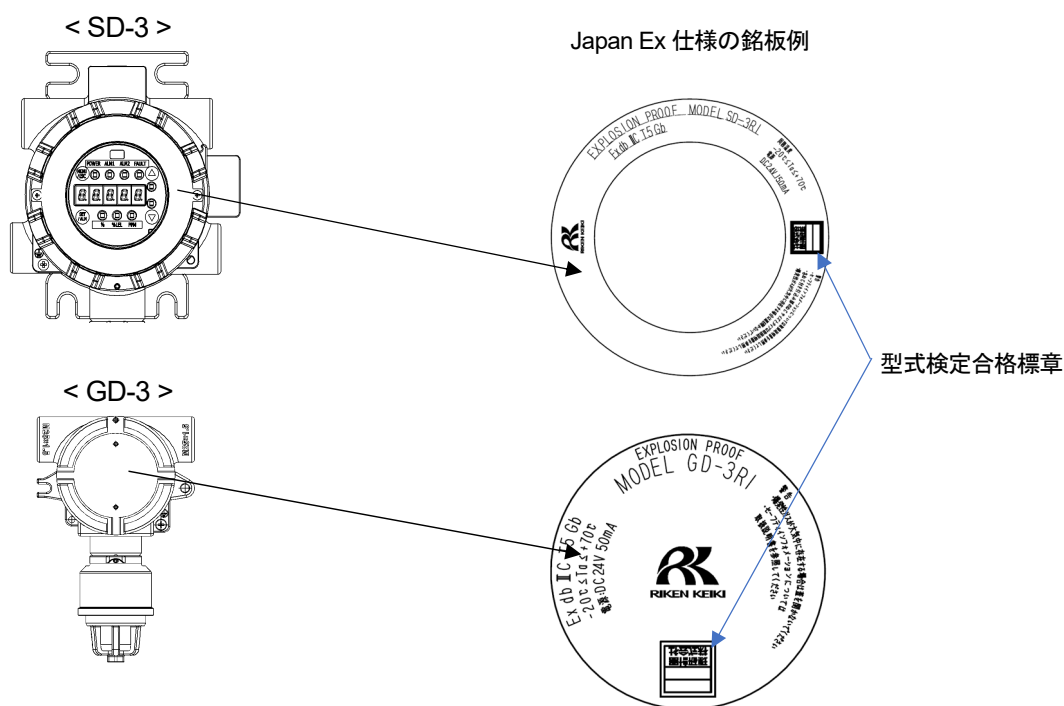
その他、取り扱い上のアドバイスを、以下のように表示して説明します。

注記	本器を取り扱う上で知っていると役に立つ事項を意味します。
-----------	------------------------------

1-5 規格および防爆仕様の確認方法

本器は、規格や防爆検定の種類によって仕様が異なります。ご使用になる前に、お手元にある製品の仕様をご確認ください。

製品の仕様は、製品に下図の通り貼付された銘板よりご確認ください。



2

安全上、大切なお知らせ

2-1 危険事項



危険

- 通電状態では蓋を開けないでください。蓋を開ける場合はポータブルガス検知器などを使用して周囲にガスがないことを確認してください。
- 本器の修理を行わないでください。
- 防爆接合面は修理、および交換をしないでください。容器や防爆接合面にキズ、クラック、変形などがみられた場合は、直ちに使用を中止して速やかに販売店または最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。

2-2 警告事項



警告

- 電源供給時には、所定の電圧であることを必ず確認した上で本器に電源を供給してください。所定の電圧以外で使用すると、機器の破損につながります。また、不安定な電源は誤動作を起こすおそれがあるため、使用しないでください。
- 本器の保護接地線を切断したり、保護接地端子の結線を外したりしないでください。
- 本器を動作させる前には保護機能に欠陥がないか確認してください。保護接地などの保護機能に欠陥があると思われる場合は、本器を動作しないでください。
- 保護接地を確実に行ってから外部制御回路への接続を行ってください。
- ゼロ校正を周辺空気で行う場合は、周辺が清浄な大気であることを確認してから行ってください。雑ガスなどが存在する状態でゼロ校正を行うと、正しい校正ができません。また、ガスが漏洩している場合、正しく検知できず大変危険です。
- ガス警報が発報された場合は大変危険です。お客様の判断により安全を確保した上で、適切な処置を行ってください。
- 本器を有機溶剤などに長期間、浸漬しないでください。フレームアレスタを構成している部品の材質は、ポリフェニレンサルファイド(PPS)樹脂製です。

2-3 注意事項



注意

- 本器の近くやケーブルの近くでトランシーバなどによる電波を発すると、本器の動作に影響を及ぼす場合があります。トランシーバなどを使用する場合には、動作に影響の出ないところで使用してください。
- 電源を再供給する場合は 10 秒以上の間隔を空けてください。すぐに電源を再供給すると正常に動作しない場合があります。
- 本器は制御機器ではありません。本器の外部出力を利用して他の機器の制御に利用することは絶対にしないでください。
- 本器を分解したり、改造したりしないでください。本器を分解、改造すると、性能が保証できなくなります。
- 内容を把握せずむやみに設定を変更しないでください。場合によっては、警報が正常に動作しなくなることがあります。本取扱説明書に記載されている以外の操作はしないでください。
- 本器は保安計器です。安全確保のため、必ず定期的に点検を行ってください。点検を行わずに使用を続けると、センサの感度が劣化し、正常なガス検知が行えません。

2-4 セーフティインフォメーション

＜本器の概要＞

- ・ 本器は、耐圧防爆構造のガス検知部です。
- ・ センサ部は、検知原理により 3 種類の構造に分けられます。サンプリング方式は、拡散式と吸引式の 2 種類があります。吸引式の場合は、吸引キャップを取り付けて使用してください。
- ・ 本器は、定置式の連続監視検知部です。ガス監視制御装置、記録装置、プログラム可能な制御装置に接続し、測定ガスの指示値を 4 - 20 mA、または HART 信号として出力します。
- ・ 本器の出力仕様には、以下の 3 つのオプションがあります。
 - ・ アラームリレーなし/デジタル通信なし
 - ・ アラームリレー(接点出力) × 3 (アラームリレーはガス警報、または故障と連動して動作します。)/デジタル信号なし
 - ・ アラームリレーなし/デジタル通信(RS-485 出力)
- ・ EC バリアを使用することで、電気化学式センサを本質安全防爆構造としています。

＜検知原理と型式＞

- ・ 各検知原理に対応する型式は以下のとおりです。型式は、検知原理およびサンプリング方式によって分類されています。

検知原理(サンプリング方式:拡散式)		型式
光センサ	非分散型赤外線吸収方式(赤外線式)	SD-3RI
固体センサ	半導体式	SD-3GH
	ニューセラミック式	SD-3NC
	熱線型半導体式	SD-3SP
電気化学式センサ	定電位電解式	SD-3EC
		SD-3ECS
		SD-3ECB

検知原理(サンプリング方式:吸引式)		型式
光センサ	非分散型赤外線吸収方式(赤外線式)	SD-3DRI
固体センサ	半導体式	SD-3DGH
	ニューセラミック式	SD-3DNC
	熱線型半導体式	SD-3DSP
電気化学式センサ	定電位電解式	SD-3DEC
		SD-3DECS
		SD-3DECB

- SD-3SC をリモートセンサヘッド(GD-3)と組み合わせたときの型式は以下のとおりです。

検知原理(サンプリング方式:拡散式)		型式	
		GD-3 (リモートセンサヘッド)	SD-3
光センサ	非分散型赤外線吸収方式(赤外線式)	GD-3RI	SD-3SC
固体センサ	半導体式	GD-3GH	
	ニューセラミック式	GD-3NC	
	熱線型半導体式	GD-3SP	
電気化学式センサ	定電位電解式	GD-3EC	
		GD-3ECS	
		GD-3ECB	



警告

- SD-3EC 及び SD-3DEC、GD-3EC は、センサに取り付けられているフレームアレスタの防爆構造と EC バリアの有無によって型式が分類されます。
型式の異なるフレームアレスタを使用すると、本来の防爆性能を維持できなくなります。異なるフレームアレスタへの交換はしないでください。
- SD-3GH 及び SD-3DGH、GD-3GH は、センサに取り付けられているフレームアレスタの防爆構造によって型式が分類されます。
型式の異なるフレームアレスタを使用すると、本来の防爆性能を維持できなくなります。異なるフレームアレスタへの交換はしないでください。

＜防爆性能データ＞

本器は、型式により防爆性能を維持できる周囲温度が変わります。
以下の各型式の性能データを参照してください。

型式	防爆構造	グループ	カテゴリー	防爆等級	EPL	周囲温度※1
SD-3RI	d	II	2G	Ex db IIC T5	Gb	-20 °C ≤ Ta ≤ +70 °C
SD-3DRI						
GD-3RI						
SD-3GH	d	II	2G	Ex db IIC T4	Gb	-20 °C ≤ Ta ≤ +70 °C
SD-3DGH						
GD-3GH						
SD-3NC	d	II	2G	Ex db IIC T4	Gb	-20 °C ≤ Ta ≤ +70 °C
SD-3DNC						
GD-3NC						
SD-3SP	d	II	2G	Ex db IIC T4	Gb	-20 °C ≤ Ta ≤ +70 °C
SD-3DSP						
GD-3SP						
SD-3EC	d	II	2G	Ex db IIC T4	Gb	-20 °C ≤ Ta ≤ +70 °C
SD-3DEC						
GD-3EC						
SD-3ECS	d	II	2G	Ex db IIC T4	Gb	-20 °C ≤ Ta ≤ +70 °C
SD-3DECS						
GD-3ECS						
SD-3ECB	d+i	II	2G	Ex db ia IIC T4	Gb	-20 °C ≤ Ta ≤ +70 °C
SD-3DECB						
GD-3ECB						
SD-3SC	d	II	2G	Ex db IIC T6	Gb	-20 °C ≤ Ta ≤ +70 °C

※1 周囲温度は防爆性能を維持できる温度範囲であり、製品性能を満足する温度範囲ではありません。使用温度範囲については、'8-1 原理別検知対象ガス'を参照してください。

＜電気データ＞

型式	供給電圧	消費電力	信号出力	オプション(1つ選択)		
				アラームリレーなし デジタル通信なし	アラームリレー (接点出力) 抵抗負荷のみ	デジタル通信
SD-3RI	DC 24 V (DC 18 V - DC 30 V Max)	3.8 W Max	0 - 22 mA with HART	—	DC 30 V 1 A AC 250 V 2 A	RS485 出力
SD-3DRI		1.2 W Max	—	—	—	—
GD-3RI						
SD-3GH	DC 24 V (DC 18 V - DC 30 V Max)	4.5 W Max	0 - 22 mA with HART	—	DC 30 V 1 A AC 250 V 2 A	RS485 出力
SD-3DGH		2 W Max	—	—	—	—
GD-3GH						
SD-3NC	DC 24 V (DC 18 V - DC 30 V Max)	4.5 W Max	0 - 22 mA with HART	—	DC 30 V 1 A AC 250 V 2 A	RS485 出力
SD-3DNC		2 W Max	—	—	—	—
GD-3NC						
SD-3SP	DC 24 V (DC 18 V - DC 30 V Max)	3.5 W Max	0 - 22 mA with HART	—	DC 30 V 1 A AC 250 V 2 A	RS485 出力
SD-3DSP		1 W Max	—	—	—	—
GD-3SP						
SD-3EC	DC 24 V (DC 18 V - DC 30 V Max)	2.8 W Max	0 - 22 mA with HART	—	DC 30 V 1 A AC 250 V 2 A	RS485 出力
SD-3DEC		1 W Max	—	—	—	—
GD-3EC						
SD-3ECS	DC 24 V (DC 18 V - DC 30 V Max)	2.8 W Max	0 - 22 mA with HART	—	DC 30 V 1 A AC 250 V 2 A	RS485 出力
SD-3DECS		1 W Max	—	—	—	—
GD-3ECS						
SD-3ECB	DC 24 V (DC 18 V - DC 30 V Max)	3.1 W Max	0 - 22 mA with HART	—	DC 30 V 1 A AC 250 V 2 A	RS485 出力
SD-3DECB		1 W Max	—	—	—	—
GD-3ECB						
SD-3SC	DC 24 V (DC 18 V - DC 30 V Max)	5 W Max	0 - 22 mA with HART	—	DC 30 V 1 A AC 250 V 2 A	RS485 出力

＜防爆上の特別な使用条件＞

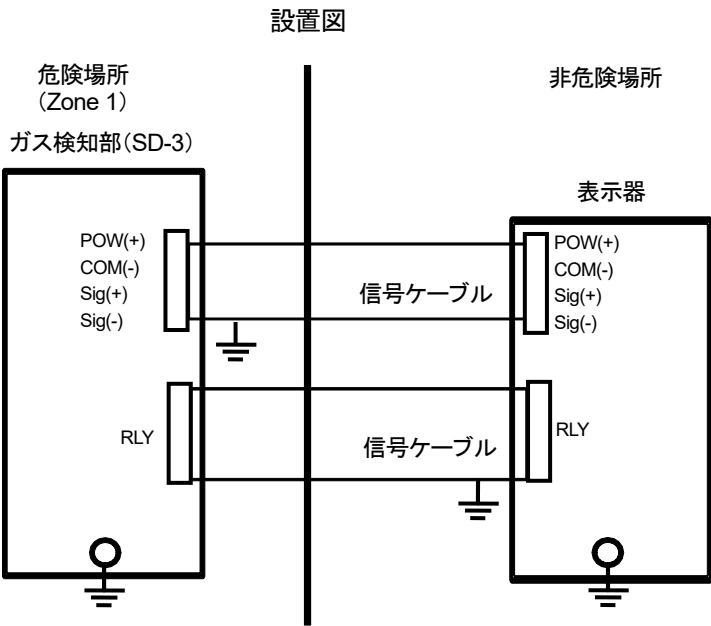
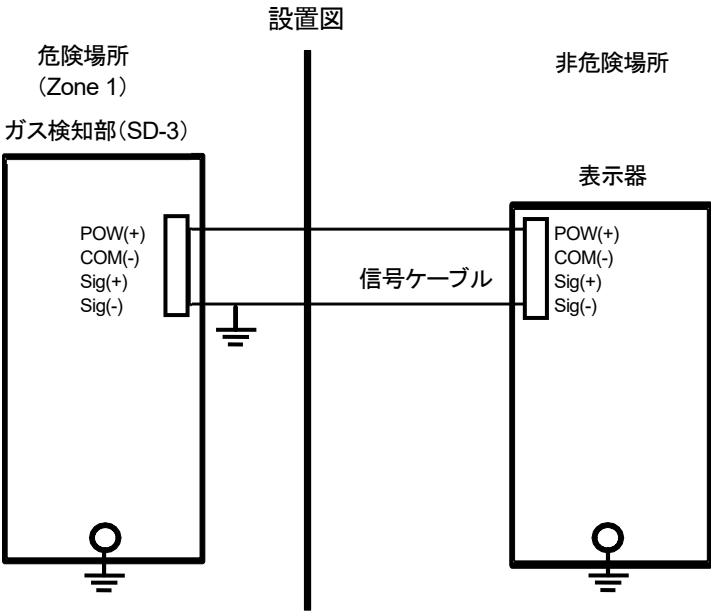
※ 合格番号末尾の“X”は、以下の特別な使用条件を示しています。

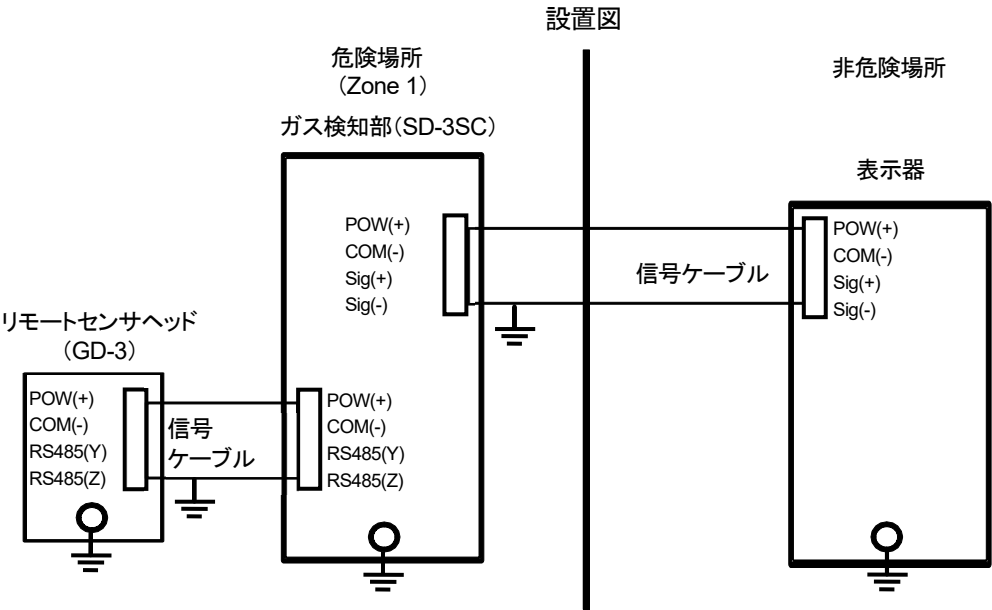
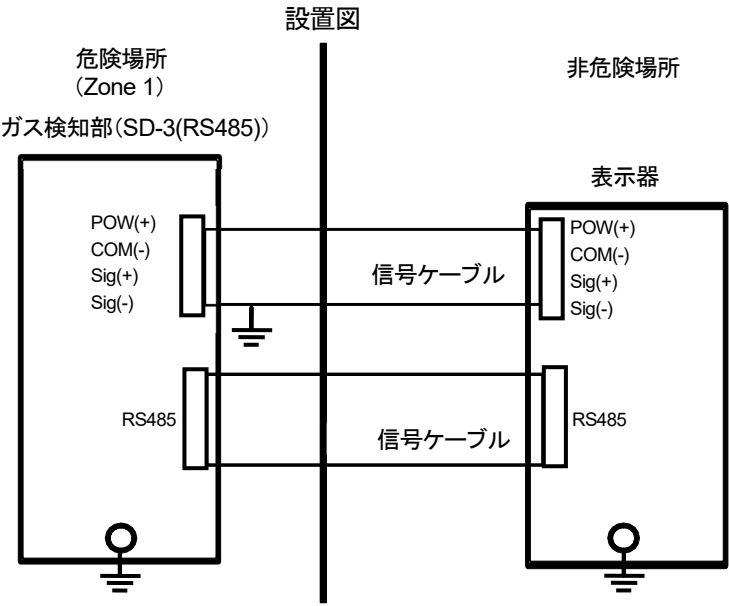
- ・ 防爆接合部の修理を行わないでください。
- ・ 窓板に強い衝撃が加わることで、破損などにより防爆性能を損なうおそれがあります。本器は、機械的損傷のおそれ“低(2J)”の防爆条件を適用しています。
- ・ 使用、保守および清掃作業時は、銘板部を乾いた布などで擦らないでください。最大 6nF の静電容量が蓄積される可能性があります。
- ・ お客様による電池交換はしないでください。

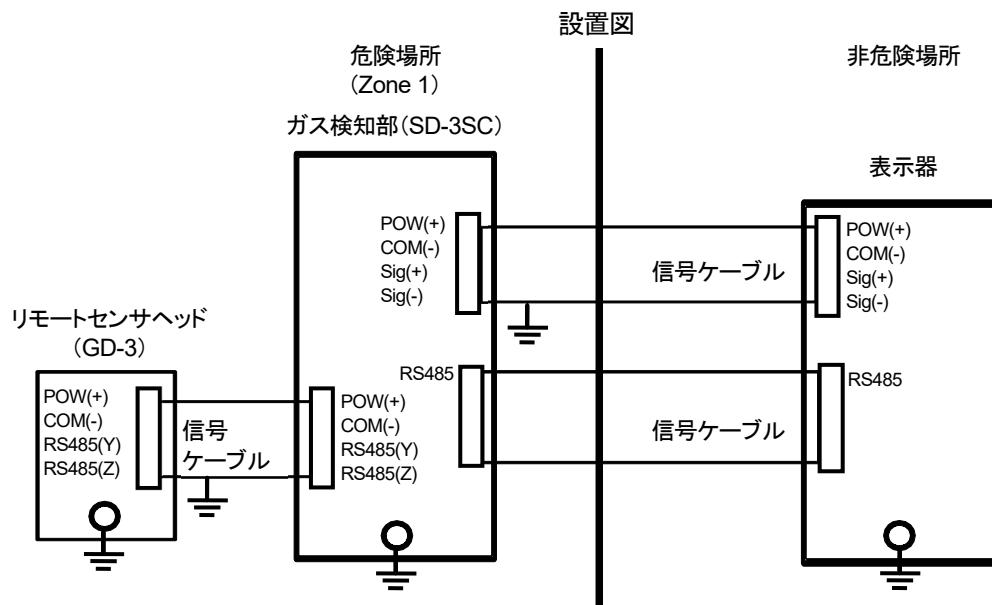
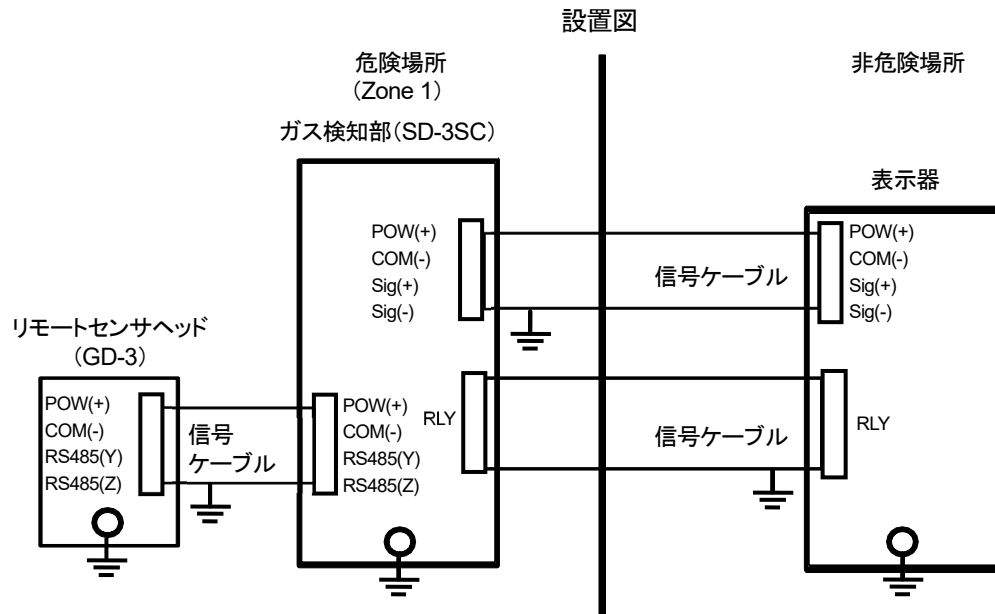
＜適用規格＞

- ・ 工場電気設備防爆指針(国際整合技術指針)
- ・ JNIOOSH-TR-46-1:2015
- ・ JNIOOSH-TR-46-2:2018

<システム構成図>







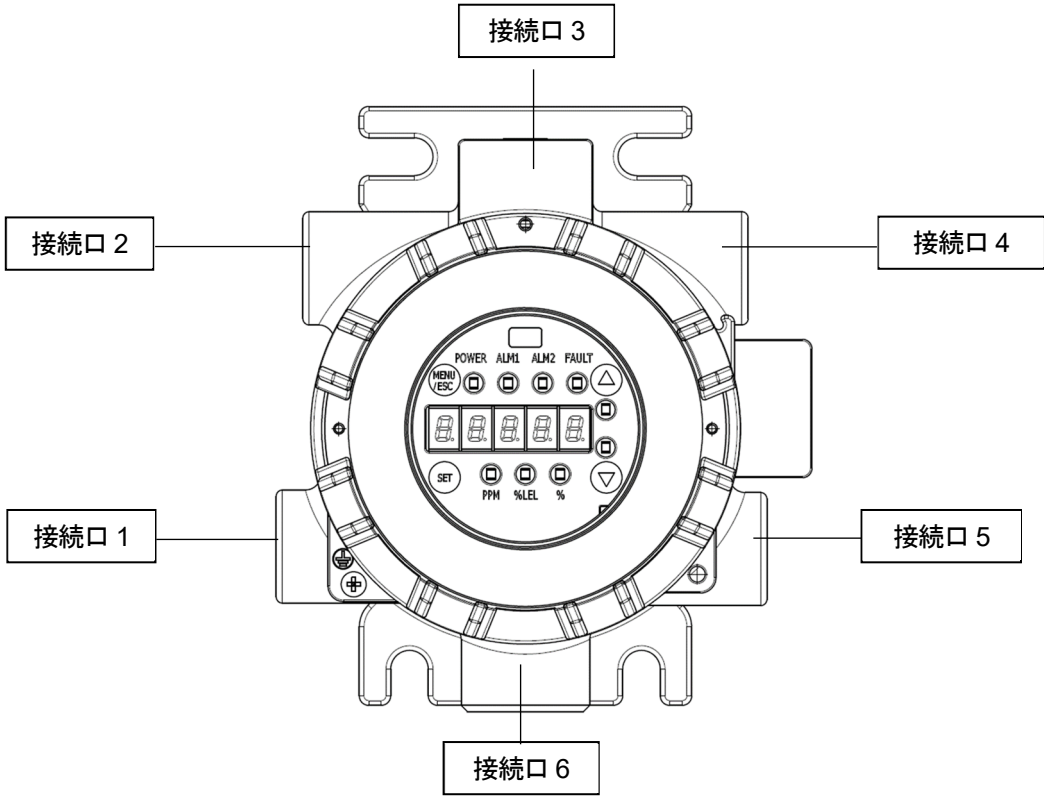
**注意**

- 設置は、設置要件に従ってください。
- 本器を分解、改造、変更しないでください。
- ガス校正を含め、再調整や部品の交換を行う場合は、販売店または最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。
- 接地線、または接合導体の接続にはケーブルラグを使用してください。また、接合導体は、緩みやねじれがないよう取り付けてください。
- 爆発性ガスが大気中に存在する場合は蓋を開かないでください。
- 流路、およびセンサ部内の最大圧力は 10.13 kPa(ゲージ圧)です。
- 本器に電源を供給する前に、必ず接地端子に接続してください。
- 接地処理は D 種接地相当とします(接地抵抗 100 Ω 未満)。
- 圧着端子を使用して、接地線をユニット内部の接地端子に接続してください。また、外部接地端子には断面積が 4 mm² 以上のケーブルを使用してください。
- 設置時は、認証されたケーブルグランドを使用してください。
- 周囲温度が 65 °C を超える場所に本器を設置する場合は、最大周囲温度より 5 °C 以上高い温度で使用可能なケーブルを適切に選定し、使用してください。
- 蓋の窓に強い圧力や衝撃を与えないでください。防爆性能が損傷によって失われるおそれがあります。(機械的危険性は低いことが試験で確認されています(2 ジュール)。)
- ねじアダプターを用いるときはそれぞれの接続口に対し、ねじアダプターを 2 個以上用いないでください。

**注意****吸引式の場合**

- 流量 0.4 以上 1.5 L/min 以下で使用してください。

＜接続口のねじの種類とサイズ(SD-3、SD-3SC)＞



＜標準＞

接続口 1	接続口 2	接続口 3	接続口 4	接続口 5	接続口 6
M25 × 1.5	M25 × 1.5	—	—	—	M25 × 1.5

- ・ “—”は、接続口がないことを示しています。
- ・ 接続口 1、2、6 はケーブル挿入口として使用できます。ただし、接続口 6 は本体(SD-3SC)とリモートセンサヘッド(GD-3)をケーブルで接続する場合に使用してください。リモートセンサヘッド(GD-3)を接続する場合は、当社指定のケーブルグランドを使用してください。
- ・ 未使用の接続口はブランキングプラグで塞いでください。
- ・ 各接続口の用途の詳細は、‘4-7 ケーブルの接続’を参照してください。

＜オプション＞

オプションとして接続口 4、5 をねじ加工した以下のラインナップがあります。

接続口 1	接続口 2	接続口 3	接続口 4	接続口 5	接続口 6
M25 × 1.5	M25 × 1.5	—	M25 × 1.5	M25 × 1.5	M25 × 1.5

- ・ “—”は、接続口がないことを示しています。
- ・ 接続口 1、2、4、6 はケーブル挿入口として使用できます。ただし、接続口 6 は本体(SD-3SC)とリモートセンサヘッド(GD-3)をケーブルで接続する場合に使用してください。リモートセンサヘッド(GD-3)を接続する場合は、当社指定のケーブルグランドを使用してください。
- ・ 同時に使用できる外部ケーブルの接続口は 2 つです。(リモートセンサヘッド(GD-3)との接続ケーブルは除く)
- ・ 接続口 5 はオプションの HART モデム用コネクタを使用して、HART 通信を行う場合に使用します。外部ケーブルの挿入などに使用しないでください。HART 通信を行わない時は、ブランキングプラグで塞いでください。
- ・ 未使用の接続口はブランキングプラグで塞いでください。
- ・ 各接続口の用途の詳細は、‘4-7 ケーブルの接続’を参照してください。

＜接続可能なコンポーネント(SD-3、SD-3SC)＞

本体(SD-3、SD-3SC)に接続可能なコンポーネントは以下のとおりです。

	接続口 1	接続口 2	接続口 3	接続口 4	接続口 5	接続口 6
センサアセンブリ	×	×	×	×	×	○
EC バリア	×	×	×	×	×	○
指定ケーブルグランド	○	○	×	○	×	○
M25 プラグ	○	○	×	○	○	×

○:接続可

×:接続不可

注記

- ▶ 設置時は、当社指定のケーブルグランドを使用してください。
- ▶ 本体(SD-3、SD-3SC)の各接続口に適したコンポーネントを接続してください。
- ▶ M25 プラグは、30 N・m 以上のトルク値で締め付けてください。
- ▶ ねじのかみ合い山数は、5 山以上を確保してください。

注記

- ▶【指定ケーブルグランド】

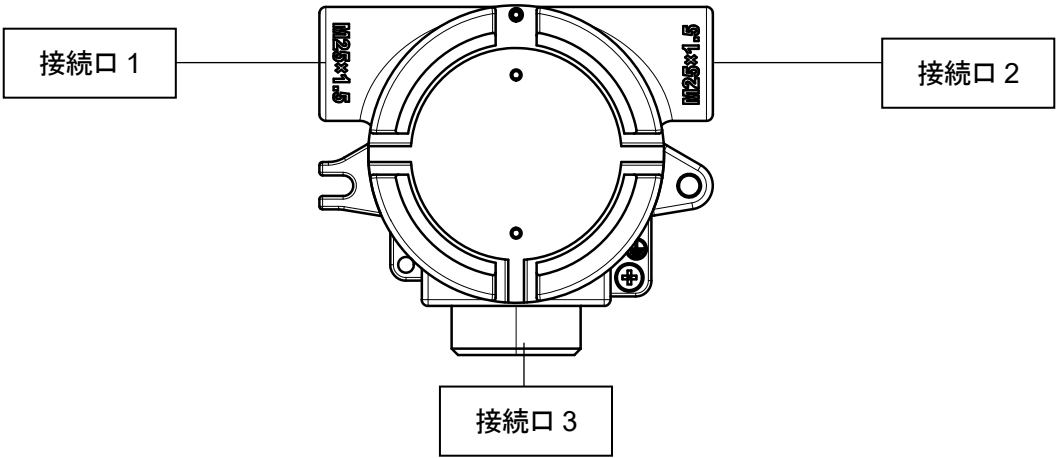
メーカー: 島田電機株式会社

型式: EXTC-****

材質: SUS304

※EXTC-16MM-1～3 を使用する場合は、当社指定のねじアダプタ(M25⇄M20)を使用してください。

<接続可能なコンポーネント(GD-3)>



リモートセンサヘッド(GD-3)に接続可能なコンポーネントは以下のとおりです。

	接続口 1	接続口 2	接続口 3
センサアセンブリ	×	×	○
EC バリア	×	×	○
指定ケーブルグランド	○	○	×
M25 プラグ	○	○	○

○:接続可
×:接続不可

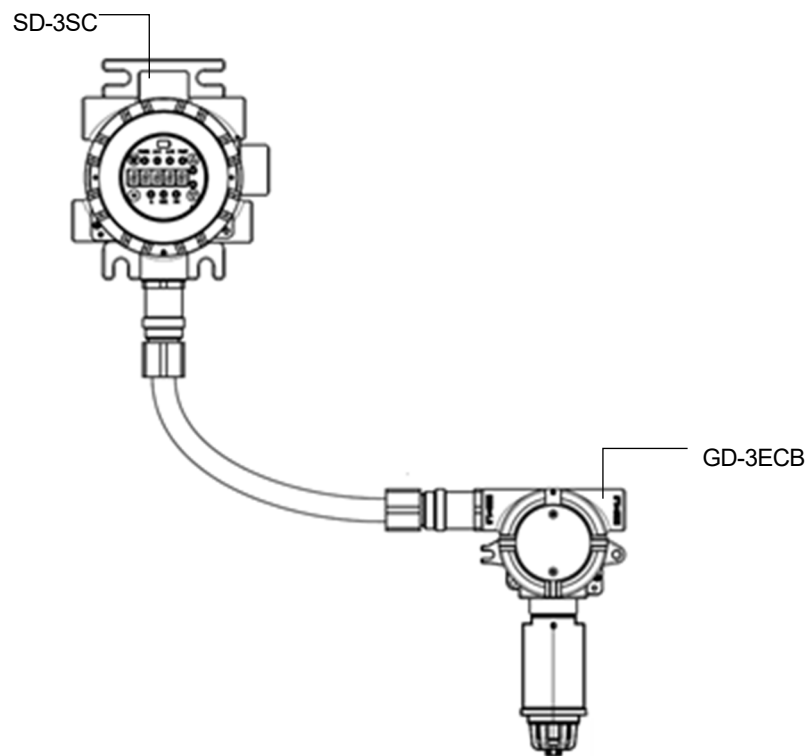
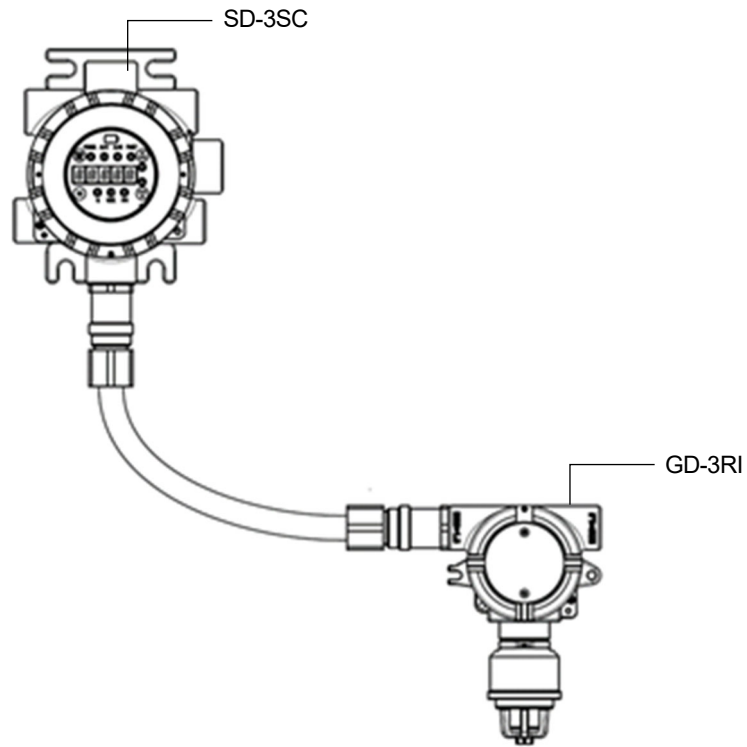
注記

- ▶ 設置時は、当社指定のケーブルグランドを使用してください。
- ▶ リモートセンサヘッド(GD-3)の各接続口に適したコンポーネントを接続してください。
- ▶ M25 プラグは、30 N・m 以上のトルク値で締め付けてください。
- ▶ ねじのかみ合い山数は、5 山以上を確保してください。

注記

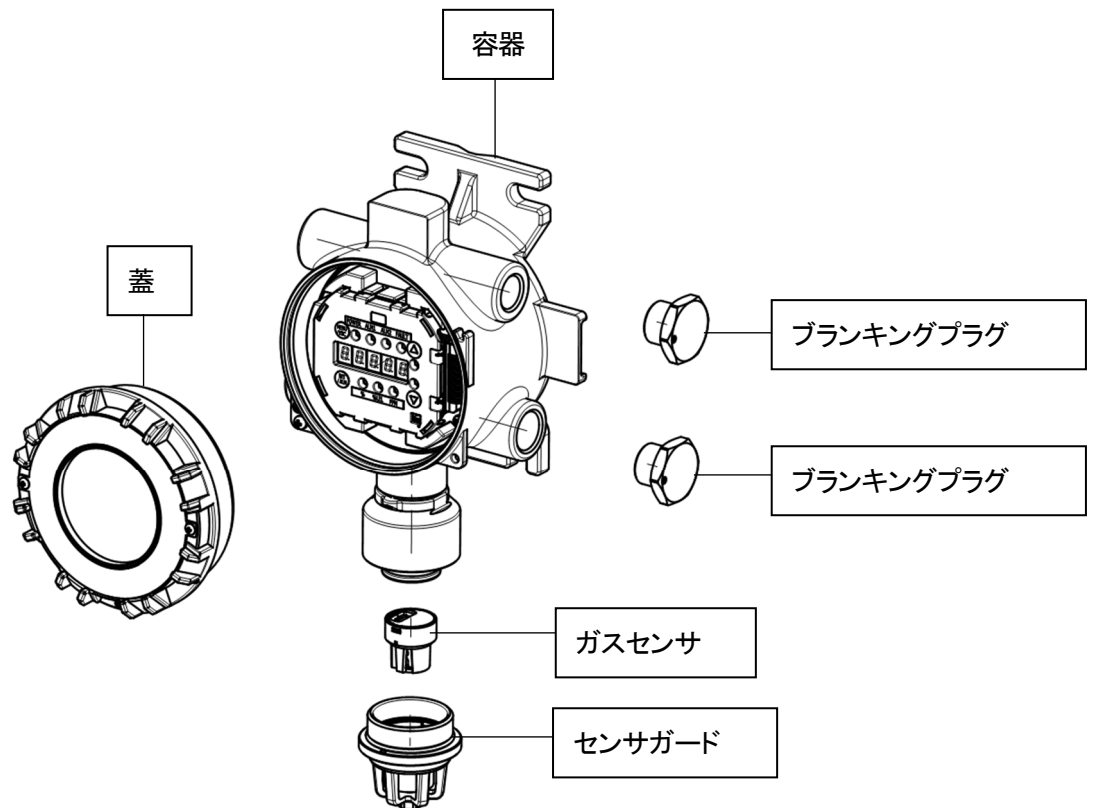
- ▶【指定ケーブルグランド】
メーカー: 島田電機株式会社
型式: EXTC-****
材質: SUS304
※EXTC-16MM-1～3 を使用する場合は、当社指定のねじアダプタ(M25⇄M20)を使用してください。

<接続例>

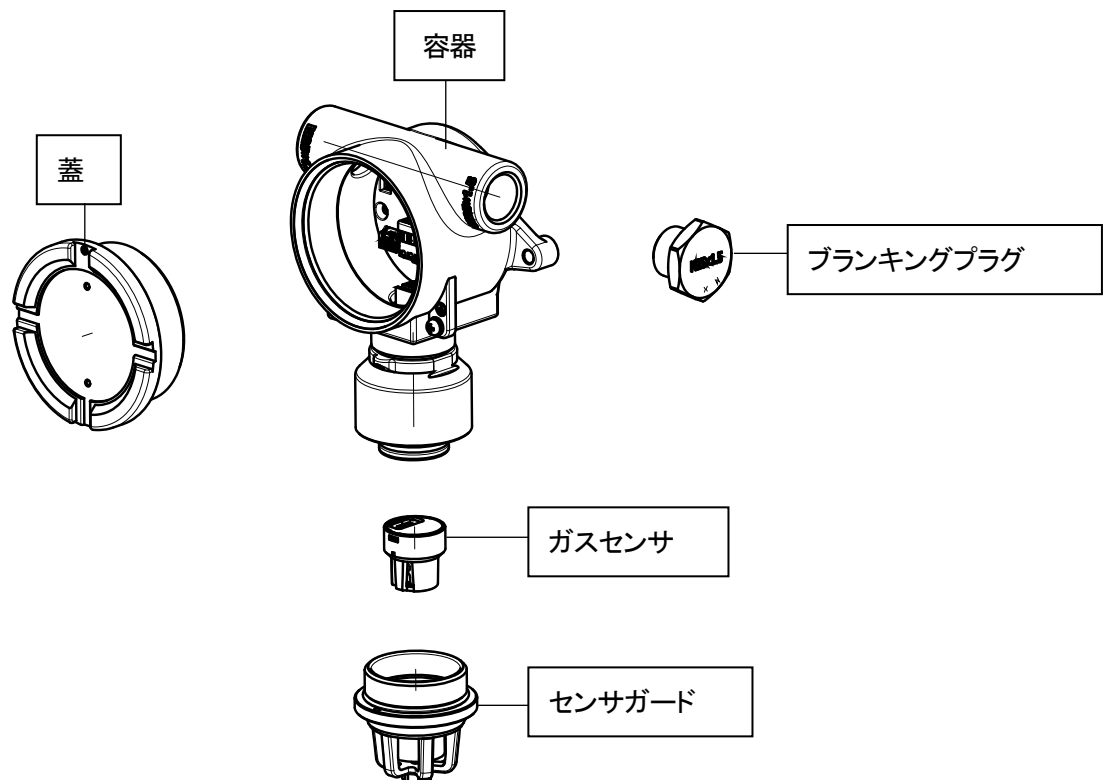


<分解図>

<SD-3>



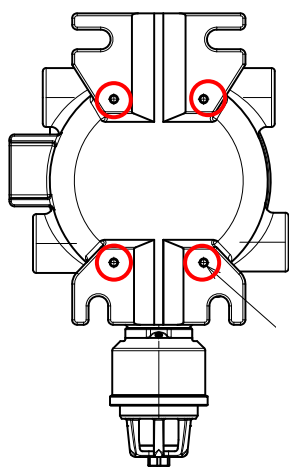
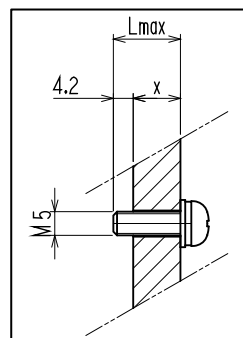
<GD-3>



＜容器背面のねじ穴(SD-3)＞

本体容器の背面に 4 か所のねじ穴があります。

- ・ ねじサイズ:M5
- ・ ピッチ:0.8
- ・ ねじ深さ:5
- ・ おねじの最大許容長さ: $L_{max} = 4.2 \text{ mm} + x$
（“x”は中間パーツの厚さ）

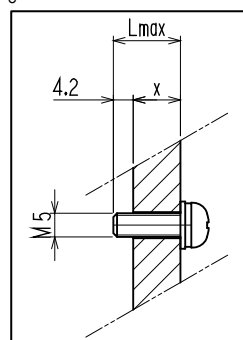


容器背面のねじ穴(4 か所)

＜容器背面および下面のねじ穴(GD-3)＞

本体容器の背面に 4 か所、下面に 4 か所のねじ穴があります。

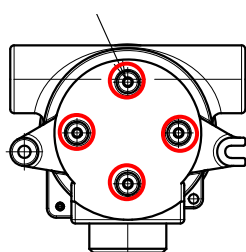
- ・ ねじサイズ:M5
- ・ ピッチ:0.8
- ・ ねじ深さ:5
- ・ おねじの最大許容長さ: $L_{max} = 4.2 \text{ mm} + x$
（“x”は中間パーツの厚さ）



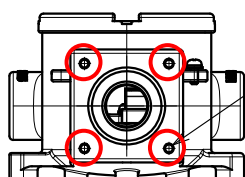
＜容器背面＞

＜容器下面＞

容器背面のねじ穴(4 か所)



容器下面のねじ穴(4 か所)



3

製品の構成

3-1 本体および付属品

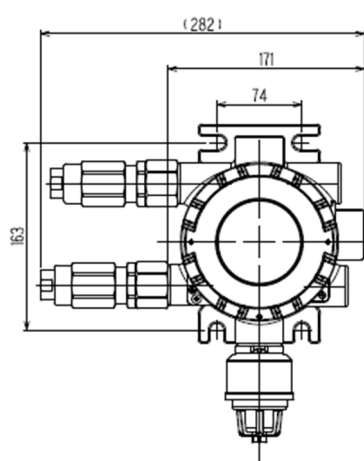
梱包箱を開けて、本体および付属品を確認してください。

万一、足りないものがありましたら、販売店または最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。

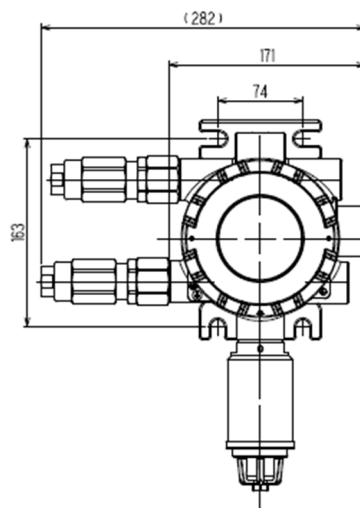
3-1-1 本体(SD-3)

＜拡散式＞※ケーブルグランド(最大2つまで)の接続位置は注文時にご指定ください。

＜EC バリア無仕様＞

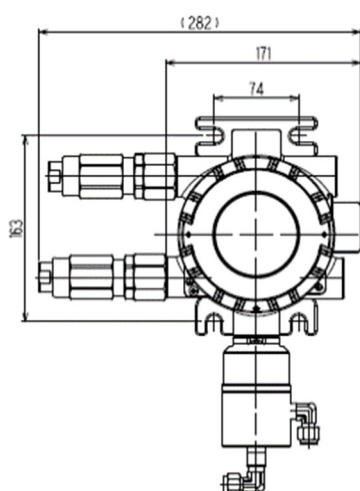


＜EC バリア有仕様＞

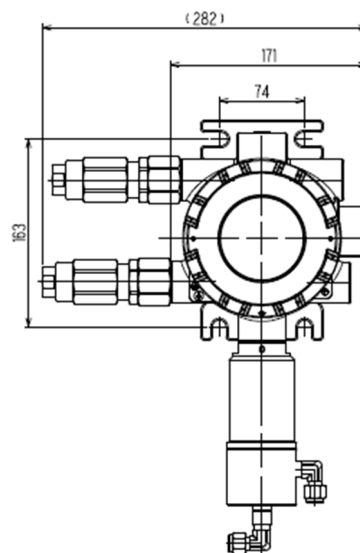


＜吸引式＞※ケーブルグランド(最大2つまで)の接続位置は注文時にご指定ください。

＜EC バリア無仕様＞

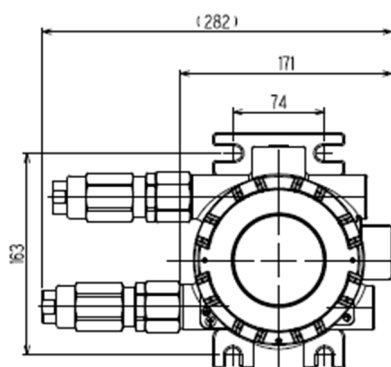


＜EC バリア有仕様＞



3-1-2 本体(SD-3SC)

＜本体＞※ケーブルグランド(最大2つまで)の接続位置は注文時にご指定ください。

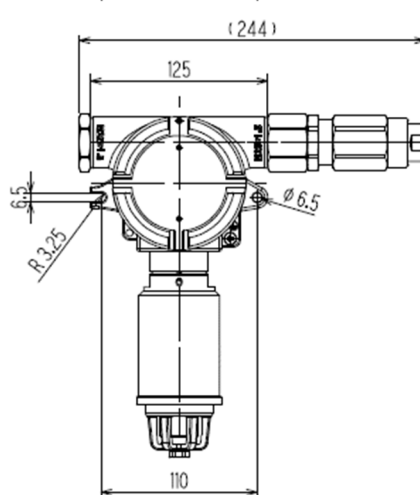
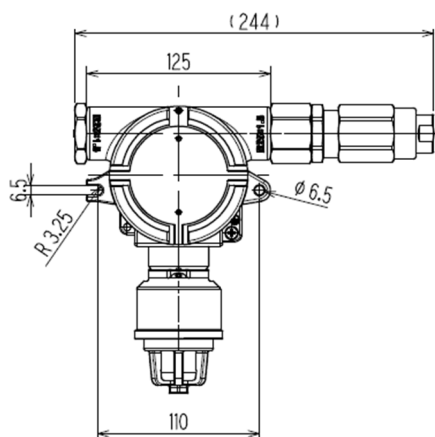
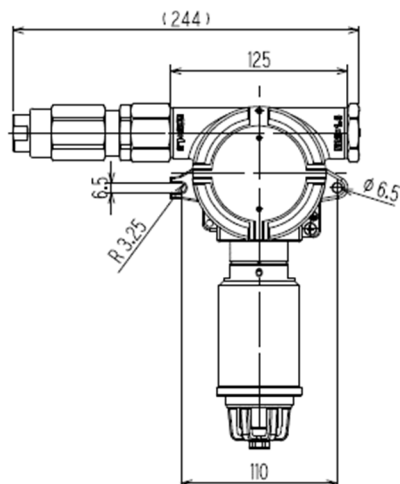
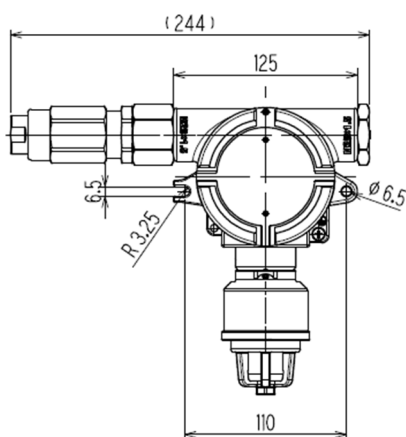


3-1-3 リモートセンサヘッド(GD-3)

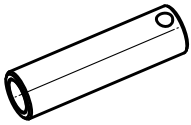
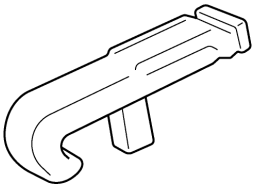
＜リモートセンサヘッド＞※ケーブルグランド(最大1つまで)の接続位置は注文時にご指定ください。

＜EC バリア無仕様＞

＜EC バリア有仕様＞



3-1-4 標準付属品

標準付属品		数量	部品番号	説明
	コントロールキー	納入台数により異なる	4286 9200 80	本器を操作するとき使用するキーです。
	操作レバー	1 個	2594 0481 90	ケーブルを端子台に接続するとき使用する道具です。
	六角棒スパナ (対辺 2)	納入台数により異なる	1510 5020 40	六角穴付き止めねじ(M4)を締め付けるとき使用する道具です。
	取扱説明書	1 冊		

注記

▶ コントロールキー、および六角棒スパナの数量は、納入台数により付属する数量が異なります。

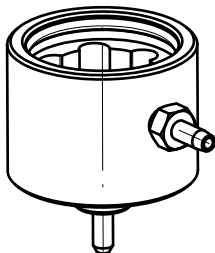
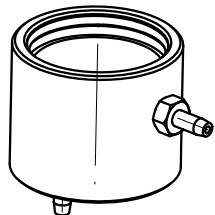
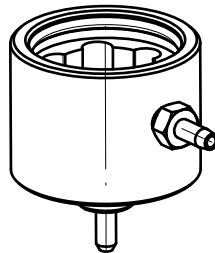
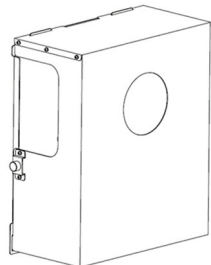
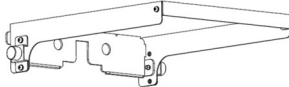
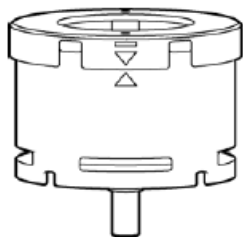
- 1 - 10 台 : 1 個
- 11 - 20 台 : 2 個
- 21 - 50 台 : 3 個
- 51 台以上 : 4 個

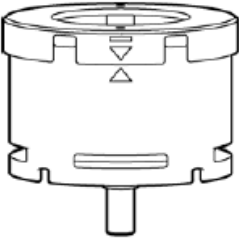
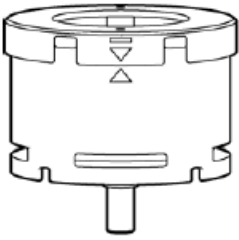
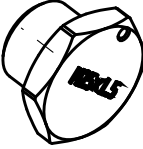
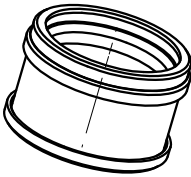
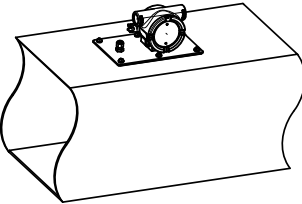


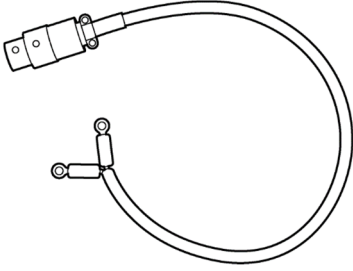
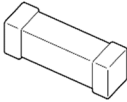
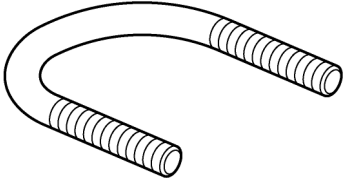
注意

- 本器を操作するときには、付属のコントロールキーを使用してください。付属のコントロールキー以外のものを使用すると、本器が操作を正常に受け付けない場合があります。
- 付属のコントロールキーは、非常に強力な磁石でできています。クレジットカードや ID カードなどの磁気製品にコントロールキーを近づけると、記憶データが破損するおそれがあります。

3-1-5 特別付属品(オプション)

特別付属品(オプション品)		部品番号	説明
	校正キャップ (IRF センサ用)	4283 9011 00	SD-3RI 用の校正キャップです。 ＜材質＞ ボディ:PP ニップル:ステンレス/テフロン
	校正キャップ (NCF/SGF/SHF センサ 用)	4283 9012 70	SD-3NC/GH/SP 用の校正 キャップです。 ＜材質＞ ボディ:PP ニップル:ステンレス/テフロン
	校正キャップ (ESF センサ用)	4283 9013 40	SD-3EC/ECS/ECB 用の校正 キャップです。 ＜材質＞ ボディ:PP ニップル:ステンレス/テフロン
	保護カバー	壁面用 4283 9019 80 パイプ用 4283 9045 60	SD-3 本体を保護するカバーで す。 ＜材質＞ SUS316
	日除けカバー	4283 9015 90	直射日光や輻射熱による温度上 昇を抑えるためのカバーです。 ＜材質＞ SUS316
	スプラッシュガード (IRF センサ用)	4283 9076 10	SD-3RI 用の水や塵からセンサ を保護するためのカバーです。 底面に識別番号“1”が刻印され ています。 ＜材質＞ 樹脂製

特別付属品(オプション品)		部品番号	説明
	スプラッシュガード (NCF/SGF/SHF センサ 用)	4283 9077 80	SD-3NC/GH/SP 用の水や塵からセンサを保護するためのカバーです。 底面に識別番号“2”が刻印されています。 <材質> 樹脂製
	スプラッシュガード (ESF センサ用)	4283 9078 50	SD-3EC/ECS/ECB 用の水や塵からセンサを保護するためのカバーです。 底面に識別番号“3”が刻印されています。 <材質> 樹脂製
	ブランキングプラグ	4283 9018 10	M25 × 1.5 用のブランキングプラグです。 <材質> SUS316 相当
	シリコン除去フィルター (型式:SI-8) ^{※1} (NCF/SGF/SHF センサ 用)	4283 0030 20	SD-3NC/GH/SP 用の大気中にある微量のシリコンを除去するためのフィルターです。装着すると、センサの寿命を延ばすことができます。 ^{※2}
	活性炭フィルター (型式:CF-8304) ^{※1} (NCF/SGF/SHF センサ 用)	4283 0040 10	SD-3NC/GH/SP 用の大気中にある微量のシリコンを除去するためのフィルターです。装着すると、センサの寿命を延ばすことができます。 シリコンの除去能力は、シリコン除去フィルターよりも優れています。 ^{※3} また、干渉ガス除去用としても使用できます。装着すると、検知対象ガス以外の干渉影響を抑制することができます。
	ダクトマウントキット (GD-3RI 用) (GD-3NC/GH/SP 用) (GD-3EC 用) (GD-3ECB 用)	4262 9674 10 4262 9675 90 4262 9676 60 4262 9774 50	リモートセンサヘッド(GD-3)をダクトへ設置するためのキットです。 <材質> SUS316

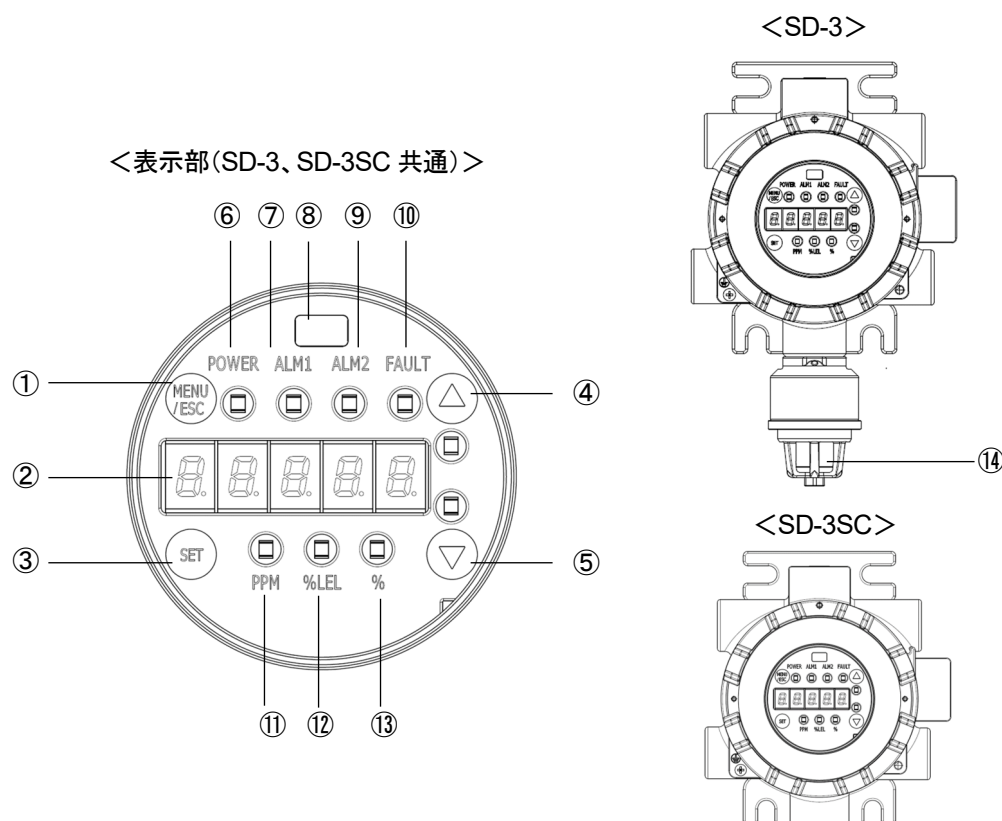
特別付属品(オプション品)		部品番号	説明
	HART 通信用 ケーブル	2905 2439 10	HART モデムを接続するときに 使用する中継ケーブルです。
	ヒューズ	2564 0125 10	リテルヒューズです。 (1.25 A DC 100 V)
	U 字ボルト部品	4283 9046 30	本体をポール(サイズ:50A (2B))に設置するときに使用する U 字ボルト、ばね座金及び六角 ナットです。 <材質> SUS304

※1 フィルターを使用する際は、スプラッシュガードの装着を推奨します。

※2 シリコン除去フィルターを装着した場合、検知対象ガスが限定されます。

※3 シリコン除去フィルターの装着時より、検知対象ガスが限定されます。

3-2 各部の名称とはたらき

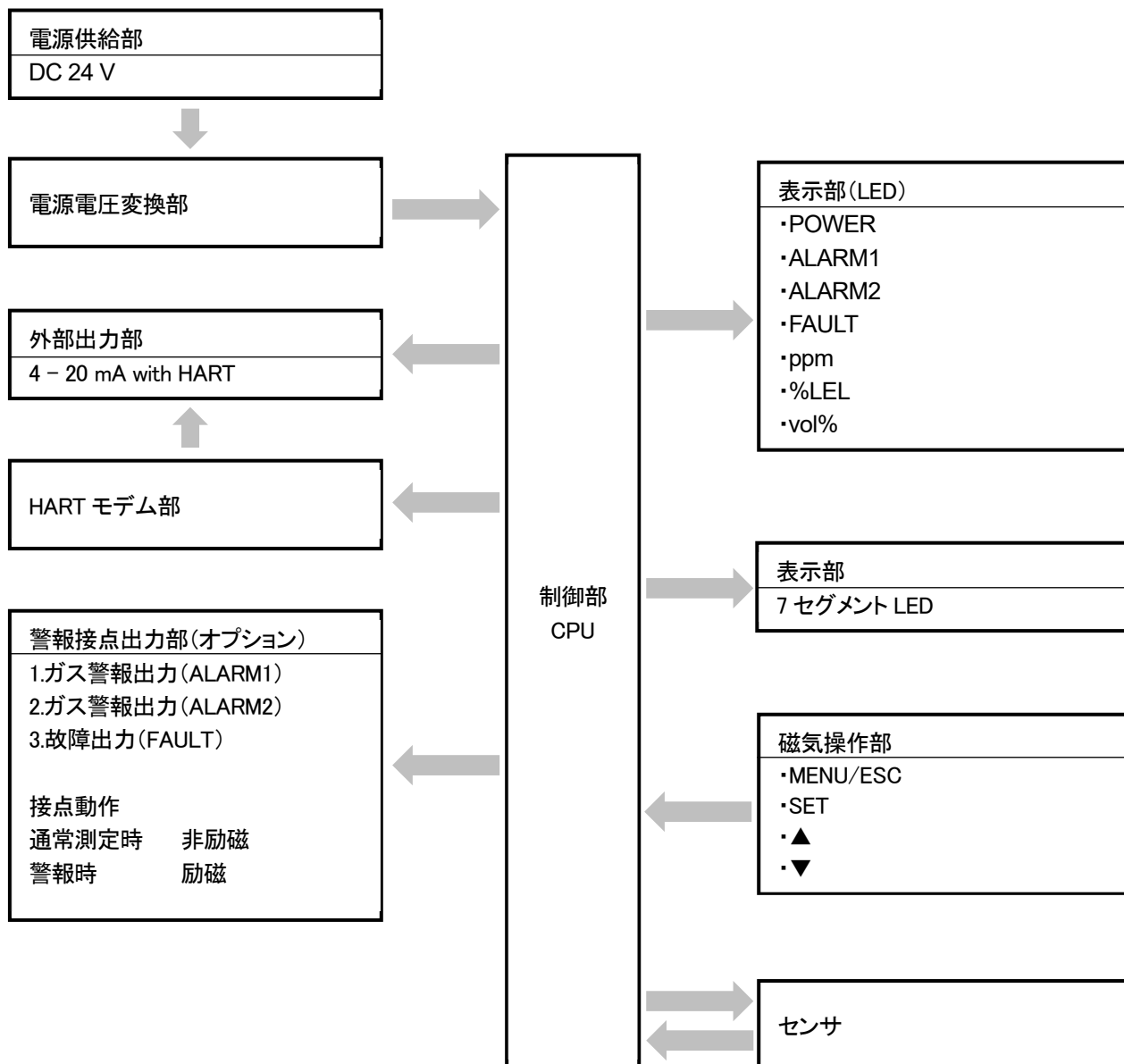


番号	名称	機能
①	MENU/ESC キー	検知モードで長押しすると、ユーザーモードに切り替わります。 ユーザーモード、メンテナンスモードでは、設定のキャンセルや1つ前の画面に戻るときに使用します。 ユーザーモード、メンテナンスモードで長押しすると、検知モードに戻ります。
②	7 セグメント LED 表示	ガス濃度などを表示します。
③	SET キー	検知モードで押すと、ALM1(第一警報)、ALM2(第二警報)の警報設定値を表示します。 ユーザーモード、メンテナンスモードでは、値の確定や設定の選択に使用します。
④	▲キー	ユーザーモード、メンテナンスモードの設定項目の切り替え、数値の調整(UP)に使用します。
⑤	▼キー	ユーザーモードでは、メニューの切り替え、数値の調整(DOWN)に使用します。 検知モードで押すと、外部出力を表示します。
⑥	電源ランプ(POWER)	電源ランプです。電源が供給されると点灯(緑色)します。 ユーザーモード、メンテナンスモードでは点滅(緑色)します。
⑦	警報ランプ(ALM1)	ALM1(第一警報)の警報ランプです。ALM1(第一警報)の警報設定値に達すると点灯(赤色)します。
⑧	赤外線ポート	IrDA 通信用のポートです。
⑨	警報ランプ(ALM2)	ALM2(第二警報)の警報ランプです。ALM2(第二警報)の警報設定値に達すると点灯(赤色)します。
⑩	故障ランプ(FAULT)	故障ランプです。本器に異常があると点灯(黄色)します。
⑪	PPM ランプ	ppm 濃度領域のガス濃度値を表示するときに点灯(緑色)します。
⑫	%LEL ランプ	%LEL 濃度領域のガス濃度値を表示するときに点灯(緑色)します。
⑬	%ランプ	vol%濃度領域のガス濃度値を表示するときに点灯(緑色)します。
⑭	センサ部	ガスを検知するセンサが搭載されています。

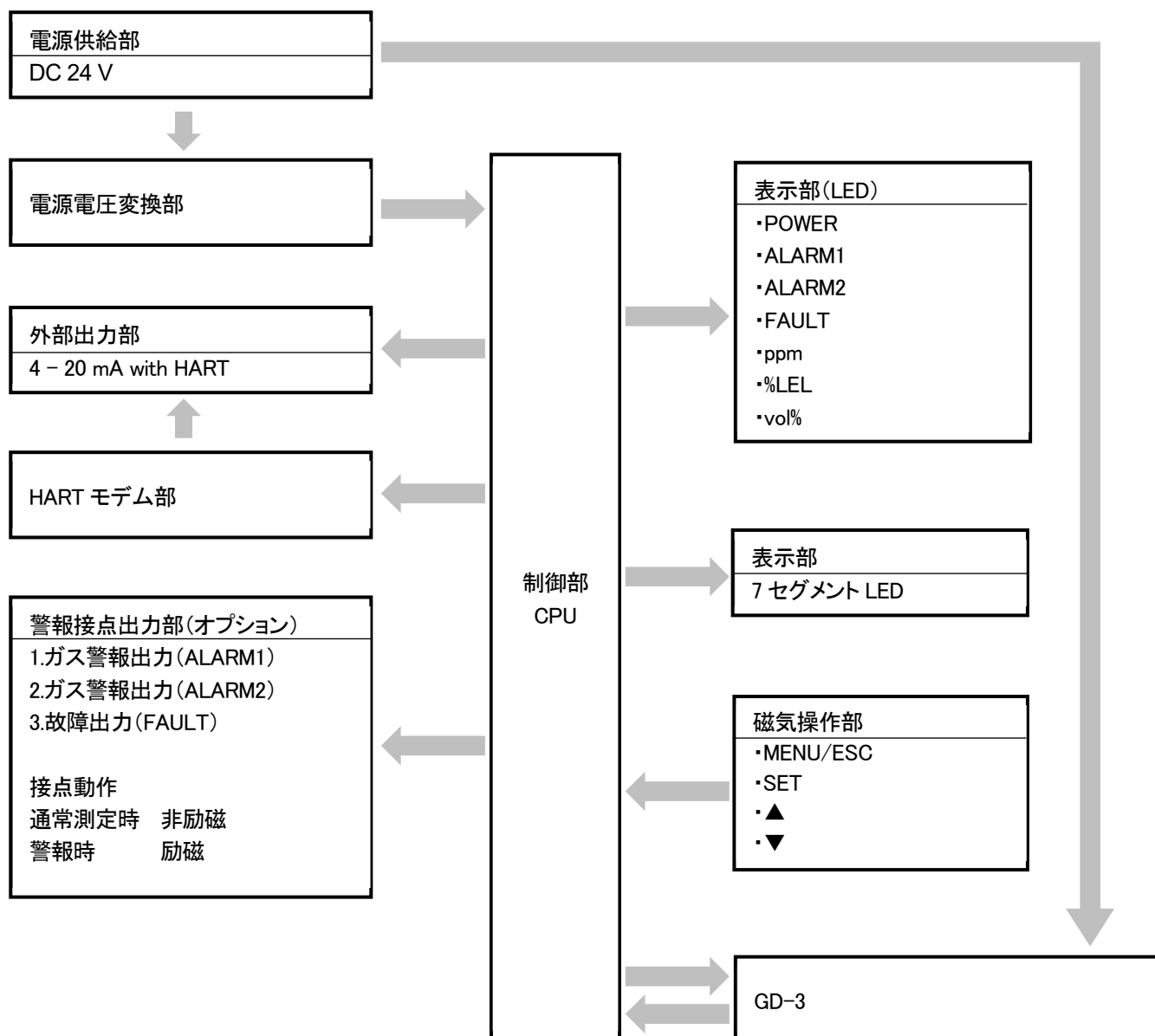
3-3 ブロックダイアグラム

本器のブロックダイアグラム(電気系統図)は、以下のようになります。

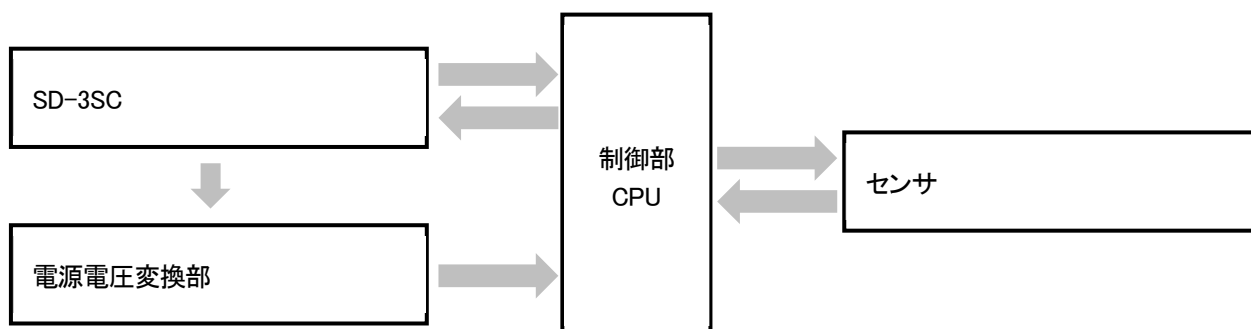
<SD-3>



<SD-3SC>



<GD-3>



4

設置方法

4-1 設置に関する留意事項

適切な取り付け場所の選択は、システムの性能にとって重要です。

以下の注意事項を必ず守って設置作業を行ってください。

注意事項を守らないと、機器に故障が生じ、正常に動作しない場合があります。



注意

- 本器は精密機器です。本器を設置する場所(環境)によっては性能を発揮できない場合があります。設置場所の環境を確認し、状況に応じて必要な処置をしてください。
- 保安防災上重要な役割を果たすため、効果的な場所に必要な点数を設置してください。
- ガスの種類や作業エリアにより、ガス漏れしやすい場所や滞留しやすい場所は異なります。場所や点数を十分考慮し、設置してください。
- ゴミ、雪、泥、外部機器などにより、センサへのガスまたは蒸気の接触を妨げてはなりません。保護等級は、本器がこれらの条件への暴露中および暴露後にガスを正常に検知することを保証するものではありません。埃の堆積物や水没、高圧の水にさらされた場合は、本器の動作確認および校正を実施して下さい。
- 検知器の設置方向はセンサが下向き方向が推奨となります。センサが機械的損傷、汚れ、水の侵入から保護されている場合においては、他の向きに設置しても問題ありません。
- 特別付属品は純正品を使用してください。

4-1-1 設置に関する一般情報

設置作業は、以下の点に留意して行ってください。

- 周囲温度が 65℃を超える場所に本器を設置する場合は、使用時に想定される最大周囲温度よりも 5℃以上高い温度で使用可能なケーブルを適切に選定し、使用してください。
- SD-3、SD-3SC の本体には M25×1.5 の接続口が 2 箇所あり、フィールドの配線時に使用します。接続口を使用しない場合は、必ずブランキングプラグで塞いでください。
- GD-3 には SD-3SC と接続するための M25×1.5 の接続口が 2 箇所あります。使用しないどちらか一方の接続口は、必ずブランキングプラグで塞いでください。
- 型式と異なる原理のセンサを装着しないでください。
- 撚線の導体を使用する場合は、先端部にフェルールを使用してください。
- 二次回路は絶縁源から供給してください。(アラームリレー接点には適用されません。)
- 当社指定の適合したケーブルグランドを使用してください。また電磁波ノイズなどの外部影響への耐性を強化するため、ケーブルのシールドを本体やケーブルグランド、指示計などに接続してください。
- アラームリレーへの配線(オプション)は、定格電圧、電流および環境条件に従って、ケーブルや端子台などの部品を選択し、接続してください。

また、設置時には、以下の内容を十分に検討してください。

- ガス検知器システムの設置に影響を及ぼす、すべての影響

- ・ ガス検知器システムの設置に関する規制や規則
- ・ ガス検知器システムの動作、電源および信号線の接続に関する規則
- ・ ガス検知器システムが受ける周囲環境の影響
- ・ 検知ガスの物理的特性、環境空気の動きや流れ、潜在的なリークなどに関する詳細
- ・ 必要なメンテナンスの利便性、および使用する付属品の形状

4-1-2 設置に関する制限情報

<振動衝撃のある場所には設置しないこと>

本器は精密な電子部品で構成されています。振動、衝撃などがなく、落下などのおそれのない安定した場所に設置してください。

<水・油・薬品などがかかるような場所には設置しないこと>

水、油、薬品などの液体がかかるような場所は避けて設置してください。これらの影響を受けそうな場所に設置する必要がある場合は、オプションの保護カバー（本体保護）やスプラッシュガード（センサ保護）を使用してください。

<使用温度範囲を超える場所には設置しないこと>

本器の使用温度範囲は、「10-3 原理別検知対象ガス」を参照してください。

使用時に使用温度範囲を超えない安定した場所に設置してください。

<直射日光の当たる場所や温度の急変する場所には設置しないこと>

直射日光や輻射熱（高温なものから放射される赤外線）が当たる場所、機器の温度が急変するような場所は避けて設置してください。指定された閾値を超える温度上昇が生じたり、機器内部が結露したり、急激な温度変動に追従できないことがあります。

直射日光のあたるような場所で使用する場合、オプションの日除けカバーの使用を推奨します。

<メンテナンスのできない場所や作業に危険を伴う場所には設置しないこと>

本器は定期的にメンテナンスが必要です。

メンテナンスのできない場所や、作業に危険を伴う以下のような場所には設置しないでください。

- ・ 装置内など、メンテナンス時に装置を停止させる必要がある場所
- ・ 装置の一部を取り外さないとメンテナンスができない場所
- ・ 配管やラックなどによって本器が外せない場所
- ・ 高圧線の近くなどメンテナンス作業時に危険を伴う場所

<接地工事が十分でない装置筐体に設置しないこと>

装置筐体に設置する場合は、D 種相当の接地工事を確実に行ってください。

<周囲に雑ガスが存在する場所に設置しないこと>

下記のガスが周囲に存在する場所に設置しないでください。

センサの種類	センサのガス感度を低下させるガス	センサを腐食させるガス
SGF	・ 有機シリコーンガス（D4 シロキサン、D5 シロキサンなど） ・ 硫黄系ガス（SO_x、H₂S など） ・ 重合物質（エチレンオキシド、アクリロニトリル、ブタジエン、スチレンなど） ・ 触媒毒（リン化合物、ハロゲン化炭化水素、金属蒸気など） ・ 影響度合はセンサ型式によります。	・ 腐食性ガス（SO_x、NO_x など） ・ 酸性ガス（HF、HCl など）
SHF		
NCF		
IRF	なし	なし
ESF	なし	

＜周囲に干渉ガスが存在する場所に設置する場合の注意点＞

下記のような干渉ガスが周囲に存在する場所に設置する場合は注意してください。

センサの種類	干渉ガス
SGF	対象ガス以外の炭化水素(HydroCarbon)、アルコール、有機溶剤、H ₂ O など
SHF	
NCF	対象ガス以外の炭化水素(HydroCarbon)、アルコール、有機溶剤など
IRF	可燃性センサ : 対象ガス以外の炭化水素(HydroCarbon)、アルコール、有機溶剤など
ESF	センサによって異なる。(例えば CO センサの場合は H ₂ など)

＜適切な電源供給および電線を使用すること＞

本器の動作には DC 24 V (DC 18 V - DC 30 V) の電源が必要です。供給用の電線は、1.308 mm² (AWG16)、または 2.082 mm² (AWG14) を使用してください。ケーブルは、シールド付きの 3 線ケーブルまたは 4 線ケーブルを使用してください。

＜ケーブルと電源の設置について＞

ケーブルの抵抗値により電圧降下が発生し、本器への実際の供給電圧(本器端子側)は電源の供給電圧より低くなります。このため、ケーブルによる電圧降下で実際の供給電圧が DC18V 以下になった場合、電源側の供給電圧を上げる必要があります。

この電圧降下は、ケーブルの種類や長さ、周囲温度、本器の消費電流値によって決まります。

本器の消費電力は、センサの種類や本器内蔵のアラームリレーの状態によって変化します。

＜電源部の電圧供給の求め方①＞

以下の式で電源での供給電圧値を求めます。

$$\text{電源電圧} = A(\text{本器の消費電力}) \times B(\text{敷設するケーブルの抵抗値}) + 18V$$

A: 本器の消費電力

下記よりお選びください。

型式	消費電流(最大)	備考
SD-3RI	170mA	
SD-3NC	200mA	
SD-3EC	140mA	
SD-3GH	200mA	
SD-3SP	160mA	
SD-3SC+GD-3RI	180mA	
SD-3 SC+GD-3NC	220mA	
SD-3 SC+GD-3EC	150mA	
SD-3 SC+GD-3GH	220mA	
SD-3 SC+GD-3SP	180mA	

B: 敷設するケーブルの抵抗値

取り付けるケーブルの種類や長さ、使用温度の上限値によって、抵抗値の上限値が決まります。

例)

A: 最大消費電流値 = 170 mA (SD-3RI)

B: 設置するケーブルの最大抵抗値 = 24Ω (CVV-S, 1.308 mm², 1250m, @70°C)

$$\begin{aligned} \text{電源電圧} &= 170\text{mA} \times (24\Omega \times 2) + 18V \\ &= 8.16V + 18V \\ &= 26.16V \quad (\text{または、それ以上}) \end{aligned}$$

＜電源部の電圧供給の求め方②＞

設置するケーブルの種類や長さが不明で①の方法が適用できない場合や、①で計算した電圧が実際に供給する電圧として問題ないか確認するために、ここで説明する方法を使用してください。

アラームテストは以下の方法で行います。詳しくは、取扱説明書(テクニカルマニュアル) ‘7-3-2 警報テストを行う’ を参照してください。

- － 接点動作を OIN にします。

▲キーを押して、指示計をフルスケール(nnnn)以上になるまで増加させ、その時の本器端子台の電圧が DC18V 以上であることを確認します。

フォルトテストは以下の方法で行います。詳しくは、取扱説明書(テクニカルマニュアル) ‘7-3-3 故障テストを行う’ を参照してください。

- － フォルトテストを OIN にします。

その際、本器端子台の電圧が DC18V 以上であることを確認します。

DC18V を下回る場合は、電源の電圧供給を上げてください。動作中にこの部分の温度が上昇した場合は、ケーブル抵抗値の増加による電圧降下を補償するなど、供給電圧に十分なマージンを持たせてください。

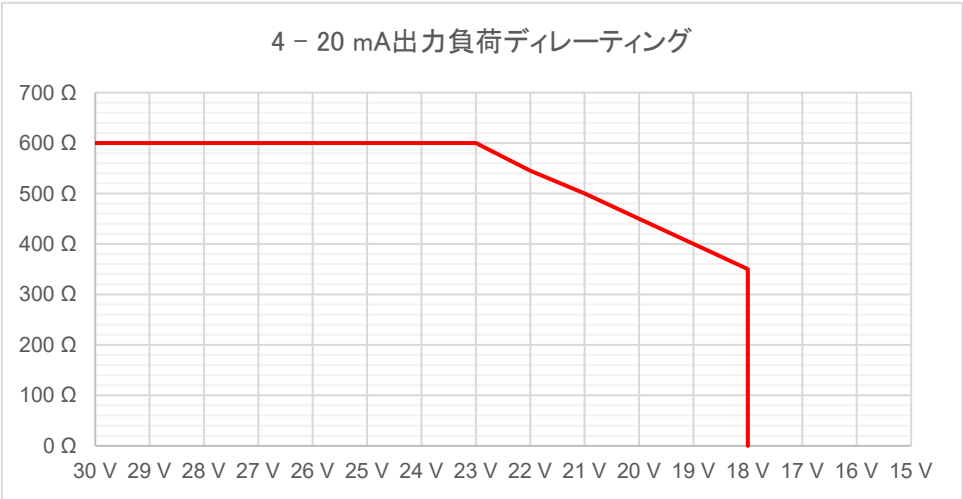
＜ノイズ源となる機器から隔離すること(本体およびケーブル)＞

周囲に高周波機器や高電圧機器のある場所は避けて設置してください。電磁波ノイズなどの影響を受ける場合があります。

＜4 - 20 mA 信号出力のインピーダンスを適切な値とすること＞

正常な動作を保証するには、4 - 20 mA 信号出力のインピーダンスを 600 Ω 以下で使用する必要があります。これは本器への供給電圧によっても異なります。また、本器の動作電圧やインターフェース(HART)などに応じて、特定の最小または最大インピーダンスを遵守してください。

＜供給電圧の違いによる 4 - 20 mA 信号出力のインピーダンスディレーティング＞



＜HART 通信使用時の 4 - 20 mA 信号出力のインピーダンス範囲＞

HART インターフェースを備えた機器は HART 通信または HART マルチドロップモードで操作できます。

動作モード	電源電圧による信号のインピーダンス範囲
HART 通信なしの操作	DC 18 V で最大 300 Ω DC 23 V で最大 600 Ω まで直線的に上昇
HART 通信による操作 (HART モード)	DC 18 V – DC 30 V の範囲で最低 250 Ω DC 18 V で最大 300 Ω

	DC 23 V で最大 600 Ω まで直線的に上昇
HART マルチドロップ操作	DC 18 V – DC 30 V で 250 - 600 Ω

＜警報接点を正しく使用すること＞

本器の警報接点は外部ブザーや警報表示灯、回転灯などを動作させるための信号伝達手段を使用目的としています。人命に関わるような制御の用途など（例えば遮断弁の制御）には使用しないでください。また定期点検時も含め、定期的に開閉動作を確認してください。長期間開閉動作がない場合、使用環境によっては正常に動作しなくなる場合があります。

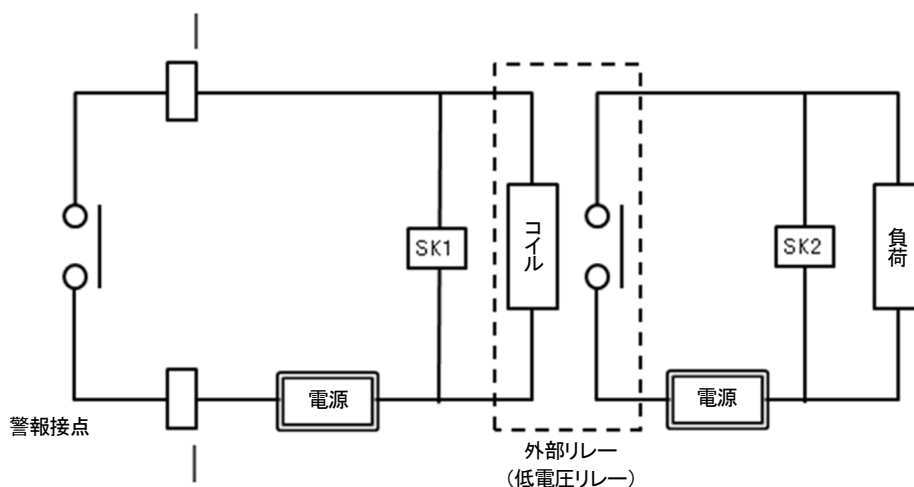
本器の警報接点仕様は抵抗負荷の条件による仕様です。警報接点で誘導負荷を使用する場合、接点部に逆起電力が発生するため、以下の障害が発生しやすくなります。

- ・ アラームリレー接点部の溶着、絶縁不良、接触不良
- ・ 本器の内部で高電圧が発生することによる不特定電気部品の破壊
- ・ CPU の暴走による異常動作

負荷を動作させる場合は、本器の動作を安定させ、警報接点を保護するため、以下の適切な処置をしてください。

- ・ 外部リレー（低電圧 AC 100 V 以内）で中継（接点増幅）してください。その際、外部リレーにも定格に見合ったサージ吸収部品 SK1 を取り付けてください。
- ・ 外部リレーの負荷側にも必要に応じてサージ吸収部品 SK2 を取り付けてください。
- ・ サージ吸収部品は負荷の条件によって、接点側に取り付けた方が良い場合があります。負荷の動作を確認し適切な場所に取り付けてください。

＜SD-3＞



※ SK1、SK2: サージ吸収部品



危険

- ・ 人命に関わるような制御の用途など（例えば遮断弁の制御）には絶対に使用しないでください。

**警告**

- 長期間開閉動作がない場合、正常に動作しなくなる場合があります。定期的に接点の開閉動作を確認してください。
- 有機ガスや硫化ガス雰囲気中に長期間さらされると、接触不良などが発生することがあります。
- 原則として、本器の警報接点で誘導負荷を動作させないでください。特に蛍光灯、モーターなどの動作には絶対に使用しないでください。
- やむを得ず誘導負荷を動作させる場合は、外部リレーで中継(接点増幅)してください。ただし、外部リレーのコイルも誘導負荷に該当するため、低電圧(AC 100 V 以内)で駆動するリレーを使用し、適切なサージ吸収部品(CR 回路など)で本器の接点を保護してください。
- シリコン雰囲気中では使用しないでください。

**注意**

- 無励磁状態の b 接点(ブレーク接点)は外力などの物理的な衝撃によって、瞬時的な開(オープン)動作が発生することがあります。警報接点を b 接点で使用する場合は、瞬時的な動作が発生することを配慮し、b 接点受信側で信号の遅延動作(1 秒程度)を加えるなどの対策をしてください。

4-2 システム設計上の留意事項

本器のシステム設計には、以下の点に留意してください。



注意

- 不安定な電源、ノイズは誤動作、誤警報の原因になります。
- 本器を使用するシステムを設計する場合は、この項に記載されている内容を反映してください。

4-2-1 安定した電源を使用する

電源投入時や瞬断停電時には、システムが安定するまでの間、本器の外部出力および警報接点が作動することがあります。電源不良などにより外部出力や警報接点が作動した場合は保安電源を使用するなど適切な処置をしてください。

本器には以下の電源を供給してください。

電源電圧	DC 24 V (DC 18 V - DC 30 V) : 本体端子電圧	
瞬時停電許容時間	約 20 ms まで※1	処置例: 連続動作や動作を保証するために、外部に無停電電源装置などを設置してください。
その他	大電力負荷や高周波ノイズを含んだ電源と共用しないでください。	処置例: 必要に応じて、ラインフィルタなどを使用し、ノイズ源と切り離してください。

※1 20 ms 以上の瞬時停電から復帰する場合は再始動してください。

4-2-2 雷対策

以下のようなケーブル配線をした工場やプラントでは、機器に接続されたケーブルが雷の受信アンテナとなり、被雷することがあります。

- ケーブルを屋外配線している場合
- 屋外から引き込まれたケーブルと、同一のダクト内で平行配線している場合

被雷すると、雷のエネルギーでケーブルに接続されている機器が破壊されることがあります。また、ケーブルを金属管に入れたり、地下埋設しても雷によって発生する誘導雷サージを完全に防ぐことはできません。雷による被災を完全に取り除くことはできませんが、対策として以下のような方法があります。

<被雷対策>

設備の重要度や環境に応じて、適切に処置をしてください。

万一、誘導雷サージがケーブルに乗ってきた場合の対策として、フィールド機器および中央処理装置の手前に避雷器（ケーブル保安器）を設置する方法があります。使用方法は避雷器メーカーにお問い合わせください。

<接地処理>

サージノイズは、雷や雷以外からも発生します。これらの原因から機器を保護するために、機器を接地してください。

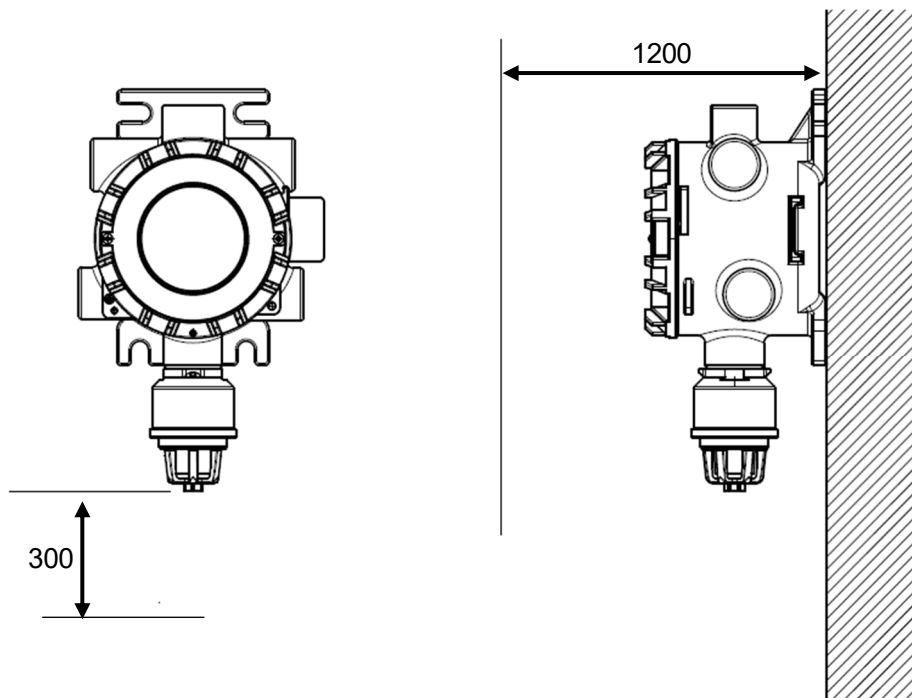
注記

- ▶ 避雷器には、フィールド機器の破壊原因となるサージ電圧を取り除くための回路が入っています。そのため、避雷器を設置することにより信号が減衰する場合があります。避雷器を設置するときには、あらかじめ動作を確認してから使用してください。また、避雷器によってすべてのサージ電圧を取り除くことはできません。

4-3 メンテナンススペースの確保

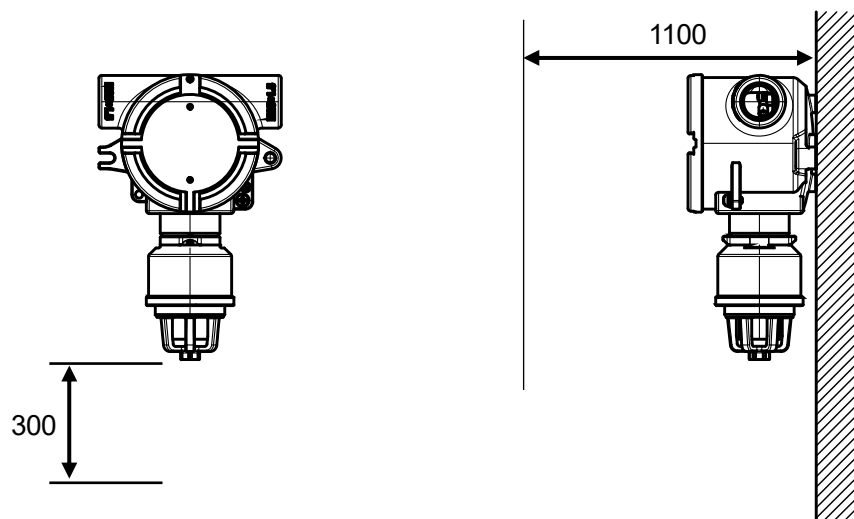
本器を取り付ける際は、保守時に必要となる蓋の開閉スペースを確保してください。

＜本体(SD-3、SD-3SC)＞



※ 図は SD-3 です。メンテナンススペースは SD-3SC も同じです。

＜リモートセンサヘッド(GD-3)＞



**注意**

本器は定期的にメンテナンスが必要です。

メンテナンスのできない場所や、作業に危険を伴う以下のような場所には設置しないでください。

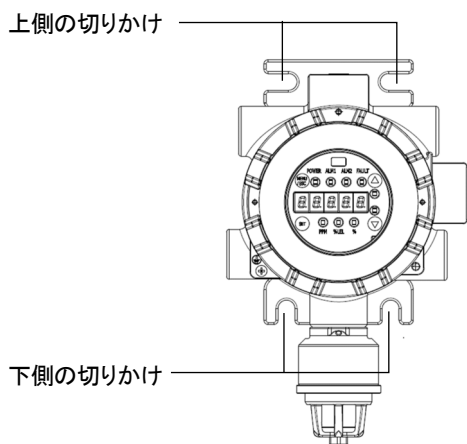
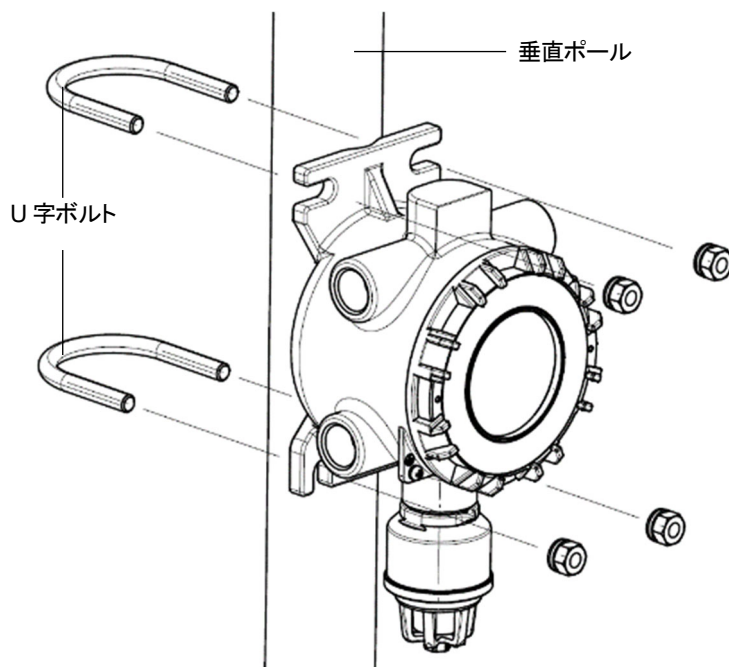
- 装置内など、メンテナンス時に装置を停止させる必要がある場所
- 装置の一部を取り外さないとメンテナンスができない場所
- 配管やラックなどによって本器が外せない場所
- 高圧線の近くなどメンテナンス作業時に危険を伴う場所

4-4 本体の設置

4-4-1 垂直ポールへの取り付け

U 字ボルトを 2 本使用して、本体 (SD-3、SD-3SC) を垂直ポール (サイズ: 50A (2B)) に取り付けます。

- 1 U 字ボルトを垂直ポールにはめ込み、本体の上側の切りかけに通す
- 2 U 字ボルトと本体をワッシャ 2 個、スプリングワッシャ 2 個、ナット (M10) 2 個で固定する
- 3 2 本目の U 字ボルトを垂直ポールにはめ込み、本体の下側の切りかけに通す
- 4 U 字ボルトと本体をワッシャ 2 個、スプリングワッシャ 2 個、ナット (M10) 2 個で固定する

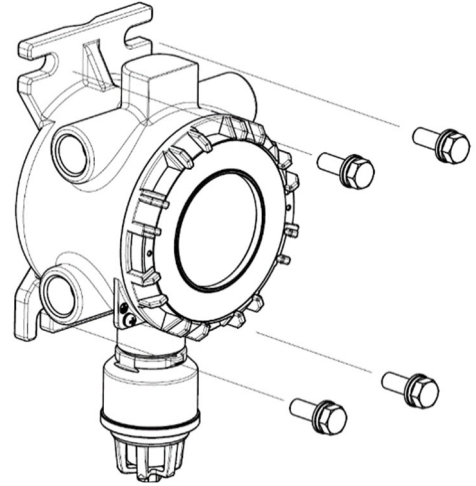
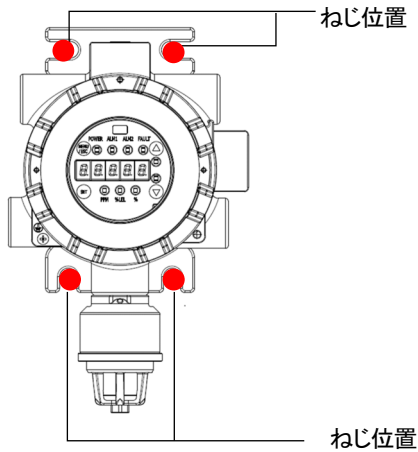


※ 図は SD-3 です。取り付け方法は SD-3SC も同じです。

4-4-2 壁面への取り付け

本体(SD-3、SD-3SC)を壁面に取り付けます。

1 本体を壁面に押し当て、ダブルセムスねじ(M10)4本で固定する



※ 図は SD-3 です。取り付け方法は SD-3SC も同じです。



注意

本器は定期的にメンテナンスが必要です。

メンテナンスのできない場所や、作業に危険を伴う以下のような場所には設置しないでください。

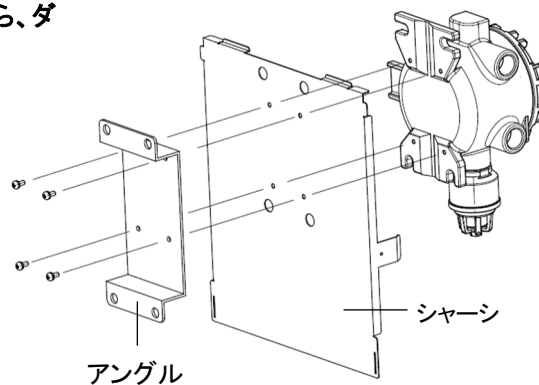
- 装置内など、メンテナンス時に装置を停止させる必要がある場所
- 装置の一部を取り外さないとメンテナンスができない場所
- 配管やラックなどによって本器が外せない場所
- 高圧線の近くなどメンテナンス作業時に危険を伴う場所

4-4-3 保護カバーの取り付け

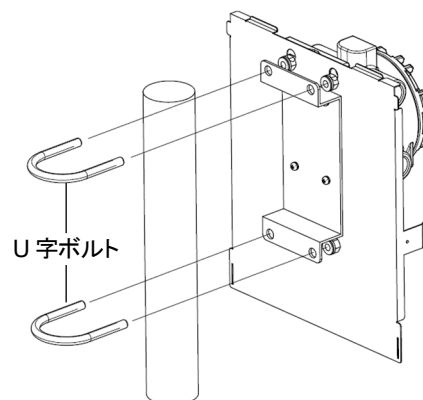
本体(SD-3、SD-3SC)に保護カバーを取り付けます。

＜ポール(サイズ:50A(2B))に取り付ける＞

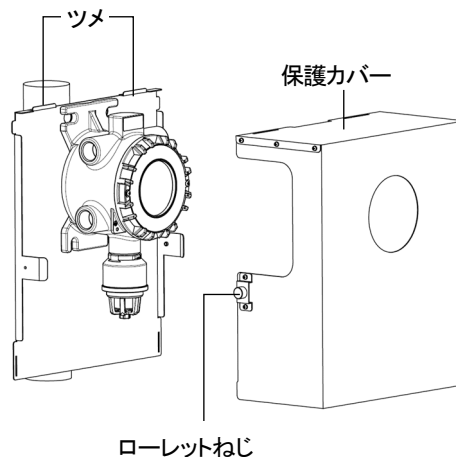
- 1 本体にシャーシとアングルを取り付け、右図のように背面から、ダブルセムスねじ(M5×6)4本で固定する



- 2 U字ボルトを垂直ポールにはめ込み、本体の上側の切りかけに通して、ワッシャ2個、スプリングワッシャ2個、ナット(M10)2個で固定する
- 3 U字ボルトを垂直ポールにはめ込み、本体の下側の切りかけに通して、ワッシャ2個、スプリングワッシャ2個、ナット(M10)2個で固定する



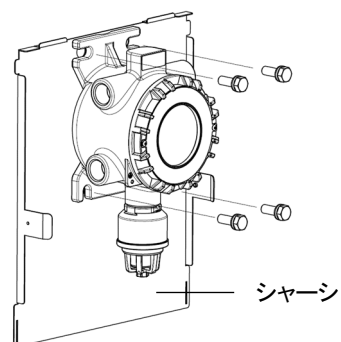
- 4 保護カバーをシャーシの上部2箇所のツメに合わせて取り付ける
- 5 保護カバーの左右にあるローレットねじを締め付けて固定する



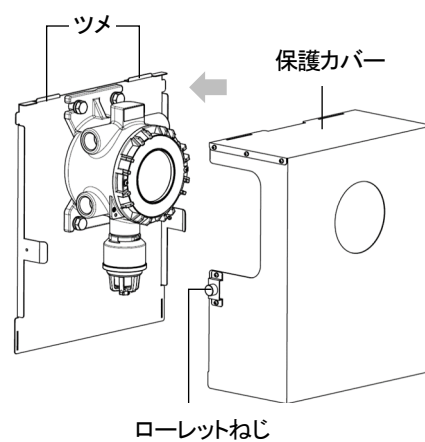
※ 図は SD-3 です。取り付け方法は SD-3SC も同じです。

＜壁面に取り付ける＞

- 1 本体とシャーシをダブルセムスねじ(M10)4本で共締めし、固定する



- 2 保護カバーをシャーシの上部2箇所のツメに合わせて取り付ける
- 3 保護カバーの左右にあるローレットねじを締め付けて固定する



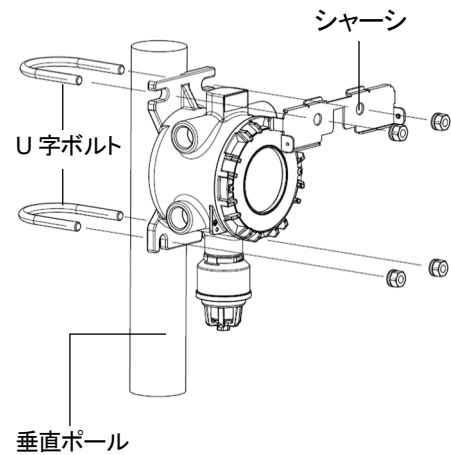
※ 図は SD-3 です。取り付け方法は SD-3SC も同じです。

4-4-4 日除けカバーの取り付け

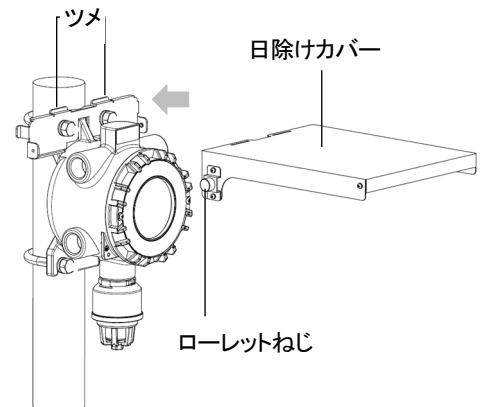
本体(SD-3、SD-3SC)に日除けカバーを取り付けます。

＜ポール(サイズ:50A(2B))に取り付ける＞

- 1 U字ボルトを垂直ポールにはめ込み、本体の上側の切かけに通して、シャースとワッシャ2個、スプリングワッシャ2個、ナット(M10)2個で固定する
- 2 U字ボルトを垂直ポールにはめ込み、本体の下側の切りかけに通して、ワッシャ2個、スプリングワッシャ2個、ナット(M10)2個で固定する



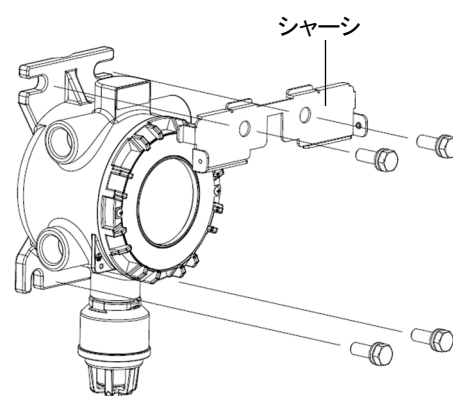
- 3 日除けカバーをシャースの上部2箇所ノツメに合わせて取り付ける
- 4 日除けカバーの左右にあるローレットねじを締め付けて固定する



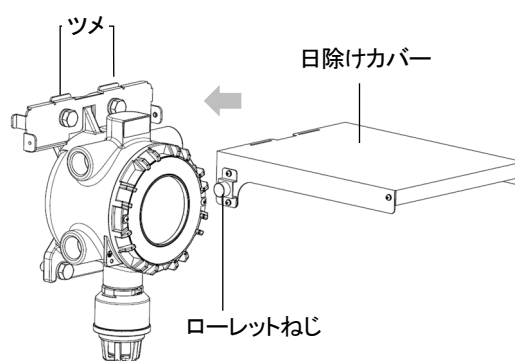
※ 図は SD-3 です。取り付け方法は SD-3SC も同じです。

＜壁面に取り付ける＞

- 1 本体とシャーシをダブルセムスねじ(M10)4本で共締めし、固定する



- 2 日除けカバーをシャーシの上部2箇所のツメに合わせて取り付ける
- 3 日除けカバーの左右にあるローレットねじを締め付けて固定する

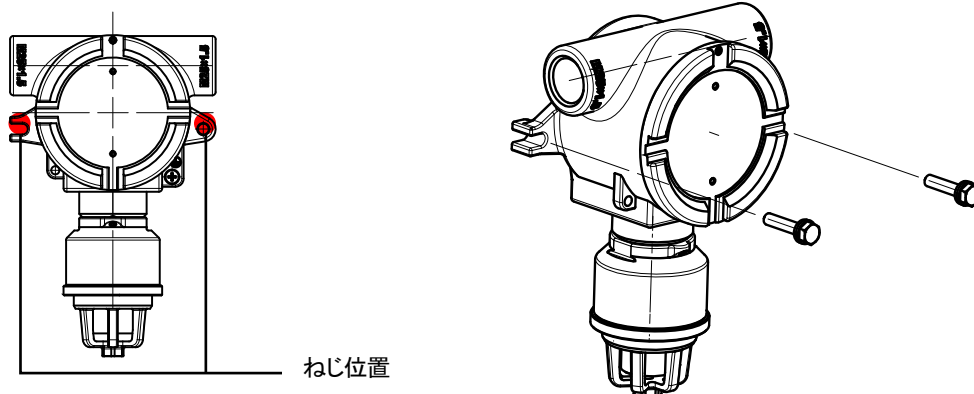


※ 図は SD-3 です。取り付け方法は SD-3SC も同じです。

4-5 リモートセンサヘッド(GD-3)の設置

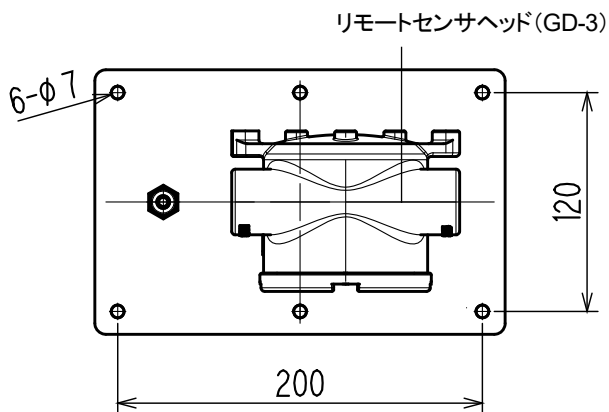
4-5-1 壁面への取り付け

- 1 リモートセンサヘッド(GD-3)を壁面に押し当て、ダブルセムスねじ(M6)2本で固定する

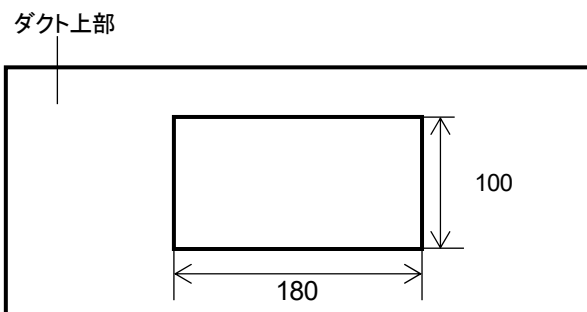


4-5-2 ダクトへの取り付け

リモートセンサヘッド(GD-3)をダクトに取り付けます。
ダクトへの取り付け時には、ダクトマウントキットを使用します。
ダクトマウントキットは以下のサイズになります。

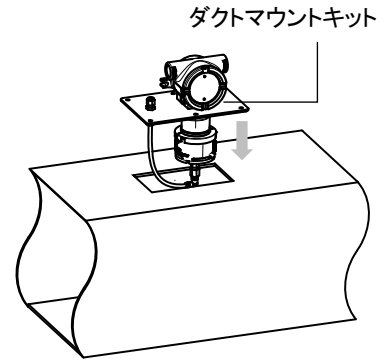


- 1 ダクトの天板をカットして穴をあける
穴の大きさは右図を参照してください。

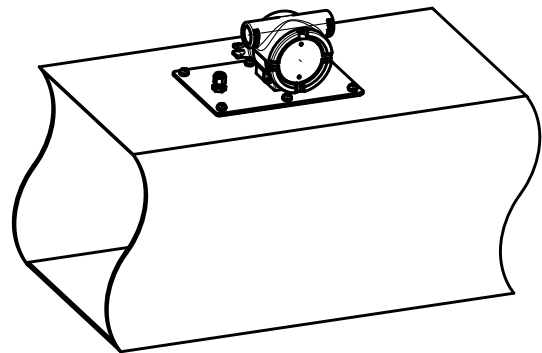
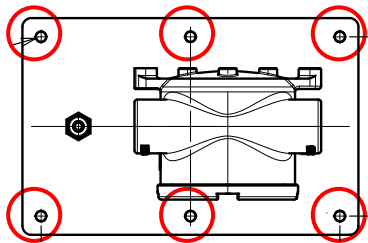


2 ダクトマウントキットにリモートセンサヘッド(GD-3)を挿入し、ねじ(M5)4本で固定する

ガス校正が実施できるように、リモートセンサヘッド(GD-3)のセンサ部にチューブを接続し、ダクトマウントキットの上部に出しておいてください。

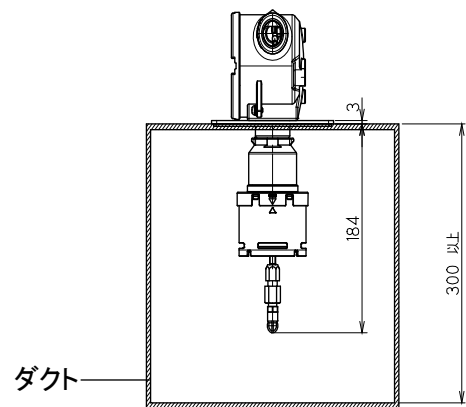


3 ダクトマウントキットをダクトの穴に挿入し、ねじ(M6)6本で固定する



注記

- ▶ リモートセンサヘッド(GD-3)をダクト内へ取り付けの際は、センサ部がダクト内壁に干渉しないように設置してください。
- ▶ ダクトマウント仕様では、外部からのガス校正用として、センサ部に装着されたガードとダクトマウントのガス IN を配管接続してください。



※GD-3ECB の場合

挿入部分の長さ : 229mm

ダクト径 : 345mm 以上

4-6 接地端子の接続

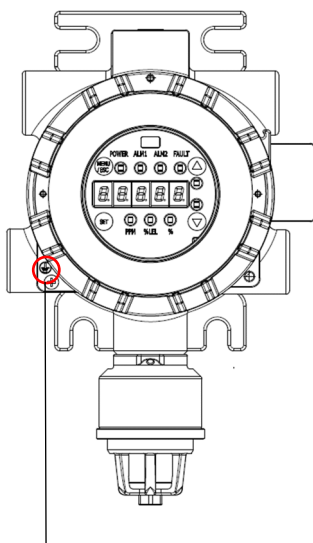


警告

- 本器に電源を供給する前に、必ず接地をしてください。
- 機器の安定動作と安全上、必ず接地をしてください。また接地線は、ガス管には絶対に接続しないでください。
- 接地は、D 種接地相当(接地抵抗 100 Ω 以下)で行ってください。
- 接地線にはケーブルラグを使用し、緩みやねじれのないよう安全に接地してください。
- 高周波機器や高電圧機器と同じ場所やそれらの周囲には接地しないでください。

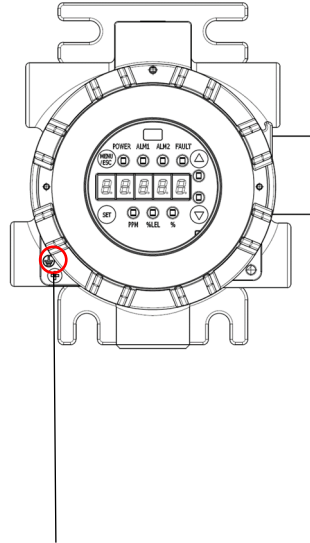
接地用アースボルトと、お客様の接地端子を接続してください。

<本体(SD-3)>



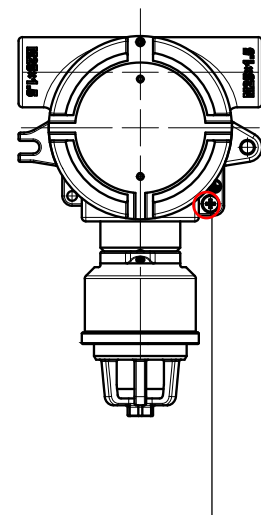
接地用アースボルト(M4)

<本体(SD-3SC)>



接地用アースボルト(M4)

<リモートセンサヘッド(GD-3)>



接地用アースボルト(M4)

注記

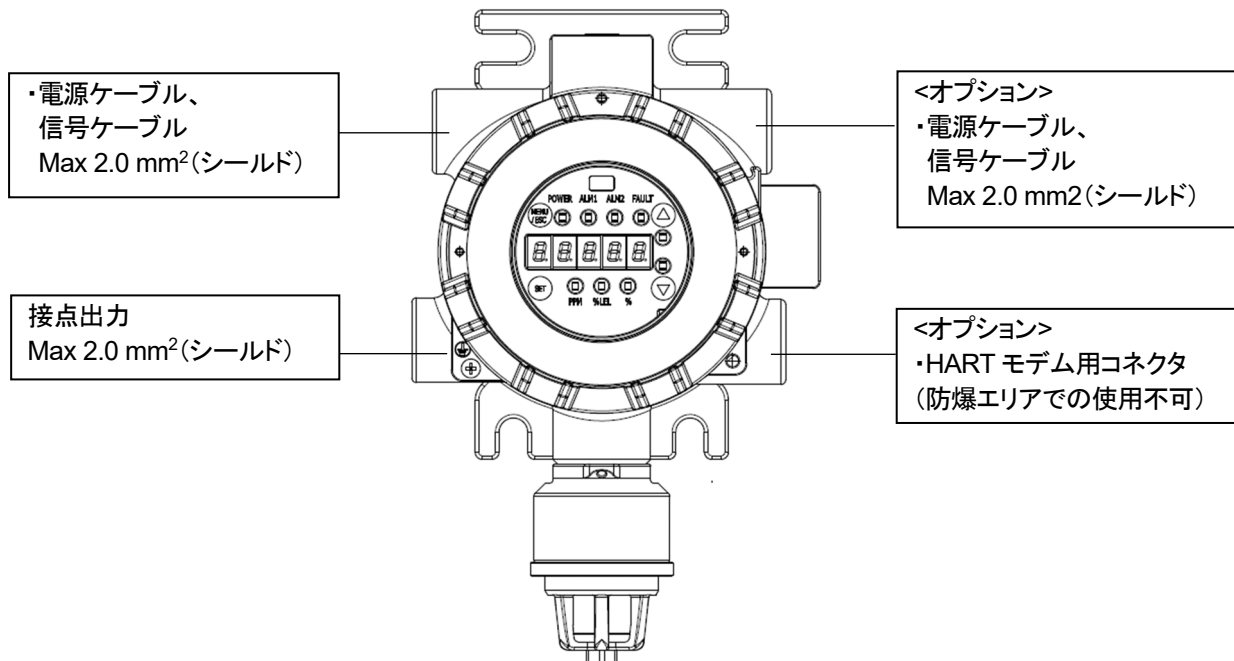
- ▶ 接地用アースボルトには、 のマークが付いています。

4-7 ケーブルの接続

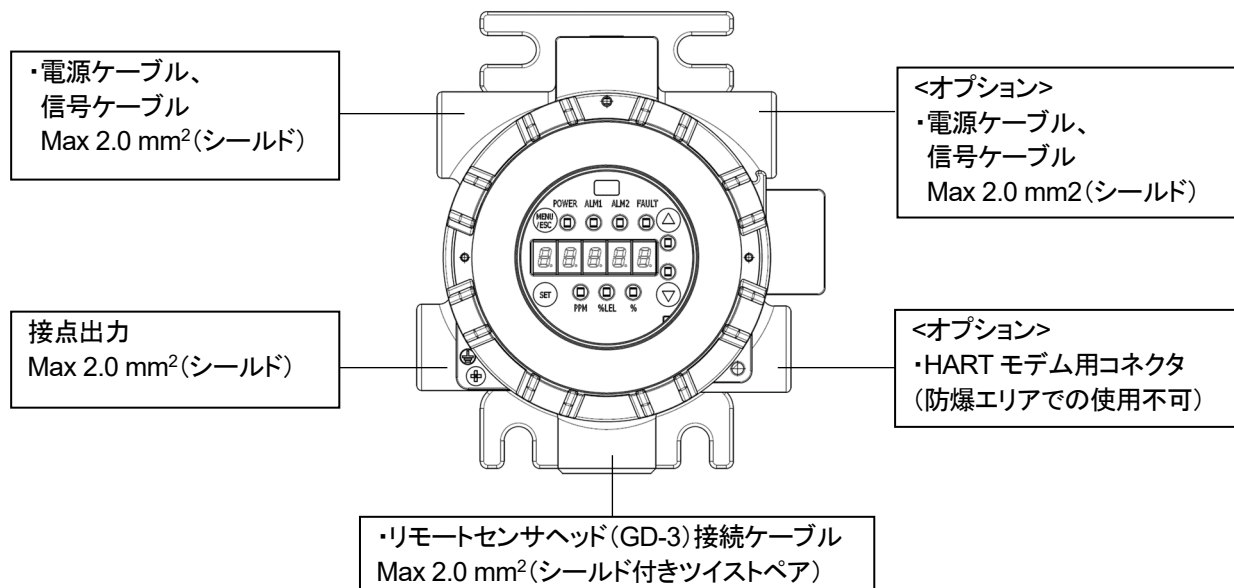
4-7-1 本体のケーブルと機器の接続口

本体のケーブル、機器の接続口は以下のとおりです。

<SD-3>



<SD-3SC>



注記

- ▶ リモートセンサヘッド(GD-3)を接続する場合は、弊社指定のケーブルグランドを使用してください。
 - ▶ 同時に使用できる外部ケーブルの接続口は2つです。(リモートセンサヘッド(GD-3)への接続ケーブルは除く)接続には認証されたケーブルグランドを使用してください。
 - ▶ 未使用の接続口はブランキングプラグで塞いでください。
 - ▶ ケーブルグランドは弊社指定のケーブルグランドをご使用ください。
ケーブルグランドの使用方法、ケーブル適合径および安全に関する注意事項は、同梱のケーブルグランド専用の取扱説明書を参照ください。
-

**注意**

- ケーブルグランドを正しく使用しなかった場合、防水・防塵性能への影響および意図せぬ水蒸気の侵入をおこす可能性があります。ケーブルグランドの誤った使用方法に起因するトラブルに関しまして弊社は責任を負いかねます。
-

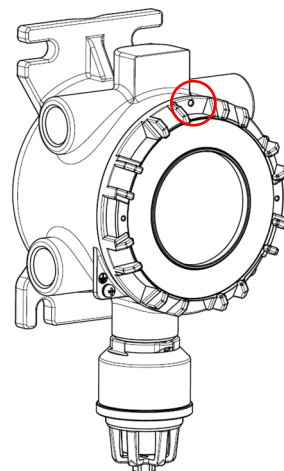
4-7-2 本体にケーブルを接続する

本体(SD-3、SD-3SC)に電源ケーブル、信号ケーブル、および接点用ケーブルを接続します。

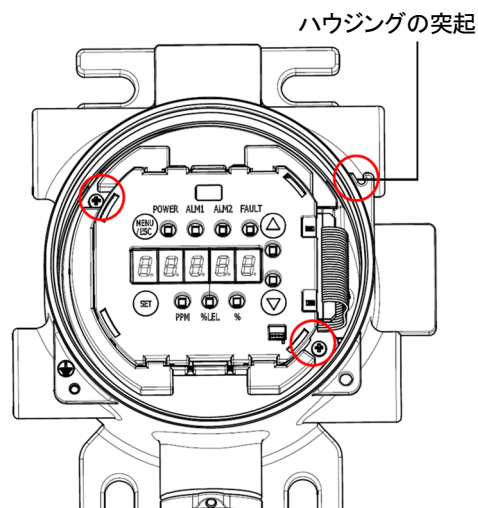
1 本体の蓋の六角穴付き止めねじ(M4)1本を緩め、蓋を反時計回りに回して取り外す

六角穴付き止めねじ(M4)は六角棒スパナ(対辺2)などの工具を使用して緩めてください。

蓋を緩めて取り外す際は、蓋を落とさないように注意してください。



2 表示ユニットを固定しているねじ(M3)2本を緩める



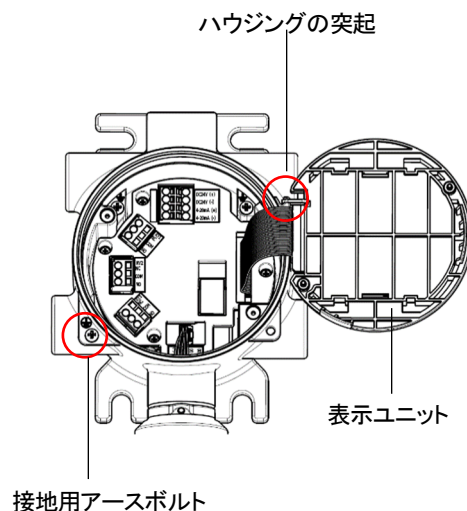
3 表示ユニットを取り出し、ハウジングの突起に引っ掛ける

表示ユニットと端子台ユニットはフラットケーブルで接続されています。無理に引っ張ると断線のおそれがあります。

表示ユニットを無理に引っ張らないように注意して取り出してください。

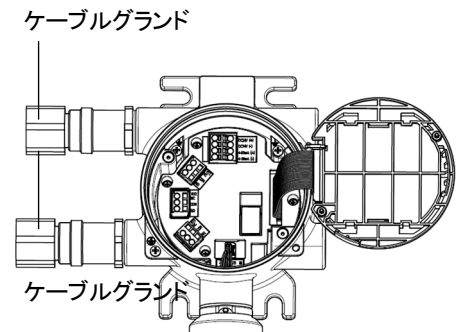
4 本体を接地する

D種接地相当(接地抵抗 100 Ω 以下)で設置してください。接地については、'4-6 接地端子の接続'を参照してください。



5 ケーブルグランドを本体の接続口に取り付ける

※図のケーブルグランドは、実際のもものと形状が異なる場合があります。設置の際は当社指定のケーブルグランドをご使用ください。



6 端子台基板上にある端子台を引き抜いて外す

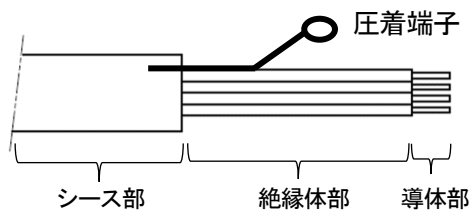
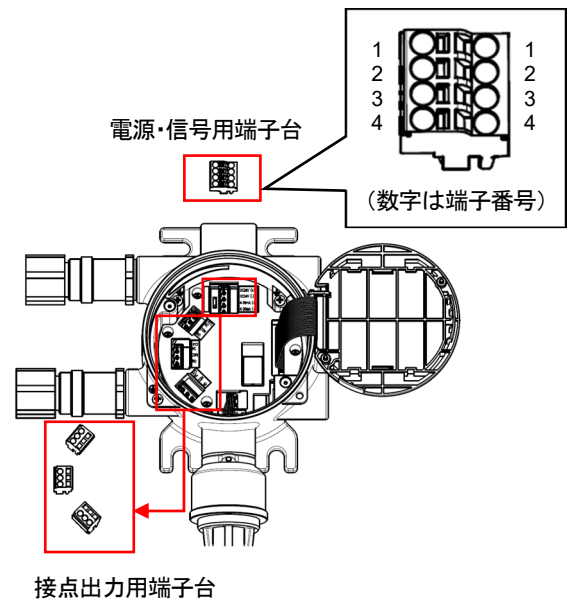
- 7 電源・信号用端子台に電源ケーブルと信号ケーブルを接続する
電源・信号用端子台の以下の端子に各ケーブルを接続してください。接点用ケーブルの接続は、‘4-9 アラームリレーの設定(オプション)’をご確認ください。端子台にケーブルを接続する方法については、‘4-7-5 端子台にケーブルを接続する’を参照してください。

＜3 線のケーブル使用時＞

端子番号	電源・信号ケーブルの接続
1	電源 (+)
2	コモン (電源 (-)、信号 (-))
3	信号 (+)

＜4 線のケーブル使用時＞

端子番号	電源・信号ケーブルの接続
1	電源 (+)
2	電源 (-)
3	信号 (+)
4	信号 (-)



推奨絶縁体部長さ: 40 - 50 mm

ケーブルを接続するときは、ケーブルのシールドを本体内部の左上もしくは右上の端子に接続してください。
設置環境によってはノイズの影響を受ける場合があります。
その場合は、シールドを外してください。

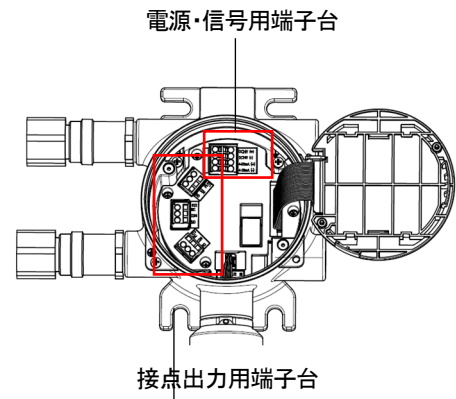
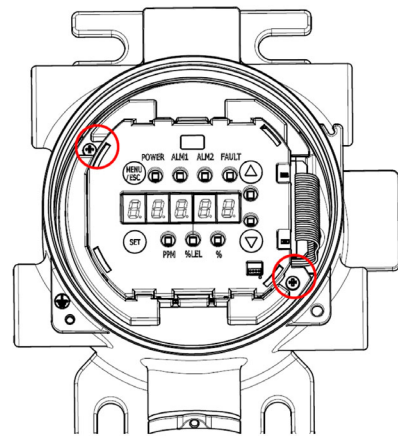
8 接点出力用端子台に必要な応じた数の接点用ケーブルを接続する

端子台にケーブルを接続する方法については、‘4-7-5 端子台にケーブルを接続する’を参照してください。

※ 接点出力なし(オプション)の場合、接点出力用端子台はありません。

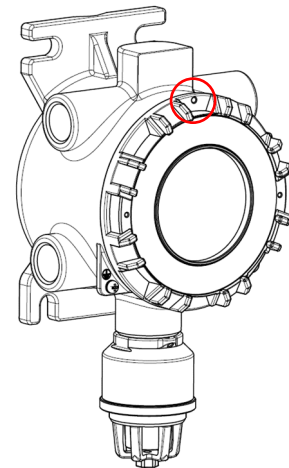
9 端子台を端子台基板に取り付ける

端子台に負荷がかからないようにケーブルの位置を調整してください。

**10 表示ユニットを元の位置に戻し、ねじ(M3)2本で固定する**
このとき、ケーブルを挟みこまないように注意してください。**11 蓋を時計回りに回して取り付け、六角穴付き止めねじ(M4)1本で固定する**

六角穴付き止めねじ(M4)は六角棒スパナ(対辺2)などの工具を使用して締めてください。

蓋を取り付ける際は、ケーブルを挟まないように注意してください。また、蓋は時計回りに回りきらなくなるまで確実に取り付けてください。

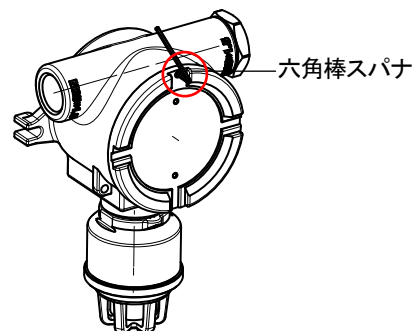
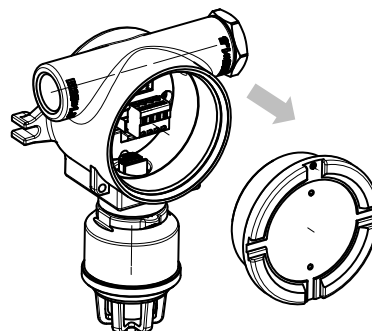


※ 図は SD-3 です。接続方法は SD-3SC も同じです。

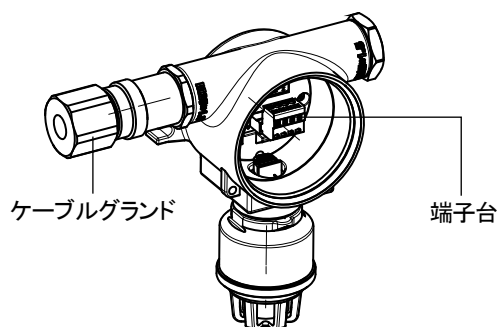
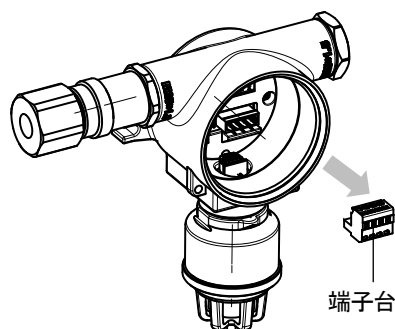
4-7-3 リモートセンサヘッド(GD-3)に電源ケーブルと信号ケーブルを接続する**1 リモートセンサヘッド(GD-3)の蓋の六角穴付き止めねじ(M4)1本を緩める**

六角穴付き止めねじ(M4)は六角棒スパナ(対辺 2)などの工具を使用して緩めてください。

蓋を緩めて取り外す際は、蓋を落とさないように注意してください。

**2 蓋を反時計回りに回して取り外す****3 ケーブルグランドをリモートセンサヘッド(GD-3)の接続口に取り付ける**

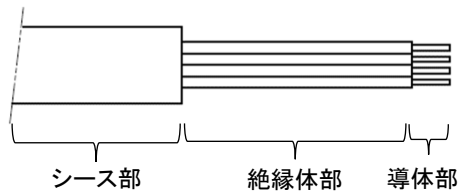
※図のケーブルグランドは、実際のものとは形状が異なる場合があります。設置の際は当社指定のケーブルグランドをご使用ください。

**4 端子台基板上にある端子台(TN1)を引き抜いて外す**

5 端子台に電源ケーブルと信号ケーブルを接続する

端子台の以下の端子に各ケーブルを接続してください。端子台にケーブルを接続する方法については、‘4-7-5 端子台にケーブルを接続する’を参照してください。

端子番号	電源・信号ケーブルの接続
1	電源(+)
2	電源(-)
3	信号(+)
4	信号(-)



推奨絶縁体部長さ: 50 - 60 mm

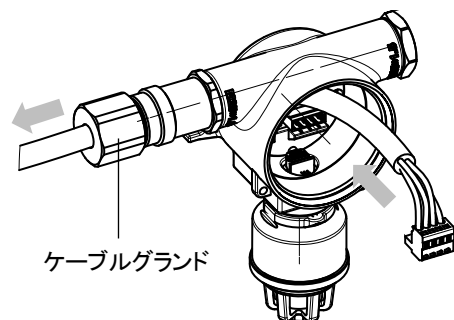
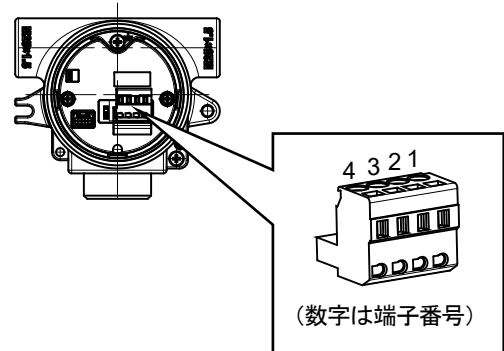
ケーブルを接続するときは、ケーブルのシールドを本体内部の左上もしくは右上の端子に接続してください。
設置環境によってはノイズの影響を受ける場合があります。
その場合は、シールドを外してください。

6 ケーブルを本体の内側から接続口に通す

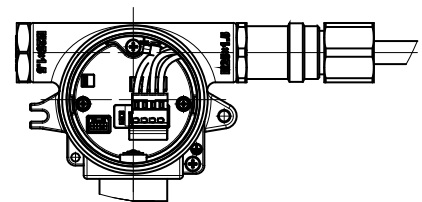
ケーブルグランドを取り付けた側の接続口に通してください。

7 端子台を端子台基板に取り付ける

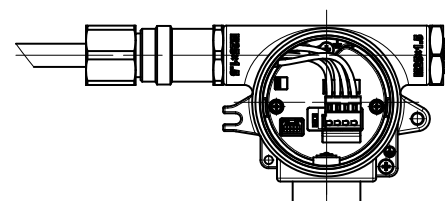
端子台に負荷がかからないようにケーブルの位置を調整してください。



<右側にケーブル(外部導線)を通した場合>



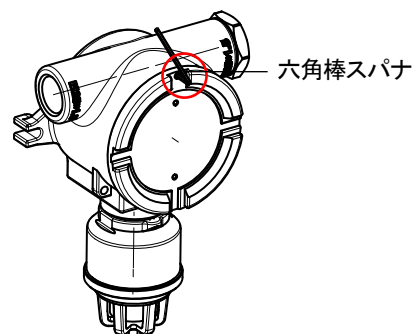
<左側にケーブル(外部導線)を通した場合>



8 蓋を時計回りに回して取り付け、六角穴付き止めねじ(M4)1本で固定する

六角穴付き止めねじ(M4)は六角棒スパナ(対辺2)などの工具を使用して締めてください。

蓋を取り付ける際は、ケーブルを挟まないように注意してください。
また、蓋は時計回りに回りきらなくなるまで確実に取り付けてください。

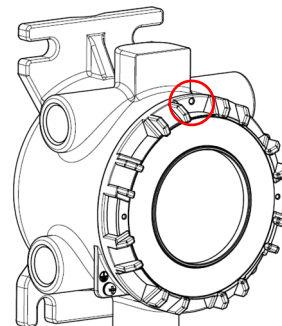


4-7-4 本体(SD-3SC)とリモートセンサヘッド(GD-3)を接続する

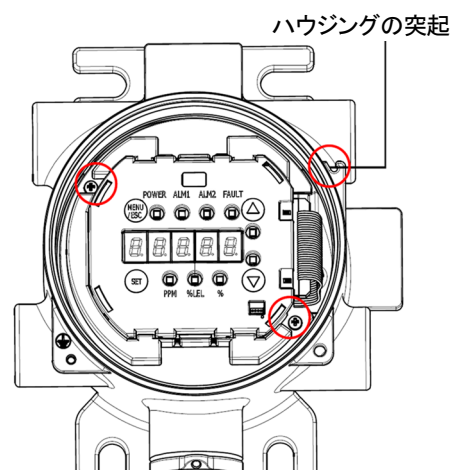
- 1 本体(SD-3SC)の蓋の六角穴付き止めねじ(M4)1本を緩め、蓋を反時計回りに回して取り外す

六角穴付き止めねじ(M4)は六角棒スパナ(対辺 2)などの工具を使用して緩めてください。

蓋を緩めて取り外す際は、蓋を落とさないように注意してください。



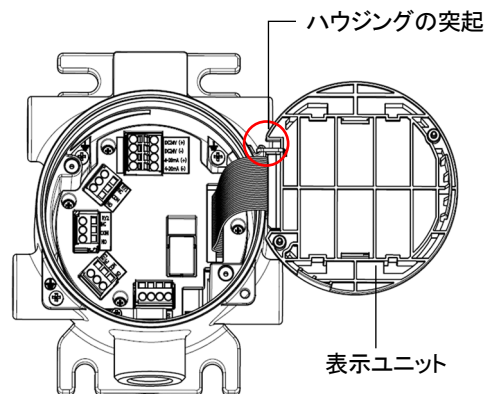
- 2 表示ユニットを固定しているねじ(M3)2本を緩める



- 3 表示ユニットを取り出し、ハウジングの突起に引っ掛ける

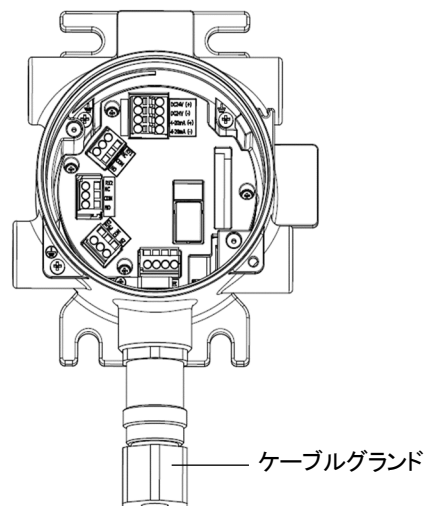
表示ユニットと端子台ユニットはフラットケーブルで接続されています。無理に引っ張ると断線のおそれがあります。

表示ユニットを無理に引っ張らないように注意して取り出してください。

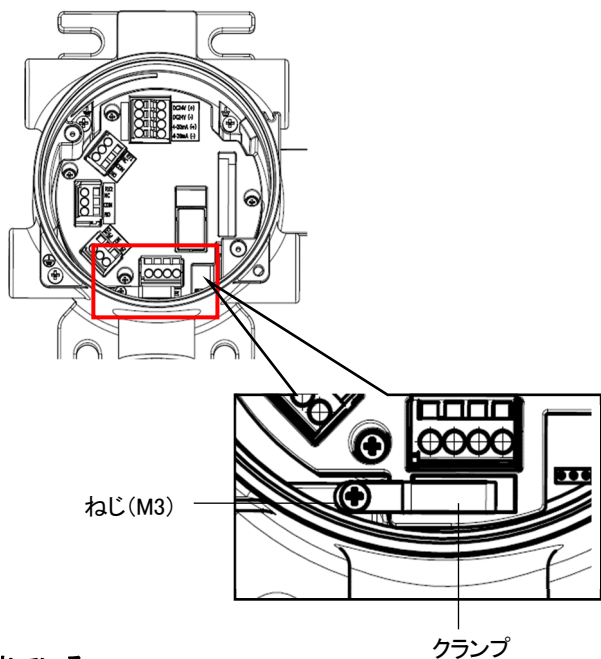


- 4 ケーブルグランドを本体の接続口に取り付ける

※図のケーブルグランドは、実際のものとは形状が異なる場合があります。設置の際は当社指定のケーブルグランドをご使用ください。

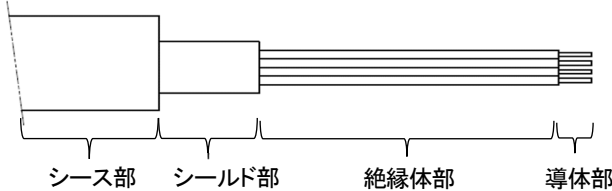


- 5 端子台基板上にあるリモート接続用端子台を引き抜いて外す
- 6 クランプを固定しているねじ(M3)1本を緩めて、クランプを取り外す

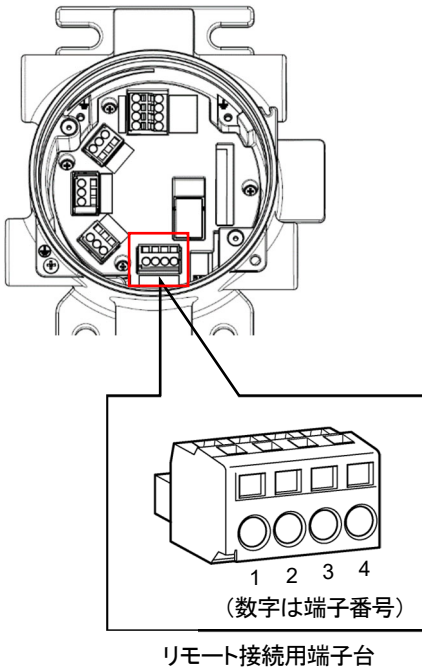


- 7 リモート接続用端子台にリモートセンサヘッド(GD-3)から出ている電源ケーブルと信号ケーブルを接続する
リモート接続用端子台の以下の端子に各ケーブルを接続してください。端子台にケーブルを接続する方法については、‘4-7-5 端子台にケーブルを接続する’を参照してください。

端子番号	電源・信号ケーブルの接続
1	電源(+)
2	電源(-)
3	信号(+)
4	信号(-)



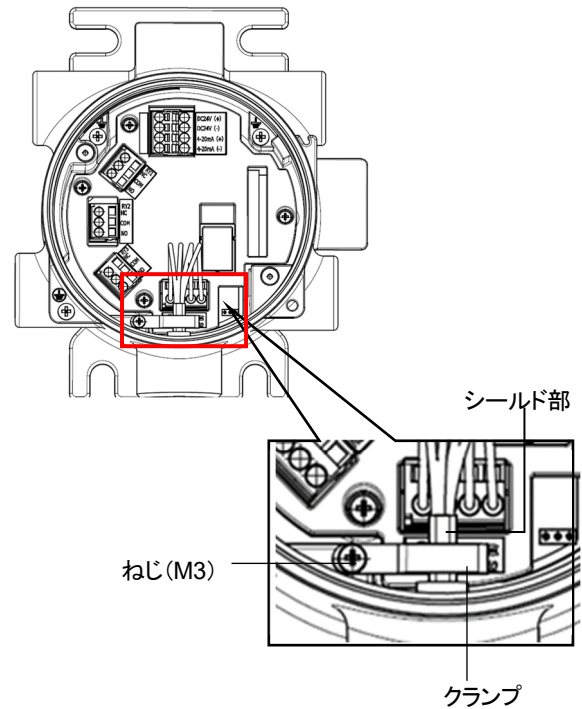
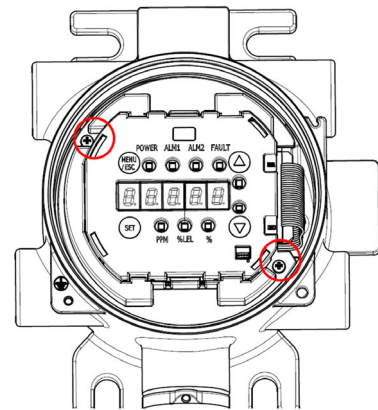
推奨シールド部長さ : 30 - 40 mm
推奨絶縁体部長さ : 130 - 140 mm



- 8 端子台を端子台基板に取り付ける
端子台に負荷がかからないようにケーブルの位置を調整してください。

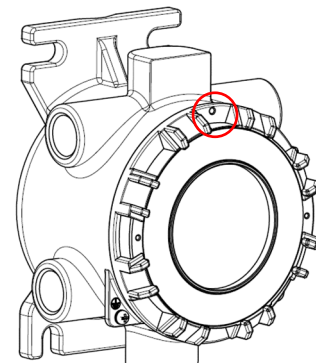
9 ケーブルにシールドクランプを行う

ケーブルのシールド部をクランプするようにして、
ねじ(M3)1本で固定してください。

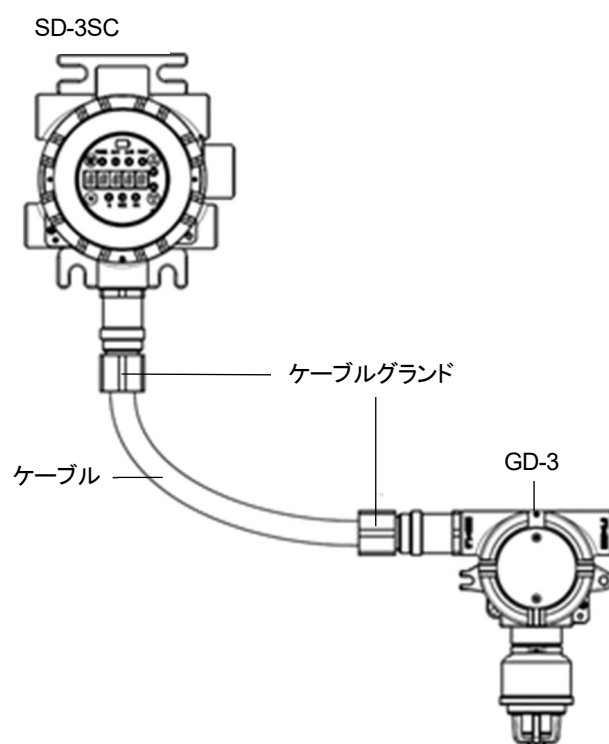
**10 表示ユニットを元の位置に戻し、ねじ(M3)2本で固定する**
このとき、ケーブルを挟みこまないように注意してください。**11 蓋を時計回りに回して取り付け、六角穴付き止めねじ(M4)1本で固定する**

六角穴付き止めねじ(M4)は六角棒スパナ(対辺2)などの工具を使用して締めてください。

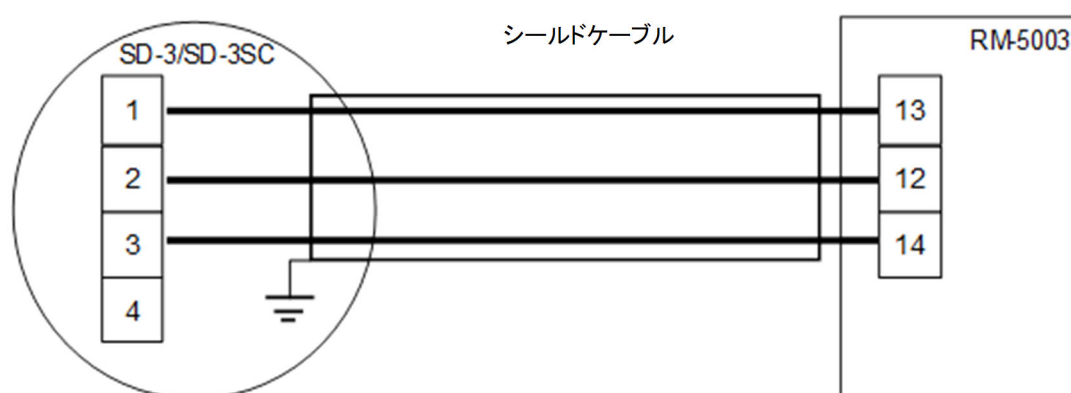
蓋を取り付ける際は、ケーブルを挟まないように注意してください。
また、蓋は時計回りに回りきらなくなるまで確実に取り付けてください。



<SD-3SC と GD-3 の接続例>



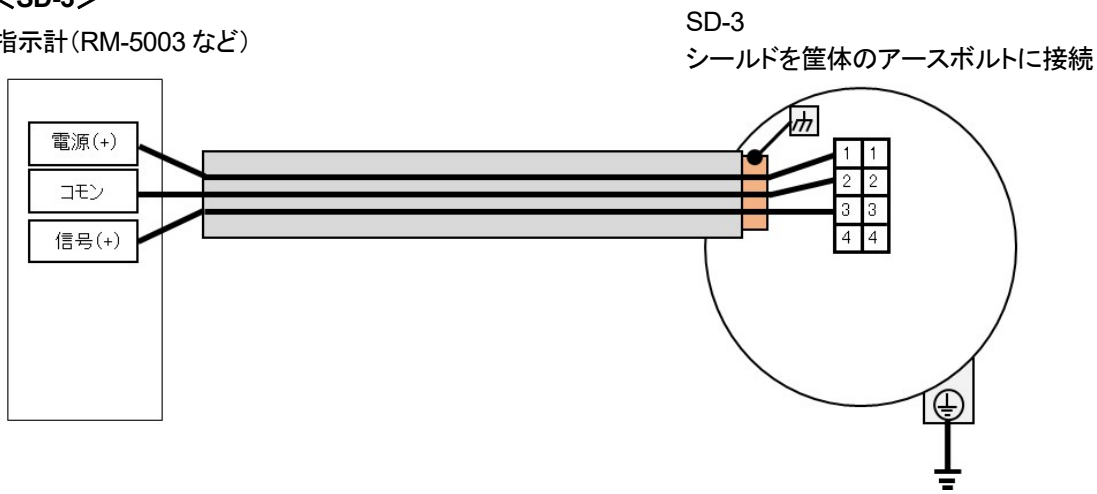
<SD-3/SD-3SC と RM-5003 の端子台接続例(一例)>



＜指示計との接続例＞

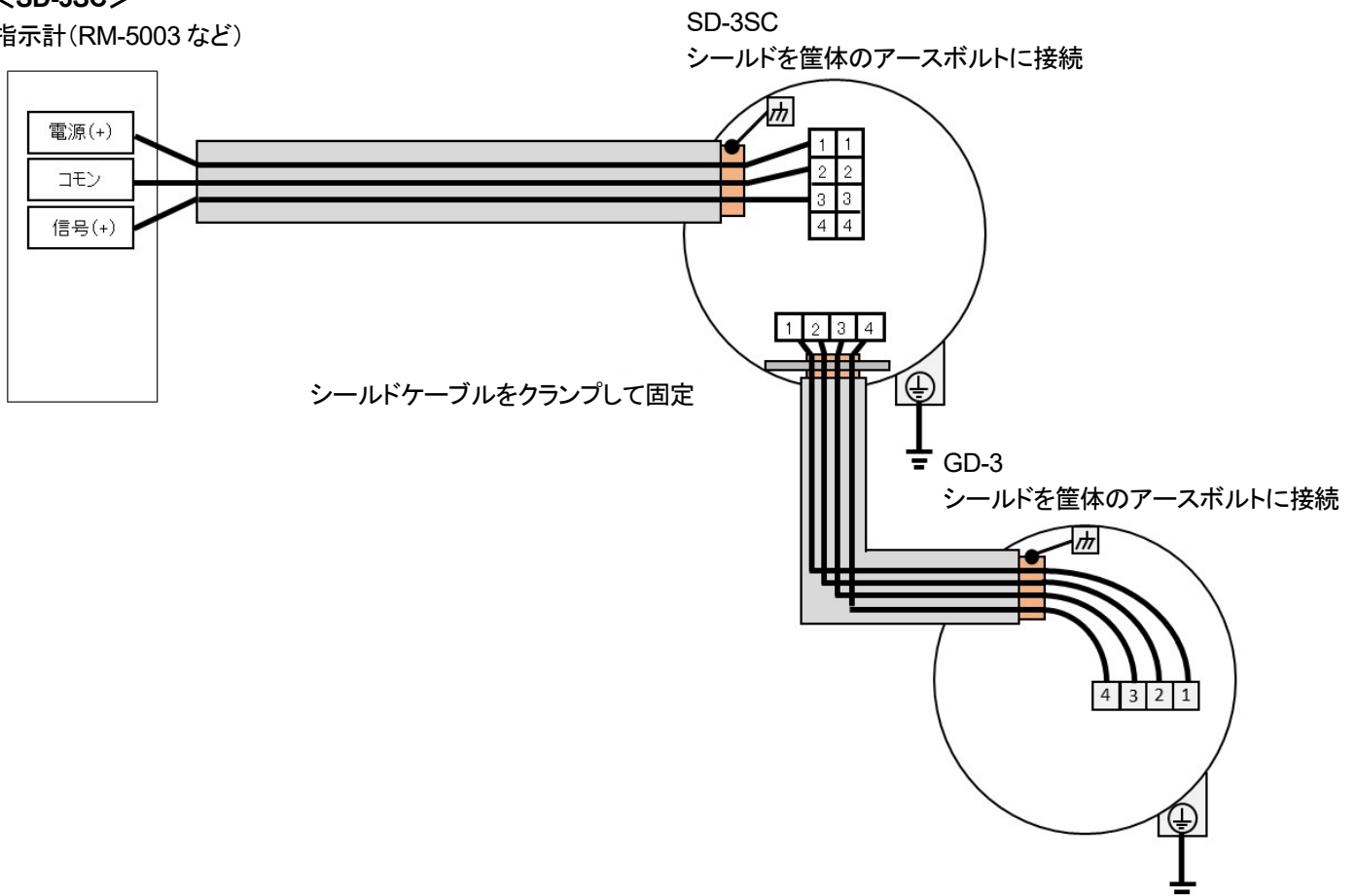
＜SD-3＞

指示計(RM-5003 など)



＜SD-3SC＞

指示計(RM-5003 など)



4-7-5 端子台にケーブルを接続する

ケーブルを規定の長さにむき出して、端子台の電線挿入口に接続します。

<端子台の仕様>

- ・ 定格電圧: AC 300 V
- ・ 定格電流: 10 A

ただし、使用するケーブルにより異なります。

<接続条件>

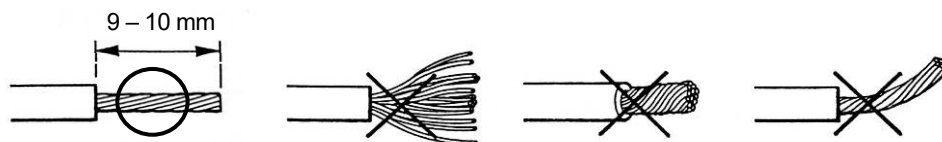
- ・ 使用ケーブル: $0.25 \text{ mm}^2 - 2.5 \text{ mm}^2$
- ・ 最大被覆外径: $\phi 4.1 \text{ mm}$
- ・ むき線(導体部)の長さ: 8 - 9 mm (SD-3 TN1 のみ 9 - 10 mm)
- ・ 接続工具: マイナスドライバ(刃先 $2.5 \times 0.5 \text{ mm}$)、または操作レバー(付属品)



注意

必ず規定のむき線(導体部)の長さを守ってケーブルをむき出してください。

- ・ むき線(導体部)の長さが短く、電線が正しくクランプされなかった場合、通電不良や発熱を起こすおそれがあります。
- ・ むき線(導体部)の長さが短く、電線の被覆をかんてしまった場合、通電不良や発熱を起こすおそれがあります。
- ・ むき線(導体部)の長さが長く、電線が露出してしまった場合、絶縁不良やショートの原因となることがあります。
- ・ 電線のバラケに注意してください。挿入時に電線がばらけた場合、絶縁不良や発熱を起こすおそれがあります。
- ・ 上記を防ぐため、むき線がより線の場合には棒端子(フェルール)の使用を推奨します。



<適合棒端子>

棒端子を使用する場合は、以下のものを使用してください。

- ・ 棒端子(フェルール): 型式 216 シリーズ (WAGO 製)
- ・ 圧着工具: 型式バリオクリンプ 4 (206-1204) (WAGO 製)



注意

- ・ 棒端子は必ず指定品を使用してください。指定以外の棒端子を使用した場合は、性能の保証はできません。

＜端子台にケーブルを接続する＞

端子台にケーブルを接続するには、標準付属品の操作レバー、またはマイナスドライバ(刃先 2.5×0.5 mm)を使用してください。

SD-3 の TN1 に電源、信号ケーブルを接続する場合には標準付属品の操作レバーは使用できません。マイナスドライバを使用してください。



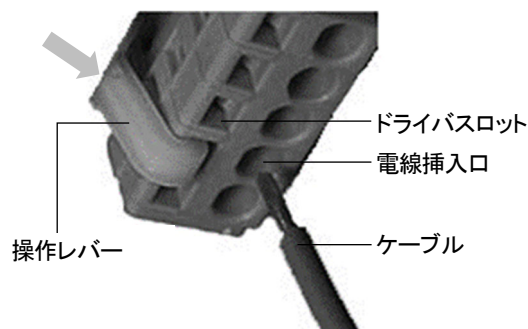
注意

- 必ず正しい工具を使用してください。
- 1つの電線挿入口には原則として1本のケーブルのみ結線が可能です。
- ドライバスロットにケーブルを差し込むと、導電部に接触しないため、通電不良や発熱を起こすおそれがあります。

標準付属品の操作レバーを使う場合は、以下のようにして端子台にケーブルを接続します。

- 1 操作レバーを右図のように、端子台のドライバスロット(角穴)にひっかける

- 2 操作レバーを指で押し、端子台の中のスプリングを押し下げる



- 3 操作レバーを押したまま、ケーブルを電線挿入口(丸穴)に突き当たるまで差し込む



- 4 操作レバーを放す

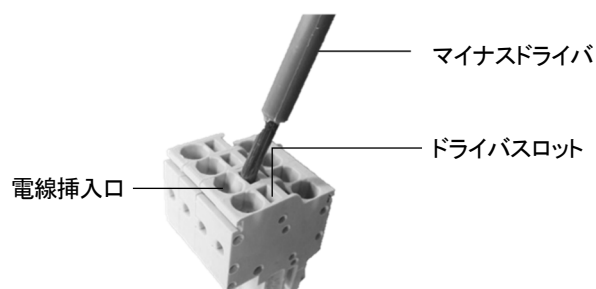
端子台にケーブルが接続されます。

正しく接続されているか、ケーブルを軽く引っ張って確認してください。

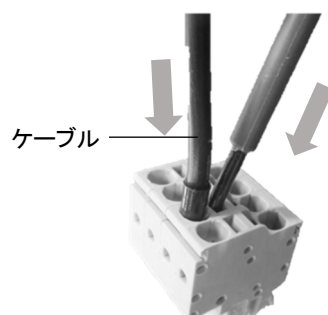
強く引っ張らないようにしてください。

SD-3 の TN1 への接続でマイナスドライバを使う場合は、以下のようにして端子台にケーブルを接続します。

- 1 マイナスドライバを右図のように、端子台のドライバスロット(角穴)に差し込む



- 2 マイナスドライバを差し込んだまま、ケーブルを電線挿入口(丸穴)に突き当たるまで差し込む



- 3 マイナスドライバを放す

端子台にケーブルが接続されます。

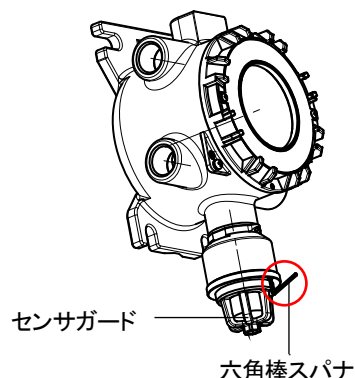
正しく接続されているか、ケーブルを軽く引っ張って確認してください。

強く引っ張らないようにしてください。

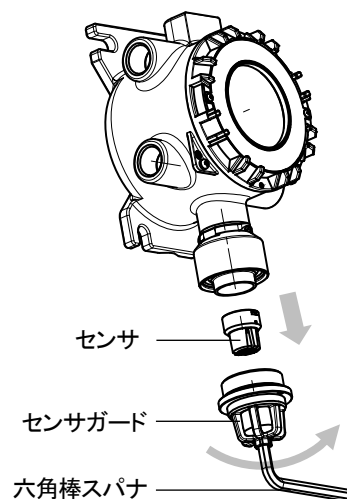
4-8 センサの取り付け

センサを本体(SD-3)または、リモートセンサヘッド(GD-3)に取り付けます。

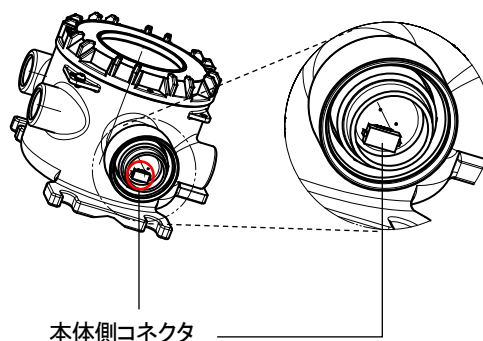
- 1 吸引キャップ、またはスプラッシュガード、フィルターを装着している場合は取り外す
- 2 センサガードを固定している六角穴付き止めねじ(M4)1本を緩める
六角穴付き止めねじ(M4)は六角棒スパナ(対辺2)などの工具を使用して緩めてください。



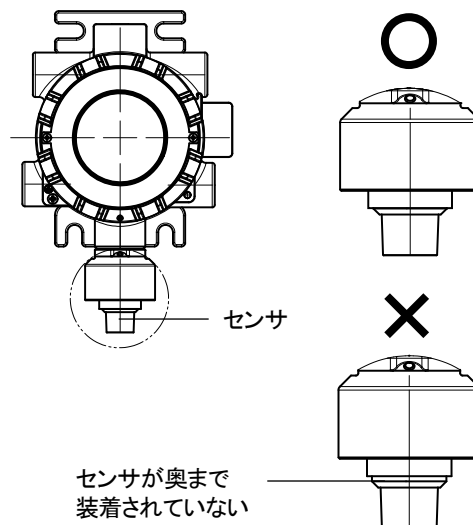
- 3 センサガードを回して取り外す
六角棒スパナ(対辺8)やスパナを使用して取り外してください。
- 4 センサが装着されている場合は、引き抜いて取り外す



- 5 本体側コネクタの向きとセンサ側のコネクタの向きを合わせ、センサを奥まで差し込む
センサを本体側コネクタの奥まで確実に差し込んでください。センサを差し込む際に無理に回したり、無理に押し込んだりすると本体が破損する可能性がありますので、注意してください。



6 センサが奥まで確実に装着されたか確認する

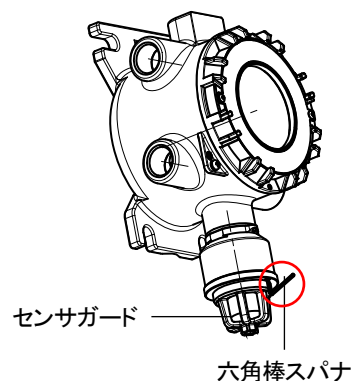


7 センサガードを本体に取り付ける

六角棒スパナ(対辺 8)やスパナを使用して取り付けてください。

8 センサガードを六角穴付き止めねじ(M4)1本で固定する

六角穴付き止めねじ(M4)は六角棒スパナなどの工具を使用して締めてください。



※ 図は SD-3 です。取り付け方法はリモートセンサヘッド(GD-3)も同じです。



注意

- センサ交換の際に、センサによっては異物が混入すると指示変動の原因となる場合があります。

4-9 アラームリレーの設定(オプション)

アラームリレーを設定すると本器を単独ユニットとして操作することができます。

アラームリレーはデフォルトでは非励磁に設定されています。



警告

- AC 30 V または DC 42.4 V 以上の電圧を使う場合は、ケーブルに保護管を取り付けるか、二重絶縁ケーブルを使用してください。

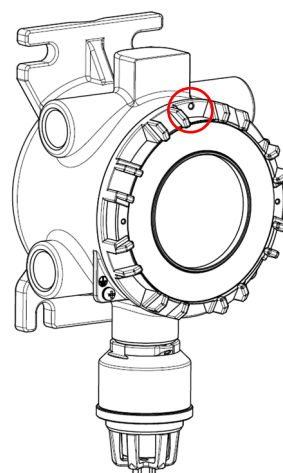


注意

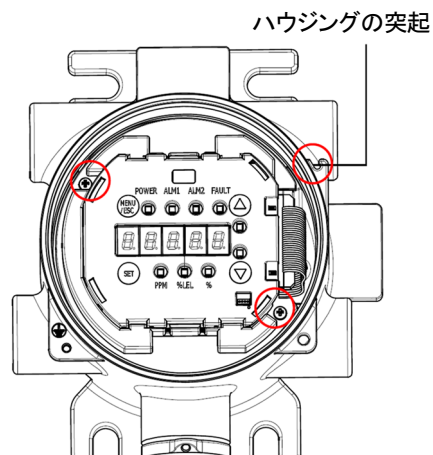
- アラームリレーの接点を常時閉にて使用する場合、微小な振動などにより接点部の焼き付きが発生する場合があります。
- 本器に電源を供給する前に、アラームリレーのケーブルとセンサを接続してください。

アラームリレーを設定するには、警報装置の配線を本体(SD-3、SD-3SC)の TN2(Relay1:ALARM1)、TN3(Relay2:ALARM2)、TN4(Relay3:FAULT)の端子台に接続します。

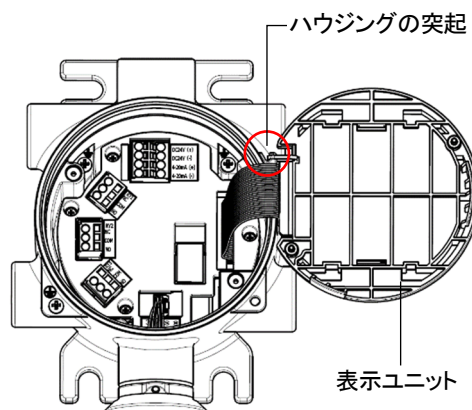
- 1 本体の蓋の六角穴付き止めねじ(M4)1本を緩め、蓋を反時計回りに回して取り外す
六角穴付き止めねじ(M4)は六角棒スパナ(対辺2)などの工具を使用して緩めてください。
蓋を緩めて取り外す際は、蓋を落とさないように注意してください。



- 2 表示ユニットを固定しているねじ(M3)2本を緩める



- 3 表示ユニットを取り出し、ハウジングの突起に引っ掛ける
表示ユニットと端子台ユニットはフラットケーブルで接続されています。無理に引っ張ると断線のおそれがあります。
表示ユニットを無理に引っ張らないように注意して取り出してください。



- 4 端子台基板上にある端子台(TN2(Relay1:ALARM1)、TN3(Relay2:ALARM2)、TN4(Relay3:FAULT))を引き抜いて外す

- 5 警報装置の配線を取り外した端子台の対応する端子に接続する

端子台の端子 1(N.O.)、または端子 3(N.C.)のいずれかを使用します。

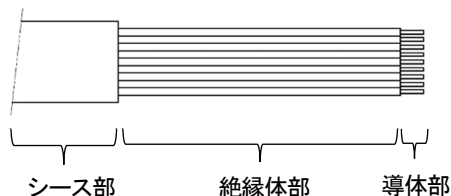
端子台にケーブルを接続する方法については、'4-7-5 端子台にケーブルを接続する'を参照してください。

TN2(Relay 1:ALARM1)、TN3(Relay2:ALARM2)、TN4(Relay3:FAULT)共通
(デフォルト設定時(正常時非励磁)の端子割り当て)

端子番号	ケーブルの接続
1	N.O.
2	コモン
3	N.C.

N.O.:Normal Open

N.C.:Normal Close



推奨絶縁体部長さ:120 - 130 mm

- 6 端子台(TN2(Relay1:ALARM1)、TN3(Relay2:ALARM2)、TN4(Relay3:FAULT))を端子台基板に取り付ける

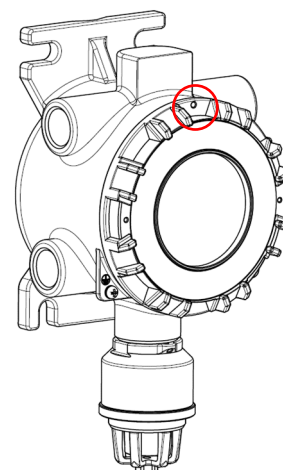
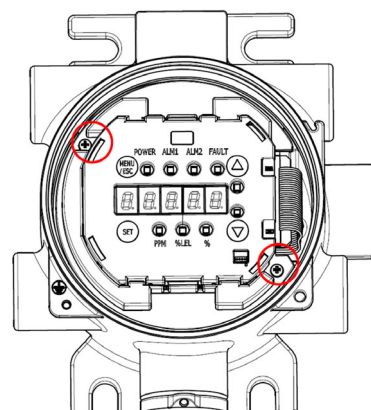
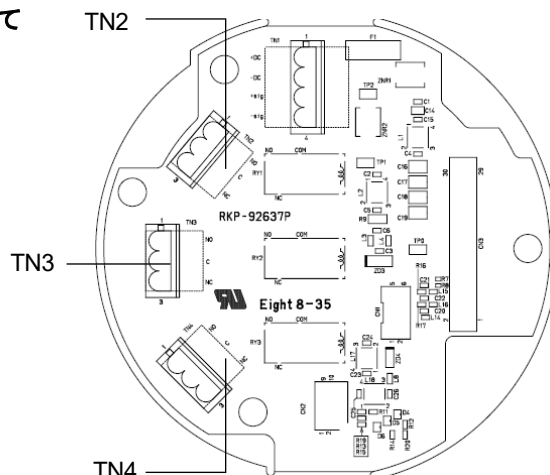
端子台に負荷がかからないようにケーブルの位置を調整してください。

- 7 表示ユニットを元の位置に戻し、ねじ(M3)2本で固定する
このとき、ケーブルを挟みこまないように注意してください。

- 8 蓋を時計回りに回して取り付け、六角穴付き止めねじ(M4)1本で固定する

六角穴付き止めねじ(M4)は六角棒スパナ(対辺2)などの工具を使用して締めてください。

蓋を取り付ける際は、ケーブルを挟まないように注意してください。また、蓋は時計回りに回りきらなくなるまで確実に取り付けてください。

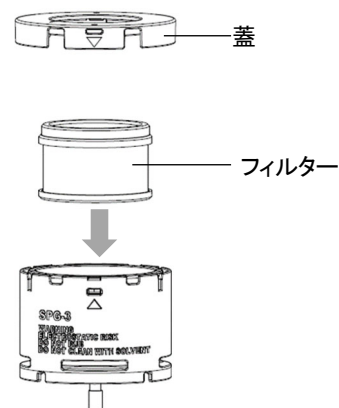


※ 図は SD-3 です。接続方法は SD-3SC も同じです。

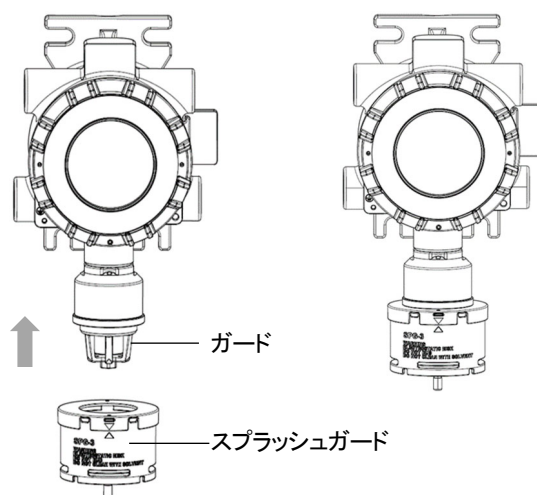
4-10 スプラッシュガードの取り付け

シリコーン除去フィルター、または活性炭フィルターを使用する場合は、スプラッシュガード内にフィルターを収納してからスプラッシュガードを取り付けてください。

- 1 シリコーン除去フィルター、または活性炭フィルターを使用する場合は、スプラッシュガードの蓋を取り外し、フィルターをスプラッシュガードに収納して蓋を取り付ける
シリコーン除去フィルター、または活性炭フィルターを使用しない場合、この手順は不要です。



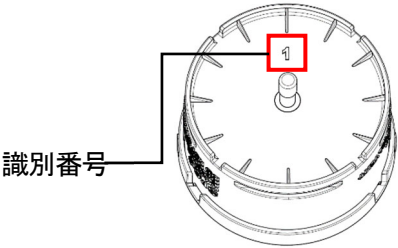
- 2 スプラッシュガードを本体のガードの上から被せ、時計回りに回し固定する
スプラッシュガードは時計回りに回りきらなくなるまで確実に取り付けてください。
このとき、強く回しすぎないように注意してください。



※ 図は SD-3 です。取り付け方法はリモートセンサヘッド (GD-3) も同じです。

注記

- ▶ スプラッシュガードは、IRF センサ用、可燃性センサ用、ESF センサ用の 3 種類があります。
各スプラッシュガードの底面には、識別番号が刻印されています。
 - ・IRF センサ用識別番号 :1
 - ・NCF/SGF/SHF センサ用識別番号 :2
 - ・ESF センサ用識別番号 :3
- ▶ 各スプラッシュガードを使用できる SD-3、GD-3 の型式は以下のとおりです。



<IRF センサ用>	<NCF/SGF/SHF センサ用>	<ESF センサ用>
SD-3RI	SD-3NC	SD-3EC
GD-3RI	SD-3GH	SD-3ECB
	SD-3SP	GD-3EC
	GD-3NC	GD-3ECB
	GD-3GH	
	GD-3SP	

5

使用方法

5-1 始動準備

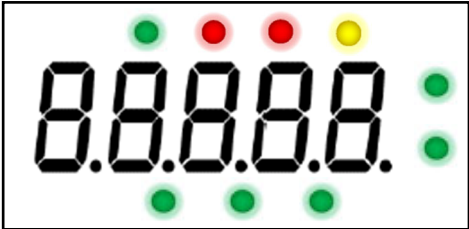
電源を接続する前に、以下の確認作業を行ってください。これらの確認を行わないと、感電の危険や機器を損傷するおそれがあります。

- ・ 本器が接地されていることを確認してください。
- ・ 外部との配線が正しく行われていることを確認してください。
- ・ 供給電源電圧が定格内であることを確認してください。
- ・ 調整中は外部接点が動作する場合があります。接点が動作した場合は、外部に影響が出ないように処置してください。

＜表示例の見方＞

本取扱説明書では、LED の表示例を以下のように示します。
また、表示例は検知対象ガスが可燃性ガス(単位表示:%LEL 点灯)の場合を例に記載します。

PW AL1 AL2 F



PPM %LEL %

PW :POWER(電源ランプ) ● 点灯(緑色) / ⚙ 点滅(緑色)

AL1 :ALM1(警報ランプ) ● 点灯(赤色)

AL2 :ALM2(警報ランプ) ● 点灯(赤色)

F :FAULT(故障ランプ) ● 点灯(黄色)

PPM :単位ランプ ● 点灯(緑色)

%LEL :単位ランプ ● 点灯(緑色)

% :単位ランプ ● 点灯(緑色)

5-2 始動する



注意

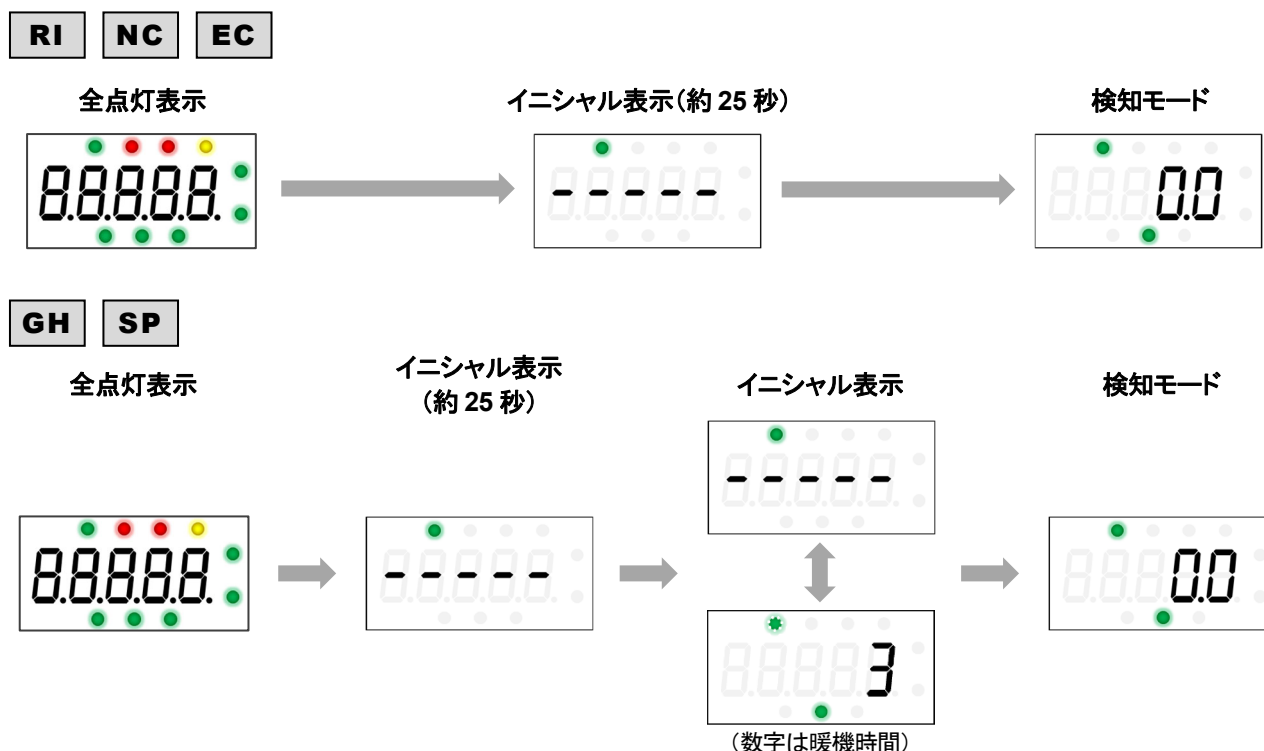
- 本器に電源 (DC 24 V) を供給する前に、本器が正しく設置されているか確認してください。

電源 (DC 24 V) を供給し、本器を始動します。

電源を供給すると約 25 秒間、機器のシステム確認や警報遮断などのイニシャルクリアが行われ、検知モードになります。

電源供給後、以下のように自動的に表示が切り替わります。

通常は電源供給後、検知モードで使用します。

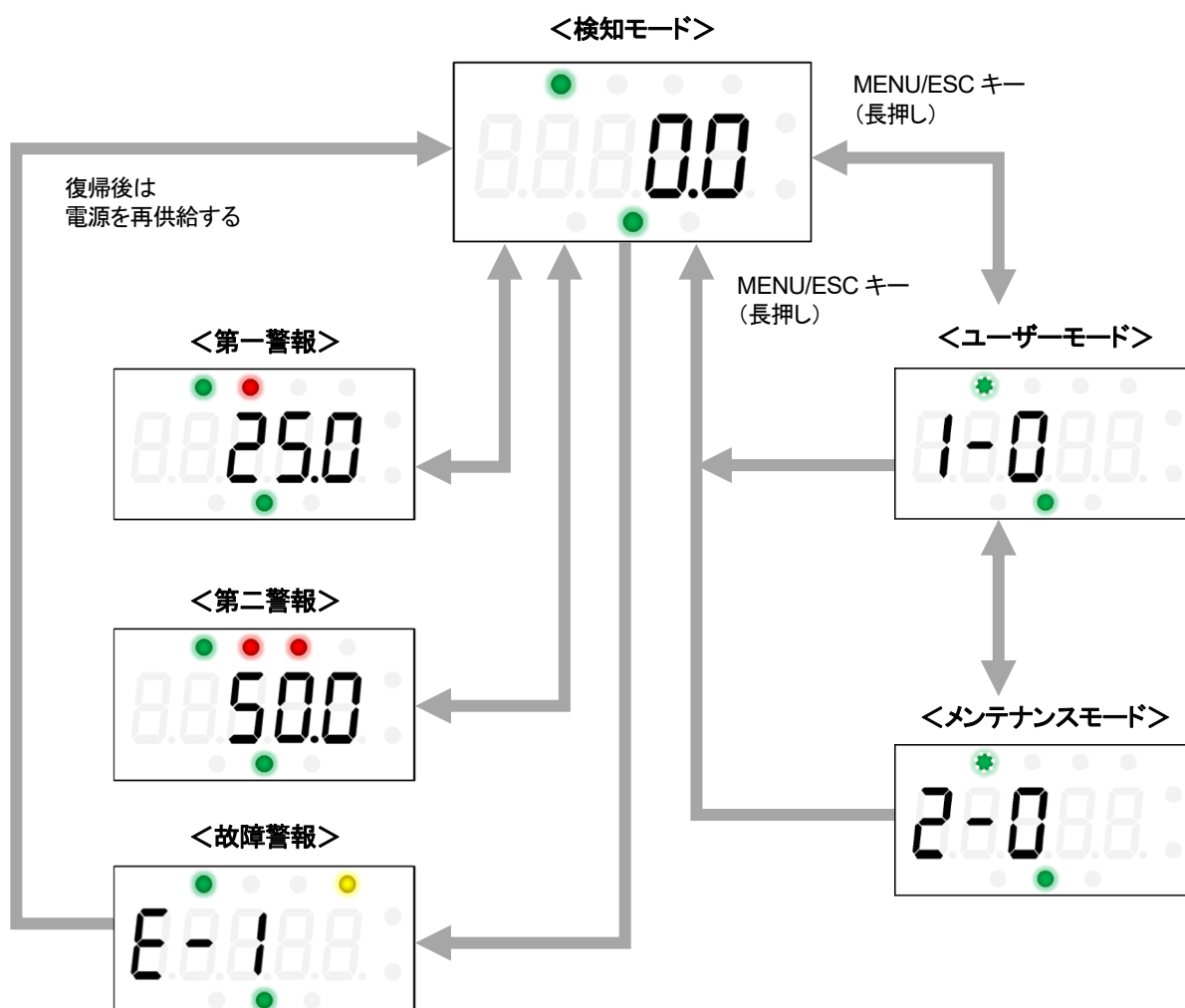


注意

- イニシャルクリア中は絶対に電源を切らないでください。イニシャルクリア中は内部メモリの読み出しを行っています。
- 始動後やセンサ交換時などにはセンサの種類に応じた暖機が必要になります。所定時間まで暖機運転を行ってください。なお、半導体式センサ (SGF)、熱線型半導体式センサ (SHF) はイニシャルクリア後に暖機終了目安時間が表示されます。また、暖機運転中は、警報動作、出力信号が不安定となります。あらかじめ、関連部署へ通知するなどして、異常にならないようにしてください。
- 暖機運転終了後、ガス校正を行ってください。

5-3 基本動作フロー

電源供給後、本器は MENU/ESC キーの押下で以下のような動作を行います。



警告

- 警報状態にあるときに、検知モードからユーザーモード、またはメンテナンスモードに切り替えると警報が解除されます。

注記

- ▶ 本器の LED は、7 セグメント 5 桁表示のため、設定内容を項目番号で表示します。
ユーザーモードやメンテナンスモードで設定をするときは、設定内容に対応する項目番号を選択して行ってください。(‘5-5-1 ユーザーモードの設定項目’、取扱説明書(テクニカルマニュアル)‘7-2-1 メンテナンスモードの設定項目’参照)

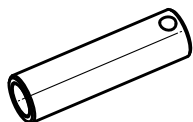
5-4 操作方法

本器の操作は、コントロールキーを使って行います。

コントロールキーで本器正面の 4 つのキー(MENU/ESC キー、SET キー、▲キー、▼キー)に触れることにより操作を行います。

本取扱説明書では、コントロールキーで各キーに触れる操作を“押す”と表記しています。

<コントロールキー>



注意

- コントロールキーをガラス面に強く押し当てないでください。

5-5 ユーザーモード

ユーザーモードに切り替えると、ゼロ校正や各種設定内容を確認することができます。



注意

- むやみに設定を変更しないでください。内容を把握せずに設定を変更すると、正しく動作しなくなることがあります。

5-5-1 ユーザーモードの設定項目

項目番号	設定項目	LED 表示	内容
1-0	バージョン確認		プログラムのバージョンなどを表示します。 通常、お客様においては使用しません。
1-1	ゼロ校正		ゼロ校正を行います。 (‘5-6 ゼロ校正を行う’ 参照)
1-2	設定値表示		各種設定値を表示します。 (‘5-7 設定値を確認する’ 参照)
1-3	メンテナンスモード切替		メンテナンスモードに切り替えます。 (取扱説明書(テクニカルマニュアル) ‘7-2 メンテナンスモード’ 参照)

5-5-2 ユーザーモードに切り替える

- 1 検知モードで MENU/ESC キーを長押しする(約 3 秒間)



ユーザーモードに切り替わります。



- 2 ▲キーまたは▼キーを押して項目番号を選択し、SET キーを押す



表示例: 設定値表示を選択時

選択した項目番号の内容が表示されます。
各項目で設定、または表示を行います。



- 3 操作が終了したら、MENU/ESC キーを長押しする(約 3 秒間)
検知モードに切り替わります。



警告

- 操作が終了したら、MENU/ESC キーを長押しして、必ず検知モードに戻してください。本器は、調整・設定状態ではガスを検知しません。ユーザーモードのまま放置した場合、検知モードに戻るのは 10 時間後です。その間は無監視状態となり危険です。

5-6 ゼロ校正を行う

ガス濃度を正確に測定するために必要なゼロ校正を行います。

ゼロ校正を行う前にゼロ校正用のガスを準備し、本器と接続してください。

ゼロ校正の準備については、取扱説明書(テクニカルマニュアル) '7-4-1 ガス校正の準備' を参照してください。



警告

- ゼロ校正を周辺空気で行う場合は、周辺が清浄な大気であることを確認してから行ってください。雑ガスなどが存在する状態でゼロ校正を行うと、正しい校正が行えず、実際にガスが漏洩した場合に危険です。



注意

- ゼロ校正は、ゼロ校正用のガスを供給し、指示が安定してから行ってください。

- 1 ユーザーモードで、▲キーまたは▼キーを押して[1-1]を選択し、SET キーを押す



- 2 ゼロ校正用のガスを導入し、SET キーを押す



ゼロ校正が開始されます。



- 3 ゼロ校正の結果を確認する

ゼロ校正が成功した場合

[PASS]と表示され、3 秒後、自動的に[1-1]の表示に戻ります。



ゼロ校正に失敗した場合

[FAIL]と表示され、3 秒後、自動的に[1-1]の表示に戻ります。



注記

- ▶ ゼロ点(酸素の場合は N₂)がゼロ付近より大きく変動しているなどの理由により、ゼロ校正が失敗した場合は、[FAIL]を表示した後、[1-1]の表示に戻ります。この場合、ゼロ校正は実行されていません。
 - ▶ 酸欠警報仕様では、[1-1]はスパン校正になります。清浄な大気を導入して[20.9](vol%)に調整してください。スパン校正については取扱説明書(テクニカルマニュアル)‘7-4-3 スパン校正を行う’を参照してください。
-

5-7 設定値を確認する

の各種設定値を表示します。

項目番号		設定項目	備考
1-2		設定値表示	
	1-2.0	警報設定表示	ゼロ追尾設定 ON/OFF 表示 : NC EC 感度補正 ON/OFF 表示 : EC
	1-2.1	—	通常、お客様においては使用しません。

5-7-1 警報設定値を確認する

第一警報点、第二警報点、警報遅延時間などの警報設定を表示します。

注記

- ▶ ゼロ追尾設定 ON/OFF 表示は、検知原理がニューセラミック式、および定電位電解式の場合にのみ表示されます。（‘1-2-2 型式別の検知原理と検知対象ガス’参照）
- ▶ 感度補正 ON/OFF 表示は、検知原理が定電位電解式の場合にのみ表示されます。（‘1-2-2 型式別の検知原理と検知対象ガス’参照）

- 1 ユーザーモードで、▲キーまたは▼キーを押して[1-2]を選択し、SET キーを押す



- 2 [1-2.0]を選択し、SET キーを押す



- 3 警報設定の各設定値を確認する

▲キーまたは▼キーを押して、設定値の表示を切り替えます。

- ・ 第一警報点表示
第一警報点が表示されます。



- ・ 第二警報点表示
第二警報点が表示されます。



- ・ 警報遅延表示
警報遅延時間(秒)が表示されます。
(通常、お客様において設定を変更することはできません。)



- ・ ゼロサプレス値表示
プラス側のサプレス値が表示されます。



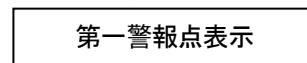
- ・ ゼロ追尾 ON/OFF 表示
ゼロ追尾設定の ON/OFF が表示されます。
(通常、お客様において設定を変更することはできません。)



- ・ 感度補正 ON/OFF 表示
感度補正の ON/OFF が表示されます。
(通常、お客様において設定を変更することはできません。)



▲キーを押すと、第一警報点表示に戻ります。



4 MENU/ESC キーを押す

[1-2.0]の表示に戻ります。

注記

- ▶ 第一警報点、第二警報点、ゼロサプレス値はメンテナンスモードの環境設定 1 で設定できます。(‘7-5 環境設定 1’を行う)

5-8 終了する

本器の動作を終了する場合は、検知モードの状態ですべて電源(DC 24 V)の供給を止めてください。



警告

- 本器の動作を終了することにより、上位(中央)システムで警報が動作する可能性があります。
- 本器の動作を終了する場合は、上位(中央)システムで INHIBIT 設定を ON(警報処理を停止)にしてから行ってください。また、本器の外部出力、外部接点出力端子に接続されている機器の動作を確認し、電源を遮断しても良いか判断してください。
- 接点を使用している場合(オプション)は、電源の供給を止めると接点が動作することがあります。

6

保管・移設および廃棄について

6-1 保管または長期間使用しない場合の処置

本器は下記の条件下で保管してください。

- ・ 常温、常湿、直射日光の当たらない場所
- ・ ガス、溶剤、蒸気などの発生しない場所

<保管条件(センサ)>

型式	保管 期限 (年)	温度 (°C)		湿度※1 (%RH)		圧力 (kPa)		備考
	—	最小	最大	最小	最大	最小	最大	
SGF	0.5	-10	40	0	90	80	120	・ センサは指定の梱包ケースに収納して保管すること。 ・ 直射日光を避けた場所に保管すること。 ・ 腐食性ガス、振動、塵埃などのない雰囲気保管すること。 ・ 結露や水濡れのなきこと。 ・ 触媒毒となるようなガス(代表例:シリコーン系、塩素系、硫黄系)のない雰囲気保管すること。
SHF	0.5	-10	40	0	90	80	120	
NCF	0.5	-10	40	0	90	80	120	
IRF	0.5	-10	40	0	90	80	120	・ センサは指定の梱包ケースに収納して保管すること。 ・ 直射日光を避けた場所に保管すること。 ・ 腐食性ガス、振動、塵埃などのない雰囲気保管すること。 ・ 結露や水濡れのなきこと。
ESF	0.5	-10	40	0	90	80	120	・ センサは指定の梱包ケースに収納して保管すること。 ・ 直射日光を避けた場所に保管すること。 ・ 腐食性ガス、振動、塵埃などのない雰囲気保管すること。 ・ 結露や水濡れのなきこと。 ・ 触媒毒となるようなガス(代表例:シリコーン系、塩素系、硫黄系)のない雰囲気保管すること。

※1 湿度最大値は絶対湿度 33 g/m3 以下(33.6 °C 90 %RH)です。

＜保管条件(センサ搭載 SD-3)＞

型式	保管 期限 (年)	温度 (℃)		湿度※1 (%RH)		圧力 (kPa)		備考
	—	最小	最大	最小	最大	最小	最大	
SGF	0.5	-10	40	0	90	80	120	・ 直射日光を避けた場所に保管すること。 ・ 腐食性ガス、振動、塵埃などのない雰囲気 に保管すること。 ・ 結露や水濡れのなきこと。 ・ 触媒毒となるようなガス(代表例:シリ コーン系、塩素系、硫黄系)のない雰 囲気に保管すること。
SHF	0.5	-10	40	0	90	80	120	
NCF	0.5	-10	40	0	90	80	120	
IRF	0.5	-10	40	0	90	80	120	・ 直射日光を避けた場所に保管すること。 ・ 腐食性ガス、振動、塵埃などのない雰 囲気に保管すること。 ・ 結露や水濡れのなきこと。
ESF-A※2	0.5	-10	40	20	90	80	120	・ 直射日光を避けた場所に保管すること。 ・ 腐食性ガス、振動、塵埃などのない雰 囲気に保管すること。 ・ 結露や水濡れのなきこと。 ・ 触媒毒となるようなガス(代表例:シリ コーン系、塩素系、硫黄系)のない雰 囲気に保管すること。 ・ 専用のセンサ保管容器に保管すること※6。 使用する場合は、稼働直前に専用容 器を開けてセンサを取り出し、検知器 に搭載すること。
ESF-X※3								
ESF-B※4	0.5	-10	40	30	80	80	120	
ESF-C※5								

※1 湿度最大値は絶対湿度 33 g/m3 以下 (33.6 °C 90 %RH) です。

※2 ESF-A は、"ESF-A"で始まる型式のセンサを表します。

※3 ESF-X は、"ESF-X"で始まる型式のセンサを表します。

※4 ESF-B は、"ESF-B"で始まる型式のセンサを表します。

※5 ESF-C は、"ESF-C"で始まる型式のセンサを表します。

※6 容器に保管しない場合、90 %RH 以上の環境では液漏れの可能性があります。また、ESF-B※4 は、低湿度では液枯れする可能性があります。



注意

- 本器は大変重く、また突起もあるため、一般的な梱包では本器や同梱した部材を破損する恐れがあります。本器を保管もしくは何かしらの理由で弊社へ返却する際は、本器が入っていた梱包箱を使用してください。梱包箱がない場合は、二重梱包を行い、梱包箱内部で本器が動かないように固いもので隙間を埋めて固定してください。また、壊れやすいものは梱包しないようにしてください。

6-2 移設または再度使用する場合の処置

本器を移設して再度使用する場合、移設場所については‘4-1 設置に関する留意事項’を参照してください。
また、設置方法については、‘4. 設置方法’を参照してください。



注意

- ・ 移設または停止保管後、再度使用する場合には、必ずガス校正を行ってください。ガス校正を含め、再調整時には弊社営業部までご連絡ください。

6-3 製品の廃棄

- ・ 本器を廃棄する場合は、産業廃棄物(不燃物)として地域の法令などに従い、適切な処理をしてください。
- ・ 使用済みセンサユニットは必ず弊社に返却してください。返却は弊社営業部へお願い致します。
- ・ 定電位電解式センサ (ESF センサ) で万一液漏れしている場合は、液に直接触れないように注意し、必ずビニール袋に入れて、液が外部に漏れないようにしてください。
- ・ 本器および ESF センサにはコイン形電池を搭載しています。廃棄する際には事前に適切に処理することが必要ですので、お近くの代理店にご連絡ください。

<SD-3 本体>

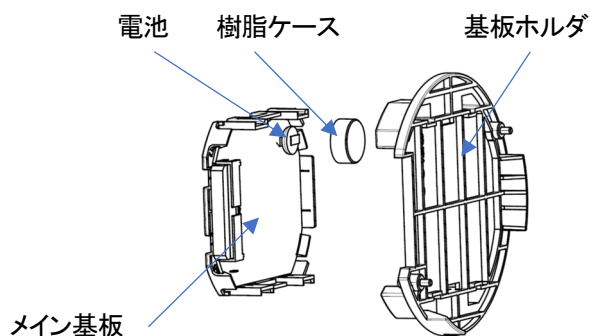
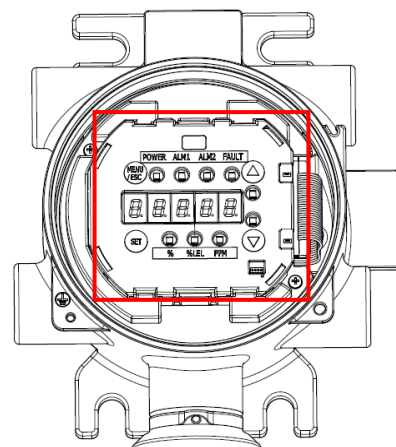
コイン形リチウム電池の仕様

品名	リチウム電池
公称電圧	3.0V
公称容量	48mAh

取り外し方法

右図赤枠で示したメイン基板ユニットを取り外します。基板ホルダを外し、メイン基板の裏面(7 セグメントと反対側の面)に電池があります。

電池は樹脂ケースでカバーをしています。樹脂ケースは基板に接着していますので、ペンチやマイナスドライバー等で樹脂ケースを外してください。電池は両脇の端子をニッパーで切断して外してください。
外した電池は短絡しないようにテープを巻いて処理をしてください。



＜ESF センサ＞

コイン形リチウム電池の仕様

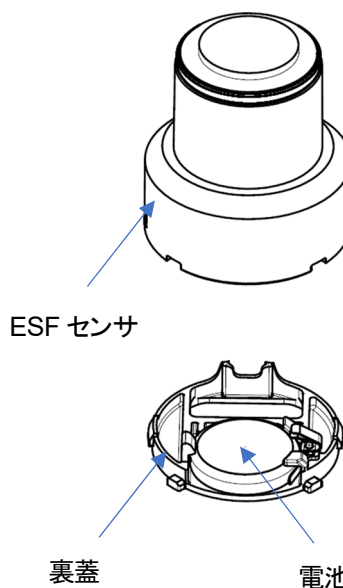
品名	二酸化マンガンリチウム電池
公称電圧	3.0V
公称容量	140mAh

取り外し方法

ESF センサの裏蓋(白い蓋)を外します。

電池は外した裏蓋にありますので取り外してください。

外した電池は短絡しないようにテープを巻いて処理をしてください。

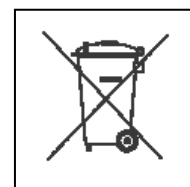


警告

- ESF センサには電解液が入っておりますので、絶対に分解しないでください。電解液に触れた場合、皮膚がただれる恐れがあり、目に入ると失明する恐れがあります。また、衣服に付着した場合、変色したり、穴が開く恐れがあります。万一、電解液に触れた場合は、触れた部分を直ちに水で十分に洗浄してください。

注記

- ▶ 本器には、電池を内蔵しています。
- ▶ クロスアウトリサイクルダストビンマークについて
このシンボルマークは、EU電池指令 2006/66/ECに該当する電池を内蔵している製品に表示されており、電池を適切な方法で廃棄していただく必要があります。
このシンボルマークは、電池を廃棄する際に一般ゴミとは分別して処理する必要があることを意味しています。



7

トラブルシューティング

このトラブルシューティングは、すべての不具合の原因を記載したものではありません。よく発生する不具合の原因究明の手助けとなるものを簡単に記載しています。

ここに記載されていない症状や対策を行っても復旧しない場合は、販売店または最寄りの弊社営業所までご連絡ください。

7-1 機器の異常

症状・表示	故障ランプ (FAULT)	原因	対策
電源が入らない	—	配線が間違っている	正しく配線してください。
		配線が端子台から外れている	正しく接続してください。
		電源系統の異常・瞬断	定格電圧を供給しているか確認してください。 無停電電源、電源ラインフィルター、絶縁トランスなどを見直し、追加などの措置をしてください。
		ケーブルの異常 (断線・未接続・短絡)	本器および周辺の関連機器を含めた配線を確認してください。
		ヒューズの断線	交換が必要です。弊社営業部までご連絡ください。
		内部回路の異常	交換が必要です。弊社営業部までご連絡ください。
異常な動作をする	—	突発的なノイズなどによる影響	電源供給をいったん止めて、再起動を行ってください。頻繁にこのような症状が起こる場合は、適切なノイズ対策を実施してください。 ノイズ対策を実施しても改善しない場合は、弊社営業部までご連絡ください。
センサ異常 (E-1)	 (点灯)	センサが未接続または接続不良	電源供給を止めて、センサの接続状態を確認してください。
		センサに故障が生じた	新しいセンサに交換してください。
		突発的なサージノイズなどによる影響	電源供給をいったん止めて、再起動を行ってください。頻繁にこのような症状が起こる場合は、適切なノイズ対策を実施してください。 ノイズ対策を実施しても改善しない場合は、弊社営業部までご連絡ください。
		本体(SD-3、SD-3SC)またはリモートセンサヘッド(GD-3)の内部配線が間違っている	本体(SD-3、SD-3SC)またはリモートセンサヘッド(GD-3)の内部配線を正しく配線してください。

症状・表示	故障ランプ (FAULT)	原因	対策
		本体 (SD-3SC) とリモートセンサヘッド (GD-3) 間のケーブルの異常	本体 (SD-3SC) とリモートセンサヘッド (GD-3) 間のケーブルを確認してください。
センサ異常 (E-1)	 (点灯)	本体 (SD-3、SD-3SC) またはリモートセンサヘッド (GD-3) のヒューズの断線	交換が必要です。弊社営業部までご連絡ください。
		本体 (SD-3、SD-3SC) またはリモートセンサヘッド (GD-3) の内部回路の異常	交換が必要です。弊社営業部までご連絡ください。
システム異常 (E-9)	 (点灯)	4 - 20 mA 出力の断線	電源供給を止めて、4 - 20 mA 出力の接続状態を確認してください。
		機器内部の ROM、RAM、EEPROM の故障	電源供給をいったん止めて、再起動を行ってください。それでも回復しない場合は、交換が必要です。弊社営業部までご連絡ください。
GD-3 異常 (E-1A)	 (点灯)	センサが未接続または接続不良	電源供給を止めて、センサの接続状態を確認してください。
		センサに故障が生じた	新しいセンサに交換してください。
		突発的なサージノイズなどによる影響	電源供給をいったん止めて、再起動を行ってください。頻繁にこのような症状が起こる場合は、適切なノイズ対策を実施してください。ノイズ対策を実施しても改善しない場合は、弊社営業部までご連絡ください。

7-2 指示値の異常

症状・表示	故障ランプ (FAULT)	原因	対策
- 指示値が上がった(下がった)まま戻らない - 検知場所にガス漏れなどの異常がないのにガス警報を発する - 応答が遅い	—	センサのゼロあるいはスパンが変化(ドリフト)した	ゼロ校正またはスパン校正を行ってください。
		干渉ガスの存在	溶剤などの干渉ガスの有無を確認し、適切に処置してください。
		スローリーク	検知対象ガスが微量に漏れている可能性があります。放置しておくと危険な状態になる可能性がありますので、ガス警報時と同じ対応をし、処置をしてください。
		環境の変化	ゼロ校正またはスパン校正を行ってください。
		ノイズの影響	電源供給をいったん止めて、再起動を行ってください。頻繁にこのような症状が起こる場合は、適切なノイズ対策を実施してください。ノイズ対策を実施しても改善しない場合は、弊社営業部までご連絡ください。

症状・表示	故障ランプ (FAULT)	原因	対策
		環境の急変	本器は急激な環境変化(温度など)により、警報指示が出る場合があります。 環境が頻繁に急変してしまう場合は使用できません。 お客様にて適切な対策を講じてください。
		センサ感度の劣化	新しいセンサに交換してください。
		校正ガス濃度が不適切	適切な校正用ガスを用意してください。
		センサ感度の劣化	新しいセンサに交換してください。
システム異常 (E-9)	—	時計異常	日時設定を行ってください。 EC の感度補正機能を使用している場合は、補正が正常に機能しなくなるおそれがあります。 頻繁にこのような症状が起こる場合は、内部時計の故障が考えられます。新しい内部時計に交換してください。 弊社営業部までご連絡ください。
使用温度範囲外 (E-27)	—	本器設置場所の環境温度が、使用温度範囲から外れている	本器の使用温度範囲は、原理により異なります。 環境温度が使用温度範囲外の場合は使用できません。 お客様にて適切な対策を講じてください。
センサ寿命警告 (E-8)	—	センサ寿命が近づいている	センサの交換を推奨します。 弊社営業部までご連絡ください。
センサ警告 (E-1)	—		弊社営業部までご連絡ください。

8

製品仕様

8-1 原理別検知対象ガス

8-1-1 非分散型赤外線吸収方式(赤外線式)

センサ型式	ガス名	ガス 記号	F.S.	1 デジット	第一 警報点	第二 警報点	校正用ガス (代替ガス)	使用 温度範囲	使用 湿度範囲	保証年数
IRF-1301*	メタン	CH ₄	100 %LEL	0.5 %LEL	25 %LEL	50 %LEL	CH ₄	-40 - 70 °C	95 %RH 以下 (結露なき こと)	3 年
IRF-1303*	イソブタン	i-C ₄ H ₁₀	100 %LEL	0.5 %LEL	25 %LEL	50 %LEL	i-C ₄ H ₁₀			
IRF-1317*	プロパン	C ₃ H ₈	100 %LEL	0.5 %LEL	25 %LEL	50 %LEL	C ₃ H ₈ (i-C ₄ H ₁₀)			
IRF-1435	二酸化炭素	CO ₂	2000 ppm	1 ppm	1000 ppm	-	CO ₂			
IRF-1436	二酸化炭素	CO ₂	5000 ppm	10 ppm	1000 ppm	-	CO ₂			
IRF-1433	二酸化炭素	CO ₂	10000 ppm	10 ppm	1000 ppm	-	CO ₂			
IRF-1437	二酸化炭素	CO ₂	2 vol%	0.005 vol%	1 vol%	-	CO ₂			
IRF-1438	二酸化炭素	CO ₂	5 vol%	0.010 vol%	1 vol%	-	CO ₂			
IRF-1439	二酸化炭素	CO ₂	10 vol%	0.01 vol%	1 vol%	-	CO ₂			
IRF-1334*	メタン	CH ₄	100 vol%	0.5 vol%	25 vol%	50 vol%	CH ₄			
IRF-1316*	エチレン	C ₂ H ₄	100 %LEL	0.5 %LEL	25 %LEL	50 %LEL	C ₂ H ₄ (CH ₄)			
IRF-1340*	イソブチレン	i-C ₄ H ₈	100 %LEL	0.5 %LEL	25 %LEL	50 %LEL	i-C ₄ H ₈ (i-C ₄ H ₁₀)			
IRF-1308*	ノルマルヘキサン	n-C ₆ H ₁₄	100 %LEL	0.5 %LEL	25 %LEL	50 %LEL	n-C ₆ H ₁₄ (i-C ₄ H ₁₀)			
IRF-1332*	ブタジエン	C ₄ H ₆	100 %LEL	0.5 %LEL	25 %LEL	50 %LEL	C ₄ H ₆ (CH ₄)			

※ 他の炭化水素ガスなどに干渉があります。

注記

- ▶ 使用温度範囲内で急変がない安定した場所へ設置してください。
- ▶ 校正する場合は、10 分以上の暖機をしてからゼロ校正、スパン校正を実施してください。
- ▶ 校正環境と測定環境の温度、湿度、圧力を同じにしてください。(温度特性、湿度特性、圧力特性で指示が変動し、場合によっては、センサの特性上、ゼロサプレッション値を超えることがあります。)
- ▶ ガス感度の小さいエチレンやブタジエンは、警報設定を 25 %LEL 以上にして使用することを推奨します。
- ▶ ベースガスの組成が校正時と測定時で大きく異なる場合、例えば、校正時は Air ベース、測定時は CO₂ ベースなどの場合は、赤外線吸収の特性上、対象ガス濃度が同じであっても指示がずれる場合があります。

- ▶ 寿命診断、自己診断機能を使用中に警告が表示された場合は、メンテナンスを実施してください。
 - ▶ 校正を実施する際は、IRF センサ用キャップを使用してください。IRF センサ用キャップを使用しないと校正精度が低下する場合があります。
 - ▶ IRF センサの保証年数は、検知対象ガスによらず一律 3 年です。
-

8-1-2 ニューセラミック式

センサ型式	ガス名	ガス 記号	F.S.	1 デジット	第一 警報点	第二 警報点	校正用 ガス	使用 温度範囲	使用湿度 範囲	保証年数
NCF-6318	メタン	CH ₄	100 %LEL	0.5 %LEL	25 %LEL	50 %LEL	CH ₄ ^{※2}	-40 - 70 °C	0 - 95 %RH 以下 ^{※1} (結露なきこと)	3 年
NCF-6319	VCM	VCM	100 %LEL	0.5 %LEL	25 %LEL	50 %LEL	i-C ₄ H ₁₀			
NCF-6320	水素	H ₂	100 %LEL	0.5 %LEL	25 %LEL	50 %LEL	H ₂ ^{※3}			

※1 絶対湿度 46 g/m³ 以下 (37 °C 95 %RH 相当)

※2 メタン校正要望の場合、または検知対象ガスがメタン、プロパン、エタンの場合は、NCF-6318 を使用してください。NCF-6318、NCF-6319 で検知対象ガスが重複していますが、上記に該当しない場合は NCF-6319 を使用してください。

※3 水素選択性を要望の場合は、NCF-6320 を使用してください。

注記

- ▶ 使用温度範囲内で急変がない安定した場所に設置してください。
- ▶ シリコンガス(有機シリコン系ガス)、または各種ハロゲンガス、硫化物ガス、酸性ガスが存在すると、センサ特性の著しい劣化が生じる場合があります。
- ▶ シリコン除去フィルター、および活性炭フィルターのオプションがあります。
- ▶ F.S.5000ppm 以下の仕様では、清浄雰囲気中で 120 分以上の暖機をしてからゼロ校正、スパン校正を実施してください。
- ▶ F.S.5000 ppm 以下の仕様では、雰囲気中の温湿度変化の影響が大きくなり、ゼロ点がドリフトする場合があります。その場合は、ゼロ追尾機能を ON にしてください。ただし、常時、ガスが存在する場合には、ゼロ追尾機能は使用できないため、他の検知原理の型式を使用することを推奨します。
- ▶ 検知対象ガス以外の可燃性ガスでも指示値が動く場合があります。
- ▶ 酸素濃度が低下すると指示値が低下する場合があります。
- ▶ ベースガスとして高濃度の CO₂、Ar、He など熱伝導率が高いガスが共存していると、干渉影響を受ける場合があります。
- ▶ 吸引方式で蒸気圧の低いガスを検知する場合、高温側から吸引し、低温側で検知するときにガスがミスト化し、センサ内部に結露、または焼結の目詰まりが発生する場合があります。ご使用する際には、蒸気圧に注意してください。
- ▶ 寿命診断、自己診断機能を使用中に警告が表示された場合は、メンテナンスを実施してください。
- ▶ 校正を実施する際は、可燃性センサ用キャップを使用してください。可燃性センサ用キャップを使用しないと校正精度が低下する場合があります。
- ▶ ゼロ校正、またはスパン校正を実施した雰囲気温度に対して±40 °C以上の温度変化が生じた場合、指示精度が低下する場合があります。その場合は、再度、ゼロ校正、またはスパン校正を実施してください。
- ▶ 外部から強い衝撃や振動を受けると指示値が変動する場合があります。その場合は、ゼロ校正、スパン校正を実施してください。
- ▶ 100 %LEL 以上の高濃度ガスが長時間連続的に接触するとゼロ点が増加する場合があります。その場合は、ゼロ校正、スパン校正を実施してください。
- ▶ センサ交換時はセンサが高温になっている場合があります。センサ交換時には火傷に注意してください。センサが熱い場合は、電源を切り、温度が下がるまで放置してください。
- ▶ センサ上面にテフロン膜が搭載されています。テフロン膜が破損すると特性に影響が生じる可能性があります。テフロン膜を強く押したり、鋭利なもので傷つけないようにしてください。
- ▶ NCF センサの保証年数は、検知対象ガスによらず一律 3 年です。

8-1-3 半導体式

センサ型式	ガス名	ガス 記号	F.S.	1 デジット	第一 警報点	第二 警報点	校正用ガス	使用 温度範囲	使用 湿度範囲	保証年数
SGF-8563	酸化エチレン	EO	100 ppm	1 ppm	25 ppm	50 ppm	EO	-20 - 65 °C	20 - 95 %RH 以下* (結露なきこと)	3 年
SGF-8562	硫化水素	H ₂ S	100 ppm	1 ppm	25 ppm	50 ppm	H ₂ S			

※ 絶対湿度 46 g/m³ 以下 (37 °C 95 %RH 相当)

注記

- ▶ シリコンガス(有機シリコン系ガス)、または各種ハロゲンガス、硫化物ガス、酸性ガスが存在すると、センサ特性の著しい劣化が生じる場合があります。
- ▶ シリコン除去フィルター、および活性炭フィルターのオプションがあります。
- ▶ 校正用ガスは使用環境の湿度に合わせて作製してください。
- ▶ 校正する場合は、清浄雰囲気中で無通電時間に応じた暖機をしてからゼロ校正、スパン校正を実施してください。暖機時間は、下記の＜半導体式センサの暖機時間＞を参照してください。
- ▶ 検知対象ガス以外の可燃性ガスでも指示値が動く場合があります。
- ▶ 設置場所の環境変化(温度、湿度など)でも指示値が動く場合があります。
- ▶ 酸素濃度が低下すると指示値が低下する場合があります。
- ▶ ベースガスとして高濃度の CO₂、Ar、He など熱伝導率が大いガスが共存していると、干渉影響を受ける場合があります。
- ▶ 吸引方式で蒸気圧の低いガスを検知する場合、高温側から吸引し、低温側で検知するときにガスがミスト化し、センサ内部に結露、または焼結の目詰まりが発生する場合があります。ご使用する際には、蒸気圧に注意してください。
- ▶ 寿命診断、自己診断機能を使用中に警告が表示された場合は、メンテナンスを実施してください。
- ▶ 校正を実施する際は、可燃性センサ用キャップを使用してください。可燃性センサ用キャップを使用しないと校正精度が低下する場合があります。
- ▶ ゼロ校正、またはスパン校正を実施した雰囲気温度に対して±20 °C以上の温度変化が生じた場合、指示精度が低下する場合があります。その場合は、再度、ゼロ校正、またはスパン校正を実施してください。
- ▶ 外部から強い衝撃や振動を受けると指示値が変動する場合があります。その場合は、ゼロ校正、スパン校正を実施してください。
- ▶ 高濃度ガスが長時間連続的に接触するとゼロ点が増える場合があります。その場合は、ゼロ校正、スパン校正を実施してください。
- ▶ 連続的にガスが存在する環境では指示値が低下する場合があります。
- ▶ センサ交換時はセンサが高温になっている場合があります。センサ交換時には火傷に注意してください。センサが熱い場合は、電源を切り、温度が下がるまで放置してください。
- ▶ センサ上面にテフロン膜が搭載されています。テフロン膜が破損すると特性に影響が生じる可能性があります。テフロン膜を強く押しついたり、鋭利なもので傷つけないようにしてください。
- ▶ 校正時の指示値がゼロサプレス以下の場合は、校正ができません。
校正時に希望の校正ガスを導入して指示値がゼロサプレスよりも低くなった場合は、指示値がゼロサプレスよりも高くなるガスで校正してから、希望の校正ガスで校正してください。
- ▶ 電源投入時は暖機時間(3 分)経過後も無通電の時間や環境によって、指示値が動く場合があります。その場合は、ゼロになるまでお待ちください。
- ▶ SGF センサの保証年数は、検知対象ガスによらず一律 3 年です。

<半導体式センサの暖機時間>

無通電期間	暖機時間
10 分以内	30 分以上
1 時間以内	2 時間以上
24 時間以内	4 時間以上
72 時間以内	24 時間以上
10 日以内	2 日以上
1 ヶ月未満	7 日以上
1 - 3 ヶ月未満	14 日以上
3 ヶ月以上	1 ヶ月以上

8-1-4 熱線型半導体式

センサ型式	ガス名	ガス 記号	F.S.	1 デジット	第一 警報点	第二 警報点	校正用ガス	使用 温度範囲	使用 湿度範囲	保証年数
SHF-8601	メタン	CH ₄	5000 ppm	25 ppm	2000 ppm	4000 ppm	CH ₄	-30 - 70 °C	20 - 95 %RH 以下※ (結露なきこと)	3 年
SHF-8601	一酸化炭素	CO	1000 ppm	10 ppm	250 ppm	500 ppm	CO	0 - 70 °C		
SHF-8602	イソブタン	i-C ₄ H ₁₀	2000 ppm	10 ppm	500 ppm	1000 ppm	i-C ₄ H ₁₀	-30 - 70 °C		
SHF-8603	水素	H ₂	2000 ppm	10 ppm	500 ppm	1000 ppm	H ₂	-30 - 70 °C		

※ 絶対湿度 46 g/m³ 以下 (37 °C 95 %RH 相当)

注記

- ▶ シリコンガス(有機シリコン系ガス)、または各種ハロゲンガス、硫化物ガス、酸性ガスが存在すると、センサ特性の著しい劣化が生じる場合があります。
- ▶ シリコン除去フィルター、および活性炭フィルターのオプションがあります。
- ▶ 校正用ガスは使用環境の湿度に合わせて作製してください。
- ▶ 校正する場合は、清浄雰囲気中で無通電時間に応じた暖機をしてからゼロ校正、スパン校正を実施してください。暖機時間は、下記の＜熱線型半導体式センサの暖機時間＞を参照してください。
- ▶ 検知対象ガス以外の可燃性ガスでも指示値が動く場合があります。
- ▶ 設置場所の環境変化(温度、湿度など)でも指示値が動く場合があります。
- ▶ 酸素濃度が低下すると指示値が低下する場合があります。
- ▶ ベースガスとして高濃度の CO₂、Ar、He など熱伝導率が高いガスが共存していると、干渉影響を受ける場合があります。
- ▶ 吸引方式で蒸気圧の低いガスを検知する場合、高温側から吸引し、低温側で検知するときにガスがミスト化し、センサ内部に結露、または焼結の目詰まりが発生する場合があります。ご使用する際には、蒸気圧に注意してください。
- ▶ 寿命診断、自己診断機能を使用中に警告が表示された場合は、メンテナンスを実施してください。
- ▶ 校正を実施する際は、可燃性センサ用キャップを使用してください。可燃性センサ用キャップを使用しないと校正精度が低下する場合があります。
- ▶ ゼロ校正、またはスパン校正を実施した雰囲気温度に対して±20 °C以上の温度変化が生じた場合、指示精度が低下する場合があります。その場合は、再度、ゼロ校正、またはスパン校正を実施してください。
- ▶ 外部から強い衝撃や振動を受けると指示値が変動する場合があります。その場合は、ゼロ校正、スパン校正を実施してください。
- ▶ 高濃度ガスが長時間連続的に接触するとゼロ点が増える場合があります。その場合は、ゼロ校正、スパン校正を実施してください。
- ▶ 連続的にガスが存在する環境では指示値が低下する場合があります。
- ▶ F.S.を超えるガスを検知した場合、校正値がずれる可能性があります。F.S.を超えるガスが存在する可能性がある場合、センサ保護機能を有効にすると影響を軽減できます。ただし、センサ保護機能が有効の場合、F.S.オーバーになると、センサへの通電を遮断するため、復帰するまでの間は検知が不可能となります。センサ保護の状態から復帰する際は周囲の環境が清浄な状態で実施してください。
長期間(1日以上)センサ保護の状態になっていた場合は、保護状態期間に応じた暖機を実施してください。(センサ保護機能を有効にすると、オーバーロッキング機能も有効になります。)
- ▶ センサ交換時はセンサが高温になっている場合があります。センサ交換時には火傷に注意してください。センサが熱い場合は、電源を切り、温度が下がるまで放置してください。
- ▶ 電源投入時は暖機時間(3分)経過後も無通電の時間や環境によって、指示値が動く場合があります。その場合は、ゼロになるまでお待ちください。
- ▶ SHF センサの保証年数は、検知対象ガスによらず一律 3 年です。

<熱線型半導体式センサの暖機時間>

無通電期間	暖機時間	
	SHF-8603	他の SHF センサ
10 分以内	10 分以上	1 時間以上
1 時間以内	30 分以上	2 時間以上
24 時間以内	1 時間以上	4 時間以上
72 時間以内	4 時間以上	24 時間以上
10 日以内	2 日以上	2 日以上
1 ヶ月未満	7 日以上	7 日以上
1 - 3 ヶ月未満	14 日以上	14 日以上
3 ヶ月以上	1 ヶ月以上	1 ヶ月以上

※ SHF-8603 と他の SHF センサでは暖機時間が異なるので注意してください。

8-1-5 定電位電解式

センサ型式	ガス名	ガス記号	F.S.	1デシット	第一警報点	第二警報点	校正用ガス	使用温度範囲	使用湿度範囲 (結露なきこと)	保証年数
ESF-A24A	二酸化窒素	NO ₂	15 ppm	0.1 ppm	5.0 ppm	10.0 ppm	NO ₂	-40 - 70 °C	20 - 90 %RH	3 年
ESF-A24P	一酸化炭素	CO	150 ppm	1 ppm	50 ppm	100 ppm	CO	-40 - 70 °C	20 - 90 %RH	3 年
ESF-A24R	硫化水素	H ₂ S	100 ppm	1 ppm	20 ppm	40 ppm	H ₂ S	-40 - 70 °C	20 - 90 %RH	3 年
ESF-A24RH ^{※1}	硫化水素	H ₂ S	30 ppm	0.2 ppm	10 ppm	20 ppm	H ₂ S	-40 - 70 °C	40 - 95 %RH	3 年
ESF-B22	アンモニア	NH ₃	75 ppm	0.5 ppm	25 ppm	50 ppm	NH ₃	-40 - 70 °C	30 - 80 %RH	3 年 ^{※2}
ESF-B22	アンモニア	NH ₃	150 ppm	0.5 ppm	50 ppm	100 ppm	NH ₃	-40 - 70 °C	30 - 80 %RH	3 年 ^{※2}
ESF-B22	アンモニア	NH ₃	400 ppm	1 ppm	25 ppm	300 ppm	NH ₃	-40 - 70 °C	30 - 80 %RH	3 年 ^{※2}
ESF-X24P2	酸素	O ₂	25 %	0.1 %	18.0 %	18.0 %	N ₂	-40 - 70 °C	20 - 90 %RH	3 年
ESF-C92	塩素	CL ₂	1.5 ppm	0.01 ppm	0.5 ppm	1.0 ppm	CL ₂	-20 - 70 °C	30 - 80 %RH	3 年
ESF-C92	塩素	CL ₂	3 ppm	0.02 ppm	1 ppm	2 ppm	CL ₂	-20 - 70 °C	30 - 80 %RH	3 年
ESF-C92	塩素	CL ₂	10 ppm	0.1 ppm	3 ppm	10 ppm	CL ₂	-20 - 70 °C	30 - 80 %RH	3 年

※1 高湿度対応センサです。

※2 室温環境下での使用において。それ以外の条件で使用する場合、保証年数は2年になります。

注記

- ▶ (1)製品の保管・流通時の注意点
 - ・センサをセンサ容器に保管してください。
- ▶ (2)校正時の注意点
 - ・SD-3EC/ECS/ECB 用校正キャップを使用してください。
 - ・流量を $0.5 \pm 0.1 \text{ L/min}$ にしてください。
 - ・正常雰囲気中でゼロ校正、スパン校正を実施してください。
 - ・バランスガスにはエアまたは N₂ を使用してください。
 - ・O₂ センサのゼロ校正は N₂ を使用してください。
- ▶ (3)一般的な動作に関する注意点
 - ・-25～55℃を外れる環境で長期間使用する場合は使用環境に十分なじませて校正してください。
 - ・高湿度または低湿度環境で使用する、指示精度が低下することがあります。
 - ・低温で応答が遅くなる場合があります。
 - ・55～70℃の範囲での使用は積算 1 週間としてください。
 - ・高温や低温で校正し、大きな温度変化があった場合は指示精度が低下することがあります。
 - ・急激な温度、湿度、圧力の変化で指示が変動することがあります。
 - ・拡散式検知器の場合、ガスの特性上、風速の影響を受けることがあります。
 - ・寿命診断、自己診断機能使用中に警告が表示された場合は、メンテナンスを実施してください。
- ▶ ESF センサの保証年数は、センサ型式毎に異なります。上表を参照してください。

製品保証

1. 取扱説明書・本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で、お買い上げの日から3年以内に故障した場合には無料修理いたします。
2. 修理やメンテナンスなどアフターサービスについては、本社営業部または最寄りの営業所などにお問合せください。
3. 遠隔地への出張修理を行った場合は、出張に要する実費を申し受けます。
4. 保証期間内でも、次の場合には有料修理とさせていただきます。
 - (イ) 使用上の誤りおよび不当な修理又は改造による故障および損傷。
 - (ロ) 弊社および弊社指定のサービス代理店以外で修理または改造された場合の故障および損傷。
 - (ハ) お買い上げ後の取付場所の移動、輸送、転倒、落下、保管上の不備などによる故障および損傷。
 - (ニ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、異常電圧、定格外の使用電源(電圧、周波数)などの外部要因による故障および損傷。
 - (ホ) 故障の原因が本製品以外に起因する場合。
 - (ヘ) 消耗部品(電池・ヒューズなど)の交換。

センサ保証

1. 取扱説明書・本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で、お買い上げの日または、センサ有料交換日から3年以内(一部センサを除く)に故障した場合には無料交換いたします。各センサ型式の保証年数については、
‘8-1 原理別検知対象ガス’を参照してください。
但し、購入日または、センサ有料交換日から年1回以上の点検をセンサ保証の条件とさせていただきます。
2. 修理やメンテナンスなどアフターサービスについては、本社営業部または最寄りの営業所などにお問合せください。
3. 遠隔地への出張交換を行った場合は、出張に要する実費を申し受けます。
4. 保証期間内でも、次の場合には有料交換とさせていただきます。
 - (イ) 取扱説明書・本体貼付ラベルなどの注意書きを守らずに使用した場合。
 - (ロ) 弊社および弊社指定のサービス代理店以外で修理または改造された場合の故障および損傷。
 - (ハ) お買い上げ後の取付場所の移動、輸送、転倒、落下、保管上の不備などによる故障および損傷。
 - (ニ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、異常電圧、定格外の使用電源(電圧、周波数)などの外部要因による故障および損傷。
 - (ホ) 故障の原因が本製品以外に起因する場合。
 - (ヘ) 設置環境中の共存ガス(酸性ガス、アルカリ性ガス、アルコール、シリコン等)の影響によるセンサガス感度の変化、故障及び損傷。

改訂履歴

版	改訂内容	発行日
0	初版	2022.2.7
1	P38 適切な電源供給および電線の使用に関する情報を追加 P88、101 ESF センサのラインナップ追加	2023.6.7
2	P6 型式及びコードを修正 P31 GD-3ECB 用ダクトマウントキットを追加 P52 GD-3ECB 用ダクトマウントキットの外寸及びダクト径を追加	2025.7.10
3	全面改訂 (SD-3GHS、SD-3DGHS、GD-3GHS を削除)	2025.8.4